

| 住所         | 商號     | 氏名    | 電話            |
|------------|--------|-------|---------------|
| 松屋町四六番地    | 磯野洋家具店 | 伊藤千代吉 | 二九七三          |
| 上竹町七三番地    |        | 磯野清三  |               |
| 矢島町二丁目五八番地 |        | 板谷藤吉  |               |
| 真砂町八丁目二一番地 |        | 長谷川寛三 |               |
| 金園町六丁目四番地  |        | 林留吉   |               |
| 真砂町        |        | 豊田桂一  |               |
| 本町五丁目二九番地  |        | 大橋喜一  |               |
| 間ノ町一丁目     |        | 和田兼次郎 |               |
| 神田町五丁目     | 川野洋家具店 | 川野金治郎 | 三一五六<br>二〇九二呼 |
| 忠節町二丁目九番地  |        | 河村豊吉  | 三三七七呼         |
| 北高岩町七      |        | 角原徳次郎 |               |
| 栗矢田町二五番地   |        | 片桐覺雄  |               |
| 美園町一丁目一九番地 |        | 吉村政一  |               |
| 白木町八六番地    | 田邊洋家具店 | 田邊彌七  | 二七〇九呼         |

|            |        |        |       |
|------------|--------|--------|-------|
| 龍田町二丁目六番地  | 野村洋家具店 | 村瀬利夫   | 〇一四八呼 |
| 室津町一丁目二五番地 |        | 直井政五郎  | 三一九三呼 |
| 神明町五       |        | 中島源一   |       |
| 金寶町一丁目七番地  |        | 野村利一   | 二二三二  |
| 金町一一番地     | 山本洋家具店 | 山本榮次郎  | 一三四六  |
| 七軒町二〇番地    | 山本木工所  | 山本治三郎  | 二三九八  |
| 泉町二一番地     |        | 山上伊三郎  | 二三九六呼 |
| 泉町六二番地     |        | 山口洋家具店 | 二五四六  |
| 元町五丁目一七番地  |        | 山口吉丸   |       |
| 龍田町一丁目九番地  |        | 山田保雄   |       |
| 真砂町一丁目     |        | 松尾清    |       |
| 美園町一丁目     |        | 後藤長義   | 三〇九四呼 |
| 羽根町五       |        | 近藤勇    | 二五九三呼 |
| 金園町四丁目二二番地 |        | 小枝徳男   |       |
| 長住町一丁目二番地  |        | 淺井京作   | 二七九二呼 |
| 本郷町三丁目二八番地 |        | 安藤市太郎  |       |

本莊沖ノ橋區

上竹町三八番地

高野町七丁目一六番地

八幡町西組一一番地

末廣町四番地

本郷町二丁目

高砂町三丁目一番地

末廣町三〇番地

矢島町二丁目二一番地

大寶町一丁目七番地

瀬川洋家具店

杉本 逸 二

〇二一九

第二項 非組合員

(イロハ順)

住 所

商 號

氏 名

電 話

鶴田町一丁目

神田町一丁目五番地

菅原町三丁目

山本 商店

正 山 木 來

二二七八

淺野 清次 郎

深 田 傳 吉

溝 口 秀 吉

篠 田 末 吉

島 博 作

白 木 益 長

清 水 萬 藏

菱 田 禮 助

瀬 川 保

服 部 次 郎

山 本 泰 之 助

神寶町一丁目  
徹明町一丁目

森山家具店

後 藤 吉  
森 山 文 治

第二款 和家具

第一項 岐阜簞笥商組合員

(イロハ順)

住 所

商 號

氏 名

電 話

元町三丁目

安良田町一丁目

美殿町

同

忠節町

同

金屋町中

靱屋町

美園町四丁目

京町一丁目

榊健簞笥店

林 健 二

安田屋簞笥店

花 木 德 一

河合道具店

鷹 見 伴 七

白子屋簞笥店

河 合 龜 吉

中村屋簞笥店

中 村 豐 次 郎

マ ス 彌

中 村 友 次 郎

尾 張 屋

山 崎 増 太 郎

指 幸

安 藤 房 吉

森 田 吉 三 郎

篠 田 幸 次 郎

〇六八七

〇二九二呼

一三六二

一五九一

第二項 岐阜箏箏長持製造組合員 (イロハ順)

第一目 市内之部  
住 所 商 號 氏 名 電 話

|         |       |
|---------|-------|
| 忠節町一丁目  | 飯沼源作  |
| 龍田町六丁目  | 堀三郎   |
| 白山町一丁目  | 堀日芳   |
| 金屋横町三番地 | 豊田力   |
| 同       | 小川力三  |
| 長良西浦町   | 小原駒吉  |
| 長良北町三丁目 | 加藤桂吉  |
| 同 二丁目   | 片岡藤市  |
| 初音町     | 河合伊三郎 |
| 東材木町    | 河村政雄  |
| 上茶屋町    | 吉田釜吉  |
| 松ヶ枝町    | 吉田宮吉  |

第二目 市外之部

|         |      |
|---------|------|
| 長良雄總    | 田中亨一 |
| 長良高見    | 武藤兼助 |
| 安良田町六丁目 | 村瀬利男 |
| 長旗町二丁目  | 熊田孫一 |
| 同       | 熊田俊雄 |
| 長良田ヶ脇   | 山田俊雄 |
| 今町三丁目   | 松井友吉 |
| 上太田町    | 福田   |
| 長良東浦    | 後藤民三 |
| 長良新道    | 後藤藤三 |
| 駒爪町二丁目  | 青木菊松 |
| 鶴舞町一丁目  | 清水泰介 |
| 長良中町    | 清水政一 |
| 長良天神    | 白木米一 |
| 笹土居町    | 關谷貞一 |

住 所  
 稻葉郡岩野田村岩崎  
 山縣郡大桑村  
 稻葉郡常盤村字城田寺  
 稻葉郡上芥見  
 同 同  
 山縣郡大桑村  
 同 梅原村  
 稻葉郡那加村字土山

第三項 岐阜指物業組合員

(イロハ順)

住 所 商 號

忠節町一丁目  
 白木町  
 忠節町二丁目  
 加納新町

氏 名  
 井上芳雄  
 井上興三郎  
 井川砂雄  
 井川幾郎

電 話

一〇九一呼

商 號

氏 名  
 長谷川良市  
 西垣玉雄  
 河井庄太郎  
 葛木義一  
 熊崎吉一  
 矢島銀市  
 小谷半助  
 淺野俊司

電 話

上竹町  
 殿町四丁目  
 本町六丁目  
 笹土居町  
 西野町三丁目  
 安良田町一丁目  
 泉町  
 八ッ梅町三丁目  
 加納町七丁目  
 金町四丁目  
 眞砂町三丁目  
 初音町  
 元町四丁目  
 加納魚屋町  
 西園町  
 本町二丁目

板谷長次郎  
 石原薰七郎  
 石田増次郎  
 市原喜見三郎  
 市川謙一  
 林顯吉  
 林勇助  
 林留吉  
 長谷川幸作  
 萩原謙次郎  
 西村勇三  
 西村留吉  
 堀忠七  
 堀江佐太郎  
 豊田清一  
 大塚俊一

矢島町二丁目  
 神田町九丁目  
 金町一丁目  
 今川町  
 矢島町二丁目  
 矢島町一丁目  
 上太田町  
 忠節町一丁目  
 御室町  
 金園町五丁目  
 金町六丁目  
 白木町  
 長旗町一丁目  
 金園町七丁目  
 金園町六丁目  
 松阪町

大塚乾次郎  
 大橋祐華  
 大洞與三郎  
 大洞與三郎  
 大洞與三郎  
 太田悅三郎  
 奥村春之丞  
 奥野廣三郎  
 小田辰吉  
 小木曾寅吉  
 小原武七  
 恩田辰二  
 若井眞一郎  
 鷲見政吉  
 河合信二  
 金森由太郎  
 片桐文六

金龍町三丁目  
 上室町二丁目  
 若宮町七丁目  
 矢島町一丁目  
 下竹町  
 栃木町  
 殿町二丁目  
 美園町四丁目  
 末廣町  
 金龍町四丁目  
 眞砂町六丁目  
 安良田町四丁目  
 太田町  
 金園町七丁目  
 本町四丁目  
 中竹屋町

横山和三郎  
 吉田吾平治  
 吉田武雄  
 田中久吉  
 高橋松次郎  
 高橋養一  
 曾我部信雄  
 中川喜三郎  
 中川併三  
 中村三之助  
 中村錦哉  
 中島金左衛門  
 名田彦太郎  
 長尾幸三郎  
 武藤傳次  
 武藤市太郎

白木町  
 若松町  
 忠節町三丁目  
 大門町  
 笹土居町  
 本町二丁目  
 高森町一丁目  
 本郷町一丁目  
 殿町四丁目  
 金園町五丁目  
 金屋町二丁目  
 甚衛町  
 東材木町  
 金龍町三丁目  
 西川端町  
 榮町

字野木工所

村瀬庄吉  
 村瀬精一  
 村瀬象造  
 宇野春吉  
 野原金次郎  
 桑原新三郎  
 葛谷關太郎  
 山田又一郎  
 山田英一  
 山田春齊  
 山田新六  
 山田利三郎  
 山口進一  
 矢島春吉  
 松尾國三郎

眞砂町六丁目  
 昭和町  
 眞砂町一丁目  
 神田町一丁目  
 上竹町  
 鶴田町二丁目  
 春日町二丁目  
 朝日町  
 本郷町四丁目  
 安良田町三丁目  
 本郷町一丁目  
 金園町七丁目  
 中竹屋町  
 本郷町三丁目  
 加納西久保見  
 殿町二丁目

松波徳之助  
 松波由太郎  
 松葉與市  
 松久桑三郎  
 深尾正巳  
 古川繁治  
 藤吉勳二  
 小森宇市  
 小林伊造  
 小島直臣  
 江崎源六  
 江崎寅次郎  
 青木重藏  
 淺野喜根三郎  
 淺野菊次郎  
 佐藤傳治郎

高岩町  
 金町七丁目  
 佐久間町  
 眞砂町七丁目  
 天神町  
 安良田町一丁目  
 金園町三丁目  
 眞砂町五丁目  
 下新町  
 眞砂町三丁目  
 加納天神町  
 加納南廣江町  
 殿町二丁目  
 大正町  
 金園町五丁目  
 殿町二丁目

酒井代吉  
 柳原由謨  
 北川要吉  
 北川泰次郎  
 桐山一男  
 桐山福太郎  
 木俣新太郎  
 宮部作兵衛  
 篠田惣吉  
 白木梅市  
 白木勇平  
 島田芝三郎  
 島田勇助  
 信田孝  
 平林與三松  
 平下幸一

一四四二呼  
 一七九二呼  
 三四九一

今町三丁目  
 上大桑町  
 伊波通り一丁目  
 松屋町  
 木造町

平田丈四郎  
 森川一作  
 諸戸徳兵衛  
 關尾濱治郎  
 鈴木常次郎

〇二〇九呼

第二節 大垣市

第一款 和家具

第一項 大垣箆筒業者

(イロハ順)

住

所

商

號

氏

名

電話

神田町  
 岐阜町  
 竹島町  
 同  
 柳原町

指傳商店  
 蓬來屋  
 多田屋  
 厚見屋

山田傳十郎  
 山川信次  
 五島傳吉  
 青木文右衛門  
 青木武作

五  
 一

第二款 洋家具及和家具

第一項 大垣和洋指物業組合員

(イロハ順)

住

第一目 洋家具之部  
所 商 號

氏 名

電 話

竹島町  
廓町三番地  
郭町  
桐ヶ崎町  
久瀬川町  
南新町  
高屋町  
馬場町  
田町堤通り  
本馬場町

尾崎洋家具店

武内商店

石原文兵衛  
尾崎重吉  
河村誠一  
河村留吉  
加藤昇太郎  
加納末藏  
多賀新太郎  
武内國雄  
松永廣二  
清水勝之丞

七 八  
一 四 七

一〇二四

第二目 建具指物欄間之部

住

所

商 號

氏 名

電 話

南顔町  
北新町  
寺内町  
番組町  
馬場町  
小原町  
傳馬町  
久瀬川町  
神田町  
寺内町  
船町  
東長町  
西ノ川  
南新町  
久瀬川町

市岡利吉  
石田一治  
岩田春治  
猪俣藤吉  
林治太郎  
土井元吉  
大橋倍次郎  
大橋榮作  
大岡光四郎  
小川嘉六  
小川慶三  
小川憲三  
岡田要吉  
河合喜吉  
河合健治



林町  
栗屋町  
本馬場町  
東今岡町  
東長町  
西外側町  
船町  
久瀬川町  
外側町  
南顔町  
表佐  
林町  
西大垣  
久瀬川町  
桐ヶ崎町  
岐阜町

川合定吉  
川瀬覺市  
加納多三郎  
金森藤四郎  
米山與一市  
米山英一市  
米山定吉  
横山寅吉  
吉岡賢市  
種田常吉  
多賀金市  
高橋信太郎  
高見一郎  
高木彌一郎  
高田仁三郎

番組町  
高屋町  
中町  
久瀬川町  
岐阜町  
林新道  
西今岡町  
本馬場町  
船町  
北新町  
馬場町  
北新町五三四番地  
御殿町  
下町  
同  
高屋新道

田中善太郎  
土田捨造  
中島靜三  
中島治平  
中島卯作  
中島光二郎  
中川光高  
永田吉三郎  
上野政一  
野村政三  
野村藤吉  
國枝仙之助  
國枝宗太郎  
黒田芳道  
黒田豊治郎  
矢野久三

高塚町  
御殿町  
西今岡町  
林町  
北新町  
桐ヶ崎町  
靜里  
寺内町  
南新町  
寺内町  
中町  
本馬場町  
寺内町  
靜里  
藤江町  
宮町

矢野惣六  
安田彌市  
柳瀬信吉  
山田周吉  
馬淵一松  
深津豊松  
小寺宗太郎  
江崎鎌造  
安藤太吉  
榊原源造  
木村松助  
木村金五郎  
北島當三郎  
桐山忠吉  
清水賢三  
篠田新造

住 所  
武儀郡關町常盤町  
海津郡今尾町下本町  
不破郡垂井町  
吉城郡船津町  
大野郡高山町

第三節 郡 部  
第一款 和洋家具

商 號  
指勘商店  
山口箆笥店  
神谷德次郎  
寶井一郎  
山口甚藏  
船津木工株式會社  
飛彈木工株式會社

電 話

三呼

六六一

桐ヶ崎町  
寺内町  
新馬場町  
本馬場町  
中町  
寺内町

大垣木工所

篠田留吉  
森川太郎  
說田武市  
說田重吉  
菅井秀夫  
杉野吾市

### 第三章 三重縣

#### 第一節 宇治山田市

##### 第一款 洋家具並和家具

##### 第一項 宇治山田家具商組合員

(イロハ順)

| 住 所      | 商 號         | 氏 名       | 電 話  |
|----------|-------------|-----------|------|
| 常盤町      |             | 橋 爪 辰 雄   |      |
| 一ノ木町     |             | 大 橋 佐 七   |      |
| 河崎町      |             | 奥 井 貞 吉   |      |
| 曾禰町      |             | 米 倉 榮 治 郎 |      |
| 宮後町      |             | 辻 幸 吉     |      |
| 曾禰町      |             | 永 田 鐵 造   | 一三四三 |
| 同        |             | 村 田 源 三   |      |
| 河崎町二三八番地 | 合名會社山本久治郎商店 | 山 本 久 治 郎 | 六〇四  |

##### 第二項 非組合員

(イロハ順)

| 住 所      | 氏 名       | 電 話  |
|----------|-----------|------|
| 一ノ木町     | 山 本 甚 三 郎 | 一九四  |
| 岡本町      | 山 添 久 吉   | 八二六乙 |
| 豐川町      | 水 口 忠 太 郎 |      |
| 曾禰町      | 東 川 耕 平   |      |
| 八日市場町六番地 | 吉 川 幸 太 郎 | 五五二  |
| 宮町       | 辻 本 幸 吉   |      |
| 浦田町      | 中 北 儀 男   |      |
| 本町       | 村 田 保 藏   |      |

##### 第二款 和家具

##### 第一項 宇治山田漆器同業組合員

(イロハ順)

| 住 所 | 商 號 | 氏 名         | 電 話 |
|-----|-----|-------------|-----|
| 岡本町 | は し | 橋 本 佐 兵 衛   | 四六  |
| 宮後町 | ぬ し | 竹 大 西 竹 三 郎 |     |

|     |        |      |
|-----|--------|------|
| 河崎町 | 岡村長四郎  | 四三〇  |
| 同   | 和田久五郎  | 一三三六 |
| 岡本町 | 若井利兵衛  | 四六七  |
| 同   | 片岡善兵衛  | 五五   |
| 曾禰町 | 中東政雄   | 九三七  |
| 河崎町 | 村田仙右衛門 | 七    |
| 同   | 久保田五兵衛 | 二二五  |
| 吹上町 | 二見光之助  | 五九五  |

備考

右は第一部員(問屋)のみを掲げ第二部員(生地部)及び第三部員(塗部)は何れも第一部員に從屬するものなるを以て掲載の要を認めず之を省略せり。

第二項 神都(宇治山田市) 建具商組合員 (イロハ順)

| 住所  | 氏名    | 電話 |
|-----|-------|----|
| 河崎町 | 岩田幸三郎 |    |
| 中島町 | 石橋己吉  |    |
| 二俣町 | 市村次郎  |    |

- 宮後町後野
- 船江町
- 浦口町山名
- 宮町上之久保
- 宮町
- 常盤町
- 宮川町
- 浦田町
- 櫻木町
- 宮川町
- 八日市場町西ノ口
- 八日市場町
- 一ノ木町
- 吹上町松原
- 船江町
- 常盤町大間廣

|       |       |      |      |      |       |      |     |      |      |       |       |       |      |      |       |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|
| 今井房次郎 | 池山徳次郎 | 林藤次郎 | 濱川久助 | 西口音吉 | 西川多喜藏 | 西山庄平 | 富永豊 | 大間米吉 | 奥野米吉 | 若宮梅太郎 | 和田幸次郎 | 河村幸次郎 | 川口熊藏 | 栢木久松 | 栢原徳三郎 |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|

浦口町山名  
 宮後町後野  
 常盤町  
 宮後町後野  
 京町  
 吹上町御屋敷  
 同 松原  
 京町  
 八日市場町  
 新町  
 曾禰町新町  
 浦口町山名  
 京町  
 二俣町  
 京町  
 二俣町

村城定次郎  
 村田繁太郎  
 上田吉藏  
 内田芳助  
 野口末吉  
 野村房吉  
 野村清吉  
 桑井留藏  
 久保宗五郎  
 山口清吉  
 山口仙太郎  
 山本清一  
 山下喜一郎  
 山根捨吉  
 松岡乙七

浦口町茶屋町  
 吹上町松原  
 岡本町  
 京町  
 櫻木町  
 常盤町西世古  
 吹上町松原  
 岡本町  
 浦田町  
 浦口町山名  
 宮後町昭和通り  
 曾禰町  
 同 瓢箪町  
 吹上町松原  
 二俣町  
 岩淵町

吉田勘六  
 吉野末吉  
 田邊種助  
 田中孝之輔  
 田島磯吉  
 田端利吉  
 橋谷佐吉  
 中西龍吉  
 中西音五郎  
 中西宗一  
 中西才右衛門  
 中北六藏  
 中井沖三  
 中井音八  
 中山清三  
 村井兵助

常盤町大間廣  
 一ノ木町  
 本町  
 櫻木町  
 一志久保町  
 浦口町山名  
 宮後町越坂  
 同 西河原  
 一ノ木町  
 常盤町  
 一ノ木町  
 岡本町  
 同  
 常盤町  
 浦口町  
 岡本町

松 葉 平 藏  
 松 葉 新 平  
 松 村 武 次 郎  
 松 田 乙 松  
 藤 原 竹 藏  
 藤 原 虎 藏  
 藤 川 芳 夫  
 福 田 猪 之 吉  
 古 川 齊 右 衛 門  
 小 林 平 吉  
 小 木 德 次 郎  
 小 牧 羊 三  
 小 山 榮 七  
 圓 座 常 吉  
 東 幸 平  
 佐 藤 五 郎

常盤町  
 同 大間廣  
 京町  
 河崎町  
 船江町  
 浦口町茶屋町  
 吹上町松原  
 船江町  
 宮町浦之橋  
 一志久保町  
 岡本町  
 曾禰町奥新町  
 船江町  
 曾禰町  
 岡本町  
 渡會郡落郷村字久志本

佐 野 勘 次 郎  
 坂 口 幸 吉  
 木 本 久 藏  
 木 下 安 次 郎  
 木 場 清 郎  
 北 川 勘 助  
 霜 末 吉  
 島 岡 勘 次 郎  
 久 田 要 次  
 廣 瀬 光 造  
 廣 瀬 角 藏  
 森 田 利 七  
 森 島 秀 勝  
 世 古 彌 吉  
 角 谷 寅 雄  
 橋 谷 六 次 郎

第二節 津市

第一款 洋家具

第一項 津洋家具組合員 (イロハ順)

| 住 所         | 商 號    | 氏 名    | 電 話  |
|-------------|--------|--------|------|
| 中之番町        | 橋本洋家具店 | 橋本 萬藏  | 一六〇八 |
| 丸之内本町       | 小川洋家具店 | 小川 光男  | 一〇一一 |
| 西町二二八番地     | 河合洋家具店 | 河合 幾三郎 | 六三七  |
| 丸之内本町二一〇六番地 | 梅田洋家具店 | 梅田 勇次郎 | 一〇八九 |
| 常盤町一二番地     | 前川孝太郎  | 前川 孝太郎 | 一四八三 |
| 地頭領町六一七番地   | 平田洋家具店 | 平田 久吉  | 一一七九 |
| 東町一五〇一番地    | 樋口洋家具店 | 樋口 喜藏  |      |

第二款 和家具

第一項 津箆筒漆器業者 (イロハ順)

|          |       |        |      |
|----------|-------|--------|------|
| 伊豫町四七二番地 | 指松箆筒店 | 大矢 松次郎 | 一四六九 |
| 萬町       | 榎伍本店  | 加藤 伸行  | 三一九  |
| 分部町四五番地  | 榎伍商會  | 荒木 耀赫  | 四六二  |
| 新町入町松原通り | 桐庄商店  | 桐庄 商店  |      |
| 北堀端町     | 森六商店  | 森六 次郎  |      |

第二項 津建具業者 (イロハ順)

| 住 所   | 商 號 | 氏 名    | 電 話 |
|-------|-----|--------|-----|
| 宮ノ前町  | 居崎  | 居崎 秀之助 |     |
| 辨財町   | 小野藤 | 小野 藤一郎 |     |
| 阿漕町   | 小野林 | 小野 林之助 |     |
| 新東町   | 船木政 | 船木 政太郎 |     |
| 出口町   | 安達德 | 安達 徳次郎 |     |
| 船頭町   | 青木建 | 青木 建具店 |     |
| 中茶屋町  | 三井時 | 三井 時藏  |     |
| 柳山町   | 水谷建 | 水谷 建具店 |     |
| 八丁松原町 |     |        |     |

東町

平山直藏

第三節 四日市々

第一款 洋家具

第一項 四日市洋家具業者

(イロハ順)

| 住 所      | 商 號      | 氏 名      | 電 話  |
|----------|----------|----------|------|
| 下新町      | 萩洋家具店    | 萩 雅一 夫   | 一〇〇四 |
| 新町三〇六五番地 | 堀木洋家具工作所 | 堀 木 勝三 郎 |      |
| 袋町       | 大川洋家具店   | 大 川 仁三 郎 |      |
| 同        | 成川洋家具店   | 成 川 平六   |      |
| 南町       | 足立洋家具店   | 足 立 種雄   |      |
| 藏町       | 宮崎洋家具店   | 宮 崎 洋二   |      |
| 江田町      | 清水洋家具店   | 清 水 石松   | 一二六三 |

第二款 和家具

第一項 四日市箆笥漆器業者

(イロハ順)

住 所  
中町二八九〇番地  
瓦町

商 號  
山城屋家具百貨店  
小金商店  
小山金太郎

電 話  
八〇八  
九〇四

第二項 四日市指物業組合員

(イロハ順)

| 住 所  | 商 號 | 氏 名    | 電 話 |
|------|-----|--------|-----|
| 比久丘町 |     | 伊 藤 由松 |     |
| 南濱田  |     | 伊 藤 末松 |     |
| 十建町  |     | 今 村 新松 |     |
| 八幡町  |     | 石 垣 力雄 |     |
| 濱田   |     | 池 畑 政一 |     |
| 八幡町  |     | 早 川 文吉 |     |
| 諏訪新道 |     | 服 部 卯一 |     |
| 北條町  |     | 岡 田 惣市 |     |
| 西町   |     | 中 里 千代 |     |
| 四谷   |     | 中 筋 兵藏 |     |
| 八幡町  |     | 九 鬼 丑松 |     |



沖之島町  
 錦町  
 西中町二三一番地  
 北條町  
 堅町  
 四谷新町  
 南瓦町  
 北條町  
 新田町  
 瓦町  
 八幡町

第四節 松 阪 市

第一款 和 家 具

第一項 松阪箆筒漆器商組合員

(イロハ順)

|       |      |      |       |      |      |      |       |      |       |       |
|-------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|
| 山本喜四郎 | 前田金藏 | 安達新七 | 相松宗太郎 | 佐藤岩松 | 佐藤元七 | 木村宗一 | 宮崎兵治郎 | 水谷善助 | 遠藤兼三郎 | 森谷友三郎 |
| 鶴     | 新    | 嘉    | 指     |      |      |      |       |      |       |       |

二一〇

住 所  
 中町  
 白粉町  
 新町  
 本町  
 新町  
 成尾町  
 中町  
 白粉町  
 新町  
 魚町一七〇九番地

第二款 和家具及洋家具

第一項 松阪建具業組合員

(イロハ順)

第一目 建 具 之 部

|       |       |      |     |      |       |      |       |       |         |      |
|-------|-------|------|-----|------|-------|------|-------|-------|---------|------|
| 井田淺次郎 | 池田辰之助 | 本田増吉 | 瀧文吉 | 中西多助 | 松村善之丞 | 小林秀吉 | 近藤徳太郎 | 榑原由次郎 | 大由榑原由次郎 | 梶平商店 |
| 指定箆筒店 | 松田屋   | 深野屋  | 門屋  | 大由   | 梶平商店  |      |       |       |         |      |

電 話

九六七  
 七四  
 九七八  
 九七一  
 五四八

白粉町  
茶與町  
西町  
同  
白粉町  
茶與町  
殿町  
飯南郡松江村西之庄  
同 花岡町新道  
同 松江村西之庄  
同 花岡町新道  
同 大黒田  
同 松江村船江  
同  
同

第二日 洋家具之部

中谷才吉  
前田徳藏  
牧田岩藏  
木戸精三  
喜田久郎  
宮下敬造  
清水一男  
和泉谷永吉  
濱田彌三郎  
片岡四郎  
辻勇次郎  
中村淺藏  
長崎文吉  
家城久雄  
平尾才吉

新座町  
黒田町  
同  
白粉町  
垣鼻町  
川愛町  
黒田町  
同 新道  
中町  
本町  
湊町  
中町職人町  
本町  
新座町  
本町  
同

伊藤喜代藏  
板谷清太郎  
板谷伊三郎  
池村寅藏  
泉次郎  
林才吉  
西岡幾次郎  
徳田阪太郎  
小川專太郎  
小津安吉  
大西兼松  
奥林利吉  
梶川恒吉  
竹本勘三郎  
中村爲次郎  
中里實造

住所  
黒田町  
愛宕町  
魚町三丁目  
白粉町  
同  
中町職人町  
魚町三丁目

中村家具指物店

商號  
富山勘之助  
岡山瀧夫  
中村巳之助  
上地宗一  
山添喜久藏  
清水二郎  
杉田儀三郎

電話

第三節 桑名郡桑名町

第一款 和家具

第一項 桑名箆筒長持商組合員

(イロハ順)

住所  
新町六七番地  
新矢田

商號  
ヤマ正  
伊藤箆筒店

氏名  
伊藤正太郎  
伊藤銀三郎

電話

二六一  
三一五

住所  
掛樋町  
鍋屋町  
新町  
新矢田  
南寺町  
傳馬町  
吉津屋町  
掛樋町  
萱町  
同  
吉津屋町  
新町  
矢田磧御旗町  
同  
新町  
宮通り一二九六番地

辰巳屋  
扇屋  
立田屋  
鳥羽藤商店

伊藤網次郎  
石垣嗟一  
石垣好夫  
花井金藏  
服部新三郎  
長谷川榮次郎  
加東藤兵衛  
加藤新藏  
高山秀雄  
中村郁太郎  
黒宮忠次郎  
栗山清次郎  
山田芳次郎  
山本常七  
小林友吉  
相原清六

電話

五二三  
一〇五七

黒宮商店

黒宮忠次郎

九三三

栗山箆筒店

栗山清次郎

八六五

矢田磧御旗町

山田箆筒店

山田芳次郎

同

小林箆筒店

小林友吉

西清箆筒店

相原清六

一〇五三

京町 掛樋町 内堀 寶殿町 小網町 安永 新町 鍋屋町 紺屋町 江戸町 提原 四ッ谷 職人町 中町

第二款 洋家具

林長藏 長谷川源太郎 西村米次郎 大平彦太郎 加藤角次郎 中村富次郎 藤田平兵衛 近藤清吉 後藤長次郎 天野儀一 佐藤三三 水谷源三 廣田金藏 平野精三

東矢田町 鍛冶町 同 傳馬町 矢田礮字庚申堂 吉津屋町 新町

第二項 桑名建具指物業組合員

(イロハ順)

住所 商號

氏名

電話

三婢通り 安永 提原 西矢田 新町 中町

榮屋算笥店 佐藤徳次郎 金井屋算笥店 佐藤喜三郎 帶佐商店 佐藤孫太郎 三林算笥店 三林榮助 水谷清太郎 久村源助 森算笥店 森藤三

伊藤新太郎 伊藤茂兵衛 伊藤利三郎 岩田茂 磯貝増次郎 服部清太郎

第一項 桑名洋家具業者

(イロハ順)

| 住 所       | 商 號      | 氏 名   | 電 話 |
|-----------|----------|-------|-----|
| 西馬町       | 箱喜洋家具店   | 伊藤喜吉  | 六六一 |
| 榮町三六五番地   | 日吉屋洋家具店  | 伊藤秀文  |     |
| 相生町       | 伊藤洋家具店   | 伊藤清太郎 | 九一  |
| 鍛冶町一五五四番地 | 岩田洋家具店   | 岩田政次郎 |     |
| 三丁掛七七番地   | 山田洋家具店   | 山田定一郎 | 八六六 |
| 萱町        | 松岡洋家具店   | 松岡治三郎 |     |
| 八間通り五七一番地 | アサキ洋家具店  | 淺井真一  |     |
| 川岸町       | 淺井洋家具製作所 | 淺井芳男  |     |
| 寺町        | 櫻井洋家具店   | 櫻井光太郎 |     |
| 宮通り       | 櫻井洋家具店   | 櫻井六三  |     |

第六節 鈴鹿郡龜山町

第一款 和家具

第一項 龜山箆筒業者

(イロハ順)

| 住 所          | 商 號    | 氏 名    | 電 話 |
|--------------|--------|--------|-----|
| 東町           | 美屋商店   | 打田邦郎   | 二三七 |
| 同            | 阿部商店   | 阿部政雄   |     |
| 第二項 龜山建具指物業者 |        | (イロハ順) |     |
| 西町萬町         | 指音本店   | 中野一男   |     |
| 同            | 指音東町支店 | 中野優茂   |     |
| 同            | 指音支店   | 中野義一   |     |
| 西町萬町         | 指音支店   | 藤田義一   |     |
| 東町三本松        | 指音支店   | 小森守一   |     |
| 同            |        | 青山榮吉   |     |
| 西町           | 松下屋    | 木村定一   |     |
| 東町三本松        |        | 稻垣寅吉   |     |
| 同            |        | 豐田彌三郎  |     |
| 同            |        | 館兵部    |     |

西丸  
野村

第二款 洋家具

廣 森 末 一  
鈴 木 香 一

第一項 龟山洋家具業者

(イロハ順)

住

所

商 號

氏 名

電 話

境町  
東町

中山家具店

田 中 須 一  
山 清 一

第七節 志摩郡鳥羽町

第一款 和家具並洋家具

第一項 鳥羽家具指物業者

(イロハ順)

住

所

商 號

氏 名

電 話

錦町  
錦町一六五四番地

奥田木工所

田 村 耕 藏  
奥 田 留 吉

第四章 靜岡縣

第一節 靜岡市

第一款 和家具

第一項 靜岡漆器指物同業組合員

(イロハ順)

住

所

商 號

氏 名

電 話

新通り二丁目

同

幸町

札之辻町

五番町五番地

梅屋町

寺町三丁目

杉本商店

伊 藤 藤 信 三  
伊 藤 藤 伊 六  
伊 東 通 三 郎  
石 上 大 次 郎  
石 下 孝 一  
石 谷 由 松  
石 川 房 次 郎

一 二 八 九  
二 五 八  
一 七 二 六  
一 四 五 一  
七 六 七

茶町一丁目  
 土大工町  
 天王町二丁目  
 研屋町  
 胸形通り四丁目  
 六番町  
 本通り六丁目  
 新富町三丁目  
 新通り五丁目  
 上新富町  
 一番町(土手通り)  
 新富町三丁目  
 屋形町三番地  
 本通り三丁目  
 同 七丁目  
 上石町二丁目

マ  
 ル  
 五  
 岩本庄吉  
 岩ヶ谷洗  
 池ヶ谷万吉  
 戸田鑑三  
 大澤一皓  
 大河原眞  
 小笠原常七  
 小倉銀藏  
 奥田澄平  
 加藤信吉  
 影島助次郎  
 片瀬瀬勇  
 高橋精一郎  
 田中浩二  
 田中八太郎  
 筒井梅次郎

岩本庄吉 四五  
 岩ヶ谷洗 一二七三  
 池ヶ谷万吉 一九三三  
 戸田鑑三 一五三二  
 大澤一皓 一〇一三  
 大河原眞 一四七  
 小笠原常七 二九七五  
 小倉銀藏 一四七  
 奥田澄平 二九七五  
 加藤信吉 二九七五  
 影島助次郎 二六九〇  
 片瀬瀬勇 一四四七  
 高橋精一郎 六八一  
 田中浩二 三〇六一  
 田中八太郎 五四三

片瀬木工所  
 合資会社高橋家具工場

本通り四丁目  
 吳服町四丁目  
 馬淵本町  
 札之辻町  
 吳服町二丁目  
 人宿町二丁目  
 新富町三丁目  
 下石町三丁目  
 本通り九丁目  
 四番町  
 通車町  
 森下町  
 西寺町  
 新通り五丁目  
 兩替町二丁目  
 三友町

三喜屋商會  
 八幡屋  
 合名會社武藤漆器店

土屋通吉 一五五四  
 中村美保作 二〇一  
 中山岩吉 二七三一  
 永倉兵右衛門 一四三連  
 武藤孫左衛門 六五  
 梅村榮一郎  
 宇佐美高次 二四一  
 海野善次郎 二五〇八  
 野々瀬良一  
 久保田綱吉 一六九五  
 久保田里次 二五二三  
 倉島儀助  
 山口源太郎 八二〇  
 山田末吉  
 山崎治助  
 安野泰弘





第二目工 人 部 員  
、 鏡 臺 之 部

住 所 商 號

本通り七丁目  
幸町  
同  
本通り九丁目  
本通り西町  
六番町  
一番町  
新宮町四丁目一三番地  
同  
安倍川町  
一番町  
住吉町  
馬淵町二丁目

伊藤新吉  
石川喜作  
石川政一  
石川勝太郎  
石上清吉  
石上佐吉  
石田辰藏  
今井要作  
今尾國夫  
井上濟次  
井石政次郎  
井出權次郎  
市川金藏

電 話

天王町二丁目一八番地  
楠町  
本通り六丁目  
同  
神樂町三  
六番町八番地  
幸町  
本通り十丁目  
田町  
三番町  
四番町三六番地  
若松町  
住吉町  
一番町八五番地  
駒形本町  
清閑町

五十嵐登三郎  
磯貝利兵衛  
岩崎誠三郎  
岩本喜三郎  
花村清一郎  
花村格太郎  
原川清一  
原川庄吉  
原川勇吉  
林公平  
橋本芳郎  
羽山卯之吉  
馬場兼吉  
西野正治  
西島伊三吉  
丹羽雄作



三番町  
 川邊三友町一五番地  
 下石町一五番地  
 屋形町  
 天王町一丁目二番地  
 天王町一丁目  
 駒形通り七丁目  
 同 五丁目  
 住吉町  
 富士見町  
 上新宮町  
 一番町  
 駒形通り六丁目  
 籠上町  
 本通り八丁目  
 駒形通り五丁目

多々良政雄  
 曾根憲藏  
 曾根真藏  
 筒井大三郎  
 塚本登平  
 中田源吉  
 中田金藏  
 中田仙吉  
 中野惣作  
 中野常吉  
 中島留二郎  
 成岡金作  
 長房鑛一  
 村松壽一  
 村田金次郎  
 室津仲二郎

幸町  
 同  
 本通り  
 若松町五  
 駒形通り  
 新宮町五丁目  
 同  
 幸町  
 馬淵本町  
 新宮町四丁目  
 本通り  
 同  
 馬淵本町  
 幸町  
 彌勒町  
 幸町

加藤熊吉  
 梶村茂雄  
 梶山二郎  
 金子兼作  
 金子丸次郎  
 兼高俊郎  
 吉村國太郎  
 吉田兼吉  
 高橋鐵太郎  
 高橋宗平  
 高野數馬  
 高田精一  
 竹島惣太郎  
 竹下錠太郎  
 田畑哲二

永樂町三丁目  
 馬淵本町  
 新富町  
 駒形通り七丁目  
 同  
 本通り八丁目  
 馬淵本町二丁目  
 駒形通り  
 本通り九丁目  
 同 七丁目  
 同 十丁目六五番地  
 同 十丁目六七番地  
 同 十丁目六三番地  
 鷹丘町三丁目一〇〇番地  
 幸町  
 同

宗 亮 司  
 植 田 辰 雄  
 野 村 榮 作  
 久 保 島 利 平  
 久 保 島 金 作  
 黒 田 真 一  
 桑 原 真 克  
 山 下 兼 作  
 山 下 貞 二 郎  
 山 下 清 吉  
 山 梨 金 藏  
 山 梨 鐵 藏  
 山 梨 政 雄  
 山 梨 政 雄  
 山 本 勝 藏  
 山 本 初 藏

同  
 本通り六丁目  
 神明町  
 駒形通り一丁目  
 幸町  
 下魚町三五番地  
 兩替町三丁目  
 神明町  
 安西町二丁目三六番地  
 神榮町三  
 四番町  
 七番町  
 馬淵本町二丁目  
 宮本町  
 清閑町  
 七番町

山 田 芳 太 郎  
 山 田 由 太 郎  
 山 崎 幸 次 郎  
 八 木 市 松  
 八 木 武 雄  
 八 木 勝 藏  
 増 田 直 次 郎  
 増 田 寅 吉  
 松 下 欣 司  
 松 井 久 吉  
 松 村 兼 次 郎  
 前 田 兼 吉  
 古 木 要 二 郎  
 古 木 文 藏  
 伏 見 直  
 深 澤 米 七

天王町一八番地  
 三組町  
 八千代町  
 馬淵本町九四番地  
 川邊三友町  
 本通り六丁目  
 本通り四町三八番地  
 葵町  
 駒形通り五丁目  
 同 六丁目一〇一番地  
 清閑町  
 四番町四番地  
 鷹匠町三丁目  
 新富町  
 八千代町  
 田町六七番地

小泉音吉  
 小泉信太郎  
 小林忠雄  
 小杉銀藏  
 近藤巳代吉  
 海老名進一  
 寺田新六  
 淺井彦兵衛  
 淺井作市  
 淺井與三郎  
 青木松太郎  
 青木幸太郎  
 青山作藏  
 秋山吉平  
 秋田京一

幸町  
 葵町  
 本通り十丁目八番地  
 一番町六五番地  
 本通り西町  
 同  
 住吉町  
 同 二丁目  
 馬場町二〇番地  
 大岩町二丁目  
 七番町  
 六番町  
 上新富町  
 三番町二番地  
 駒形町一六番地  
 同 三一番地

赤堀作一  
 齋藤脩二郎  
 齋藤四郎  
 齋藤五郎  
 深田鏡一  
 澤田正雄  
 櫻井頌三  
 坂本與作  
 笹野長吉  
 佐藤泰司  
 佐藤常吉  
 酒井萬吉  
 木村重太郎  
 宮田耕一  
 宮村鐵太郎  
 水谷寅平

幸町  
 木通り四丁目  
 彌勒町  
 井之宮町  
 田町  
 櫻木町  
 六番町二五番地  
 田町  
 新富町  
 相生町一七番地  
 幸町  
 同 三〇番地  
 同  
 二番町  
 馬淵本町六一三番地  
 新富町二丁目一五番地

三 柴 幸 二  
 柴 虎 之 助  
 柴 崎 俊 一  
 白 鳥 金 次 郎  
 白 鳥 宗 一  
 嶋 岡 喜 一  
 突 戸 正 吉  
 平 尾 銀 藏  
 平 田 茂 太 郎  
 望 月 新 吉  
 望 月 正 太 郎  
 望 月 敏 郎  
 森 二 郎  
 森 利 光  
 森 本 作 藏  
 諸 澤 半 次 郎

葵町  
 若松町  
 一番町一一一番地  
 川邊千歳町  
 本通り十丁目一一番地  
 川邊三友町  
 新富町六丁目  
 一番町八〇番地  
 天王町一八番地  
 一番町  
 田町  
 錦町  
 新富町  
 櫻木町  
 通車町  
 住吉町二丁目

關 本 初 太 郎  
 關 本 銀 次  
 關 本 彦 四 郎  
 關 原 友 三 郎  
 木 信 次 郎  
 木 平 吉  
 鈴 木 熊 次 郎  
 鈴 木 由 太 郎  
 鈴 木 博 夫  
 鈴 木 音 吉  
 鈴 木 熊 吉  
 鈴 木 脩 二  
 鈴 木 政 雄  
 鈴 木 伊 之 平  
 鈴 木 勝 太 郎  
 杉 山 吉 藏

田町六七番地  
 本通り西町  
 幸町  
 田町  
 一番町  
 新富町  
 同  
 本通り十丁目  
 七番地二七番地  
 櫻木町五  
 安部郡千代田村上足洗一六番地  
 志太郡岡部町三輪

住 所  
 四番町二四番地  
 五番町三〇番地

只、針箱之部  
 商 號

杉山金藏  
 杉山保太郎  
 杉山文吉  
 杉山新一  
 杉山友作  
 杉山喜作  
 杉山好三  
 杉田鐵太郎  
 杉田雅二  
 杉本吉太郎  
 青山山篤  
 池田昌脩  
 伊藤延太郎  
 伊藤金次郎  
 氏名

電 話

住吉町二丁目八番地  
 同 同 九番地  
 扇形町二四番地  
 馬淵本町九六番地  
 木之花町二四番地  
 田町一〇二番地  
 井之宮町一四九番地  
 四番町一八番地  
 井之宮町一〇六番地  
 川邊三友町四八番地  
 新富町  
 駒形通り六丁目二一番地  
 若松町一二六番地  
 本通り八丁目三番地  
 同 七丁目六〇番地  
 駒形通り四丁目八番地

池ヶ谷政平  
 池ヶ谷次郎吉  
 池野新藏  
 板倉太之吉  
 井上謙吉  
 今村榮作  
 今主萬吉  
 畑川日出男  
 畑川國太郎  
 林清一  
 花井金次郎  
 西本葦雄  
 奥塩藤作  
 奥塩作太郎  
 奥津定次郎  
 大村幸吉





新富町三丁目  
 青木町二丁目六六番地  
 上大工町二八番地  
 同 二七番地  
 安四三丁目三六番地  
 西寺町一〇番地  
 上新富町二五番地  
 木之花町二五番地  
 五番町六番地  
 幸町五九番地  
 新富町三丁目二九番地  
 八千代町五〇番地  
 本通り六丁目五二番地  
 神榮町一丁目  
 一番町一二番地  
 胸形通り二丁目五番地

安 本 利 平  
 馬 淵 鐵 藏  
 馬 淵 大 五 郎  
 馬 淵 佐 兵 衛  
 馬 淵 金 一  
 牧 田 嘉 平  
 牧 田 安 次 郎  
 牧 田 孝 三  
 牧 田 太 吉  
 牧 野 國 吉  
 松 永 吉 一  
 松 永 保 一  
 松 永 吉 一  
 松 永 保 一  
 增 井 儀 作  
 增 田 平 吉  
 丸 尾 運 藏

同 二丁目  
 西草深町三六番地  
 同 一四〇番地  
 東草深町三丁目一番地  
 馬淵本町六〇番地  
 胸形通り三丁目  
 上新富町四丁目  
 錦町二二番地  
 新富町四丁目  
 泉町一丁目二三番地  
 新富町六丁目  
 一番町六五番地  
 馬淵本町四三〇番地  
 新富町五丁目一九番地  
 本通り八丁目五九番地  
 新富町四丁目七番地

時 田 鎮 一  
 藤 波 節 藏  
 福 島 平 左 衛 門  
 福 島 金 太 郎  
 小 柳 壽 太 郎  
 小 柳 津 百 太 郎  
 小 倉 鐵 次  
 小 倉 銀 藏  
 小 林 市 和  
 小 林 誠 作  
 小 林 新 平  
 小 池 彌 兵 衛  
 小 田 市 太 郎  
 小 澤 俊 一  
 淺 井 千 代 藏



八千代町  
 研屋町  
 新通り四丁目  
 研屋町  
 同  
 幸町  
 鷹匠町  
 水道町  
 人宿町二丁目  
 橋町  
 住吉町  
 神明町  
 南安倍町  
 田町  
 芳町  
 森下町

石川 忠次  
 岩崎 武雄  
 長谷川 富造  
 花森 太郎  
 本間 勝太郎  
 大井 福松  
 大橋 鐵三  
 大石 藤吉  
 河村 芳三  
 梶山 定三  
 谷澤 啓次  
 玉木 幾造  
 曾根 田忠  
 中村 文一  
 中野 敏男  
 中川 榮一

梅屋町  
 本通り西町  
 兩替町三丁目  
 馬場町  
 駒形町  
 新通り四丁目  
 三番町  
 木之花町  
 駒形通り六丁目  
 馬場町  
 七間町二丁目  
 兩替町二丁目  
 駒形通り四丁目  
 田町  
 新通り川越町  
 三番町

村田 良平  
 村松 憲次  
 海野 良平  
 植村 幸吉  
 栗山 實  
 山田 太郎  
 前田 長次  
 牧田 孝三  
 藤原 忠藏  
 藤倉 幸一  
 遠藤 定吉  
 遠藤 源藏  
 寺坂 幸平  
 青木 政一  
 青島 惣平  
 淺岡 吉平

四番町

同

幸町

研屋町

三番町

駒形通り一丁目

新富町一丁目

一番町

本通り八丁目

南安倍町

住所

駒形通り六丁目

屋形町

臺所町

川邊三友町四五番地

ニ、塗下之部

商號

柳原幸平

柳原修次

光本旗助

光田明次郎

新間久吉

日高香吉

望月梅吉

望月淺吉

鈴木進一郎

鈴木榮一

市川義太郎

市川金作

飯塚福太郎

初川幸太郎

電話

傳馬町

五番町

新通り

同

馬淵町二丁目

三番町

宮本町

本通り

大鋸町

幸町

屋形町

二番町

馬淵町一丁目

本通り

駒形通り四丁目

人宿町三丁目

原田徳藏

馬場福太郎

西山淺次郎

堀井祐一

戸塚平次

大石五郎

大石定藏

大河原縫

大間安次郎

小野田義一

小田元次郎

小川祐一

落合勝藏

岡村信夫

加知鐵太郎

住吉町  
 青木町一丁目  
 人宿町二丁目  
 新通り  
 新富町三丁目  
 田町  
 安西四丁目  
 住吉町  
 三番町  
 同  
 上大工町  
 本通り  
 同  
 千歳町  
 馬淵本町  
 屋形町

横地由太郎  
 高山勇吉  
 田島鐵藏  
 田中伊三郎  
 多々良善吉  
 中村乙一  
 中村房吉  
 中井澤武一  
 中川清  
 永田清作  
 夏目茂太郎  
 村松孝藏  
 浮所孝作  
 久保田覺造  
 久保田久次郎  
 安池猪之助

本通り七丁目  
 幸町  
 川邊三友町  
 本通り四丁目  
 駒形本町  
 新通り三丁目  
 馬淵本町  
 四番町  
 上大工町  
 屋形町  
 幸町  
 幸町  
 新富町  
 田町  
 幸町  
 鷹匠町二丁目

安池發太郎  
 安池金太郎  
 八木君藏  
 增田熊藏  
 增田香二郎  
 前田平藏  
 深澤式雄  
 淺井廣吉  
 相川金次郎  
 秋元菊五郎  
 佐藤藤吉  
 佐藤宗一  
 櫻井万幸  
 櫻井仙藏  
 岸村銀次郎

新富町  
 本通り  
 同 八丁目  
 幸町  
 六番町  
 神榮町一四番地  
 新富町  
 幸町  
 同  
 新通り二丁目  
 田町  
 三番町  
 四番町  
 新富町三丁目

所  
 住  
 商  
 號  
 部  
 之  
 具  
 雜  
 \*

弓家田甲子郎  
 望月徳藏  
 望月大次郎  
 望月金太郎  
 森虎吉  
 瀬川猛  
 杉浦由太郎  
 杉浦喜作  
 杉浦昇吉  
 杉山宗作  
 杉本熊吉  
 池ヶ谷新作  
 萩原竹次郎  
 西村榮五郎  
 氏名

電話

三番町  
 四番町  
 三番町  
 新富町三丁目  
 一番町  
 同  
 幸町  
 三番町  
 四番町  
 淺間町  
 新富町五丁目  
 新富町  
 田町上組  
 六番町  
 同  
 新富町五丁目

西村松藏  
 大村富藏  
 大橋喜作  
 大石嘉吉  
 河合安太郎  
 川口宗七  
 高橋喜一郎  
 田中留吉  
 長久保鐘一  
 長島宗十郎  
 永井賢作  
 村松金太郎  
 村田字作  
 矢澤清左衛門  
 前田米吉  
 松島伸光

人宿町三丁目  
泉町五丁目

上新富町  
田町

西草深町  
上新富町  
森下旭町

同  
田町

住吉町  
宮下町

木之花町  
胸形本町

二番町  
住所

文具之部

所

商

號

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高 | 高 | 高 | 吉 | 河 | 渡 | 岡 | 本 | 西 | 西 | 岩 | 池 | 池 | 鈴 |
| 田 | 田 | 田 | 澤 | 村 | 邊 | 野 | 間 | 野 | 野 | 崎 | 野 | ヶ | 木 |
| 甚 | 兼 | 哲 | 市 | 勇 | 金 | 精 | 米 | 金 | 秀 | 錄 | 源 | 谷 | 秋 |
| 太 | 三 | 三 | 一 | 次 | 太 | 一 | 平 | 市 | 吉 | 多 | 太 | 定 | 太 |
| 郎 | 男 | 郎 | 平 | 次 | 郎 | 一 | 平 | 市 | 吉 | 多 | 郎 | 助 | 郎 |

電話

同

錦町

二番町

同

一番町

二番町

井之宮町

田町下組

三番町

上新富町

二番町

同

三番町

一番町

新富町

住吉町

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 望 | 望 | 望 | 柴 | 篠 | 水 | 榊 | 酒 | 櫻 | 秋 | 朝 | 寺 | 小 | 小 | 藤 | 増 |
| 月 | 月 | 月 | 田 | 原 | 野 | 原 | 井 | 井 | 山 | 日 | 本 | 林 | 柳 | 田 | 田 |
| 定 | 利 | 銀 | 直 | 重 | 新 | 重 | 今 | 定 | 平 | 三 | 瀧 | 清 | 重 | 象 | 喜 |
| 吉 | 平 | 藏 | 吉 | 郎 | 郎 | 藏 | 吉 | 警 | 吉 | 郎 | 藏 | 作 | 治 | 吉 | 義 |

森下旭町  
 三番町上  
 新宮町三丁目  
 同 一丁目  
 青木町  
 櫻木町  
 田町  
 同  
 本通り八丁目  
 同 七丁目  
 紺屋町  
 八幡本町三丁目  
 八千代町  
 本通り五丁目  
 下石町三丁目  
 八幡本町五丁目

田村万吉  
 中村徳次郎  
 山田榮太郎  
 八木福一  
 増田松藏  
 松岡福太郎  
 前田儀助  
 藤田重作  
 小林竹藏  
 小美力藏  
 渥美力藏  
 齋藤政太郎  
 佐藤勝二  
 白鳥作太郎  
 白鳥銀次郎  
 平野又三  
 森常吉

同  
 本通り七丁目  
 同  
 人宿町三丁目五番地  
 住吉町  
 田町下  
 二番町  
 本通五丁目  
 同 四丁目  
 上大工町  
 若松町  
 馬淵本町  
 七番町  
 上ヶ土立町

重箱之部

住所 商號

森政吉  
 杉山善太郎  
 杉山勝次郎  
 長谷春吉  
 氏名  
 築地恒太郎  
 大石吉藏  
 大石定治  
 太田松太郎  
 浦田金八  
 山内金作  
 山本和三郎  
 牧田良作  
 小柳新平  
 寺尾利平

電話



幸町

七番町

住

御器屋町

田町下

宮本町

安西四丁目

御器屋町

八千代町

八幡本町

上桶屋町

四番町

馬淵本町下

通車町

同

子、盆

商之

號部

清水梅吉  
瀬川惣次郎

岩崎兼次郎

岡田初吉

會根喜助

成岡銀次郎

成岡龜治

成岡定吉

中村米吉

山田藤次郎

松山金藏

佐々木計太郎

齋藤猪七

宮田伊之助

電話

七番町

八幡本町

住

幸町

上石町二丁目

八千代町

天王町

本通り西町

新富町六丁目

本通り七丁目

新富町一丁目

駒形通り七丁目

幸町

同

六番町

り、膳

商之

號部

三浦順之助  
杉山豊作

岩ヶ谷富重

井上己之助

吉住兼吉

野賀市藏

山田政司

山本定吉

松井與作

近藤松三郎

寺尾米吉

朝羽貞一郎

清水榮太郎

望月敏雄

電話

井之宮町

田町

住

所

紙之部

商

號

杉山捨吉  
鈴木龜吉

電話

幸町

青木町

六番町

田町

同

泉町二丁目

二番町

六番町

同

八千代町

二番町

本通り六丁目

本田象藏  
富坂喜代志  
岡田梅吉  
狩野久吉  
丹波徳市  
塚本國太郎  
土橋義雄  
村上久次  
村上孝男  
海津市藏  
海津庄八  
上杉鐵太郎

駒形通り五丁目  
六番町

住

所

外箱之部

商

號

前畑徳三郎  
淺岡勘吉

電話

一番町九二番地

日ノ出町六四番地

八番町一一番地

六番町二五番地

上大工町

田町六二番地

人宿町三丁目

上大工町

川邊櫻木町

新富町三丁目

同 六丁目

八番町五番地

原木福太郎  
大間兼吉  
川口仙吉  
永田清吉  
山口伊一郎  
山口梅吉  
増田竹藏  
増田嘉十  
増田喜久太郎  
前島宗太郎  
牧田金藏  
寺本喜太郎

八千代町一一番地  
本通り七丁目六八番地  
同 十丁目

ヲ、富貴(塗)之部

住 所 商 號

永樂町二一番地  
駒形り四丁目  
駒形本町二  
東鷹匠町五二番地  
安西五丁目  
幸町一〇二番地  
宮本町三八番地  
新富町一丁目二ノ一  
木之花町二五番地  
幸町七四番地  
新富町三丁目二三番地

水野榮太郎  
白井新作  
鈴木晋次郎

電 話

伊井金太郎  
石川久作  
石原留吉  
岩崎泰昌  
岩瀬善作  
市澤多作  
原田作太郎  
原田昌矩  
橋本熊吉  
堀田甲子郎  
戸井口兼市

幸町三三番地  
五番町三六番地  
二番町二一番地  
新富町二丁目  
通車町一七番地  
相生町一丁目二六番地  
二番町四九番地  
本通り五丁目  
東草深町二丁目九番地  
八番町一五番地  
幸町九四番地  
森下町一丁目二二番地  
三番町一八番地  
四番町七番地  
本通り十丁目  
幸町八三番地

富田音吉  
沼野音吉  
太田唯雄  
太田乙次郎  
太田長七  
大田石藤作  
大田石七藏  
大石清吉  
奥野素介  
加藤久平  
金田廣次  
宅間幼勗  
高野數馬  
高氏留吉

人宿町二丁目  
 七番町二九番地  
 本通り四丁目二五番地  
 同二丁目七番地  
 新宮町二七番地  
 本通り六丁目一九番地  
 同九丁目二五番地  
 若松町八九番地  
 本通り七丁目九一番地  
 幸町八九番地  
 同 八六番地  
 一番町七八番地  
 同 二二番地  
 本通り九丁目  
 神榮町七  
 七番町六番地

高田松太郎  
 竹田二郎  
 田村福太郎  
 土切力太郎  
 中山庄太郎  
 中山重吉  
 中谷清一  
 中井忠吉  
 長島竹太郎  
 南條謙吉  
 南條新吉  
 成岡松二  
 村松忠喜  
 村上俊太郎  
 海野茂吉

新宮町六丁目  
 本通り七丁目二七番地  
 同 九丁目  
 胸形通り一一  
 八幡本町二五番地  
 馬淵本町八八番地  
 丸山町六七番地  
 三番町四番地  
 寺町二丁目二番地  
 六番町一六番地  
 上新宮町  
 本通り七丁目七七番地  
 通り車町  
 本通り七丁目  
 南町一丁目  
 二番町二九番地

海野惣作  
 海野光三郎  
 山口米吉  
 山田正太郎  
 山村信一  
 増田久吉  
 増田平一  
 松永長平  
 松木仙吉  
 前島留吉  
 福島次郎  
 藤井幸一  
 小林金二郎  
 小林市太郎  
 兒玉四郎  
 遠藤慶

本通り四丁目五四番地  
 旭町二八番地  
 新富町一丁目二二番地  
 八番町一二番地  
 三番町五七番地  
 幸町四四番地  
 一番町七九番地  
 鷹匠町一丁目四五番地  
 本通り九丁目  
 新富町三丁目  
 同 四丁目  
 本通り七丁目七七番地  
 二番町二一九番地  
 三番町四三番地  
 七番町八番地  
 一番町八〇番地

寺田清七  
 手束林平  
 浅羽壽逸  
 佐山伊三郎  
 佐藤市太郎  
 佐藤深海  
 坂本仙太郎  
 坂本金太郎  
 岸 萬藏  
 岸 鐵藏  
 宮下信司  
 望月善作  
 望月すか  
 森田喜太郎  
 鈴木由太郎  
 鈴木仙吉  
 鈴木憲二  
 鈴木仙之輔  
 杉本芳夫  
 杉山芳藏

住 所  
 札之辻町一番地  
 安西一丁目三七番地  
 新通り二丁目  
 馬場町

安 倍 屋  
 國城屋簞笥店

氏 名  
 落 合 喜 平  
 太 田 伊 三 郎  
 和 田 勘 吉  
 川 口 萬 太 郎

電 話

一六一五  
 一七〇六

### 第二項 静岡簞笥商組合員

(イロハ順)

**備考** 静岡漆器指物同業組合は第一部(内地、商人)第二部(貿易、商人)第三部(工人工木)第四部(同塗)第五部(同蒔繪)第六部(同金具)第七部(同金具打)の七部門より成り組合員一千餘名を擁する大同団体であるが、茲には第一部(内地、商人)第三部(工人、木工)第四部(同塗)の一部即ち富貴(塗)部のみを掲げ右の中第二部(商人、貿易)は兼に静岡漆器輸出工業組合を組織して分離したるのを始め其他の部門は掲載の要を認めず省略せり。

安西一丁目  
 吳服町二丁目  
 馬場町  
 新通り二丁目  
 人宿町二丁目  
 研屋町  
 下石町二丁目  
 安西一丁目四七番地  
 研屋町  
 下横田町

武藤漆器店  
 勝見銀藏  
 武藤孫左衛門  
 海野萬吉  
 山田房吉  
 山中光善  
 秋山新太郎  
 三輪木政司  
 望月兼吉  
 鈴木金三郎  
 濱松屋  
 鈴木重吉

第二款 和家具及洋家具

第一項 静岡建具家具業組合員 (イロハ順)

住所 商號 氏名 電話  
 下石町三丁目 伊藤幸一

研屋町  
 本通り  
 研屋町  
 本通り  
 鷹匠町  
 安西  
 本通り西町  
 幸町

富士木工株式会社

伊藤武平  
 伊藤藤國一  
 磯谷幸一郎  
 磯谷政吉  
 磯谷武雄  
 岩崎誠三郎  
 石川音吉  
 石川忠藏  
 石川大藏  
 石川辰藏  
 石垣清吉  
 市川角太郎  
 猪原鹿藏

一五五九

一〇〇四

川邊櫻木町  
 兩替町三丁目  
 本通り二丁目  
 新通り四丁目  
 同  
 本通り三丁目  
 研屋町  
 通り車町  
 新通り二丁目  
 同  
 錦町  
 研屋町  
 同  
 水道町  
 幸町  
 鷹匠町二丁目

井上唯一  
 長谷萬次郎  
 長谷川清三郎  
 萩原榮一  
 初川新次郎  
 花森宗太郎  
 羽倉長吉  
 仁科朝次郎  
 仁科藤一郎  
 堀田謹平  
 本間勝郎  
 大石善吉  
 大石藤吉  
 大井福松  
 大橋鐵藏

二三四七  
 二三七三  
 二二七三  
 二八三

新通り五丁目  
 兩替町一丁目  
 同  
 同  
 新富町三丁目  
 本通り十丁目  
 中町  
 川邊芳町  
 屋形町  
 安西一丁目  
 傳馬町  
 人宿町二丁目  
 駒形通り一丁目  
 新通り三丁目  
 丸子澤渡  
 眞淵本町二丁目

大橋嘉吉  
 尾崎宗一郎  
 尾崎長吉  
 尾崎信次  
 尾崎敏三  
 鷺巢銀次郎  
 若杉久司  
 加藤藤才吉  
 加藤鐵太郎  
 加藤福太郎  
 川村安平  
 川村芳三  
 川合銀次郎  
 横井萬次郎  
 横山角太郎  
 吉田錄郎

二六六五  
 三六六

屋形町三番地

兩替町

同

駒形り二丁目

本通り四丁目

三番町

奥服町六丁目

神明町

住吉町一丁目

大鋸町

南安倍町

新通り川越

富士見町

本通り

川邊芳町

同

合資會社 高橋家具工場

高橋精一郎

高木金作

高木大二郎

武田安雄

田中八之助

田中幸次郎

田邊修一

玉木茂藏

谷澤啓次郎

立川義太郎

曾根田忠優

坪井宇兵衛

筒井直太郎

中村文一郎

中野傳吉

中野敏雄

下横田町

金座町

片羽町

森下町三丁目

安西一丁目

本通り五丁目

土太夫町

梅屋町

安西一丁目

馬場町

兩替町

駒形通り

八千代町

末廣町

同

新通り五丁目

中島龜治郎

中島忠吉

中根半藏

中川榮一

永田佐吉

長島銀次郎

村上林平

村田良

内田順之助

植村幸吉

海野良平

栗山實

桑原常吉

山下五吉

山田雅一

山田孝一



同 四丁目  
 兩替町二丁目  
 三番町  
 本通り五丁目  
 同 七丁目  
 馬場町  
 上桶屋町  
 本通り四町  
 木ノ花町  
 三番町  
 研屋町  
 三番町  
 同  
 胸形通り六丁目  
 兩替町二丁目  
 三番町

山田松太郎  
 山田金藏  
 西竹藏  
 山口徳次  
 八木寅太郎  
 松永定吉  
 松下善次  
 松村憲光  
 牧田幸三  
 前田長次  
 藤原金芳  
 藤原源太郎  
 藤原榮三郎  
 藤原忠藏  
 藤田孝一  
 福井吉藏

研屋町  
 同  
 安西四丁目  
 馬場町  
 七間町二丁目  
 胸形通り四丁目  
 三番町  
 七番町  
 田町  
 兩替町二丁目  
 新通り川越  
 同 四丁目  
 上大工町  
 三番町  
 四番町  
 鷹匠町一丁目

小長井徳  
 小長井耕作  
 小澤友吉  
 小倉鴻一  
 遠藤定吉  
 寺坂幸平  
 青木得太郎  
 青木睦之助  
 青木政一  
 青島利兵衛  
 青島惣平  
 浅場菊次  
 浅間廣一  
 浅岡浅吉  
 有永榮吉  
 櫻井信太郎

院内町  
紺屋町  
宮内町  
上石町二丁目  
研屋町  
幸町  
東町  
本通り七丁目  
川邊芳町  
三番町  
駒形通り  
江川町  
宮ヶ崎町  
一番町  
本通り五丁目  
新富町一丁目

樽原源七  
阪井信作  
酒井勝太郎  
北村宗助  
光田明次郎  
光本禎助  
水梨孝平  
白井新太郎  
柴田傳六  
新間久吉  
日高音吉  
望月稻城  
望月勇三郎  
望月梅吉  
望月總一  
望月淺吉

同 二丁目  
安西町四丁目  
新通り五丁目  
馬淵本町  
研屋町  
本通り八丁目  
南安倍町  
新通り七丁目

森田龍  
森田紀之  
關本金一郎  
鈴木定由  
鈴木平吉  
鈴木進一郎  
鈴木榮一  
杉山半右衛門

第二節 濱松市

第一款 洋家具

第一項 濱松洋家具業組合員

(イロハ順)

第一目 市内之部

住

所

商

號

氏

名

電話

常盤町八一番地

東洋木工株式會社

犬塚伊三郎

(二三三六)  
三八五二

元城町四六番地  
 名残町七三番地  
 廣澤町三二三番地  
 松城町三〇番地  
 同 大松下  
 田町七二番地  
 同 二八一番地  
 元城町二二〇三番地  
 東伊場町一四八一番地  
 山下町  
 舟越町二〇〇番地  
 北田町一七番地  
 馬込町  
 田町  
 山下町  
 中島町

池谷家具店  
 萩野美藝社  
 外山裝飾店  
 指邦箆笥家具製作所  
 大橋家具店  
 太田家具店  
 小田島家具店  
 渡邊工作所  
 影山家具店  
 吉田洋家具製作所  
 マルウ木工所

飯尾義次  
 今川徳太郎  
 今川清五郎  
 池谷頼司  
 萩野幾一  
 外山安一郎  
 大谷邦太郎  
 大橋信男  
 太田重吉  
 小田島宇一  
 渡邊  
 影山久彌  
 吉田儀一  
 竹内勇次  
 曾我幾太郎  
 宇津山靜之

一八三〇

糠町  
 北田町一〇番地  
 寺島町一三五番地  
 千歳町一  
 尾張町一二八番地  
 松江町八  
 傳馬町六五番地  
 榮町一三六番地  
 尾張町一三三番地  
 寺島町  
 砂山町二六二番地  
 旅籠町  
 砂山町二二三番地  
 市田町二〇二番地  
 板屋町三三四番地  
 紺屋町七七番地

山本洋家具製作所  
 瀧家具店  
 藤田家具店  
 戸澤洋家具製作所  
 淺野木工所  
 木野木工所  
 衣笠家具店  
 新村洋家具店  
 ヤマ幸家具店  
 鈴木家具店

山本開二  
 山本瀧次  
 山下新吉  
 安川清市  
 丸彌惣司  
 藤田住太郎  
 狐塚武八  
 小澤茂一  
 淺野正治  
 淺野房吉  
 木野喜市  
 衣笠覺平  
 新村由平  
 嶋幸太郎  
 森榮吉  
 鈴木時太郎

一〇二九呼

一五八六呼

一三六八呼

二一七七呼

二七一〇

二七五呼

一六四三

北寺島町三八六番地  
鴨江町南部坂  
砂山町一二二番地

第二日 市外之部

須田家具店  
須田壽美次  
杉本彌太郎  
鈴木鐵藏

住 所

商 號

氏 名

電 話

盤田郡中泉町  
同 掛塚町川袋  
同 見付町一三五七番地

指

真

甲乙丙丁屋家具店  
小澤徹二  
鈴木寅次郎

第二款 和 家 具

第一項 濱松箆筒業組合員 (イロハ順)

第一日 市内之部

住 所

商 號

氏 名

電 話

天神町一四八番地  
同 一二八番地

カネ三箆筒店  
伊藤箆筒店

伊藤義雄  
伊藤泰一郎

板屋町一五五番地

石黒箆筒店

原貞吉

鴨江町一七六一番地

原田本店

原田市太郎

寺島町一七番地

長谷川箆筒店

長谷川長次郎

傳馬町一三〇番地

本多箆筒店

本多清作

天神町一〇番地

大村箆筒店

大村藤作

田町二八一番地

大谷邦太郎

大谷邦太郎

菅原町

日之出屋

渡會秀夫

寺島町一三六番地

加藤箆筒店

加藤政雄

紺屋町一二二番地

原田箆筒店

内藤彦太郎

菅原町一八一番地

村 櫛 屋

中野濱吉

同 三四四番地

新津屋

内山増次

天神町一四三番地

上田太郎

上田太郎

成子町六〇番地

木俣箆筒店

野島清太郎

板屋町二二二番地

野口箆筒店

野口藤吉

西伊場町

入野屋

山田忠雄

東伊場町四六二三番地

玉川屋

山下晴久

|                |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 砂山町七八〇番地       | 大 | 黒 | 屋 | 山 | 内 | 新 | 一 |
| 紺屋町一一七番地       | ハ | ル | ヤ | 椋 | 筒 | 店 |   |
| 山下町一六三番地       | 松 | 岡 | 下 | 三 | 郎 | 林 |   |
| 菅原町            | 藤 | 田 |   |   |   |   |   |
| 北寺島町七一番地       | 安 | 藤 | 椋 | 筒 | 店 |   |   |
| 池町七番地          | 木 | 野 | 屋 | 椋 | 筒 | 店 |   |
| 船越町一一四五番地ノ一    | 水 | 野 | 椋 | 筒 | 店 |   |   |
| 海老塚町           | 水 | 野 | 支 | 店 |   |   |   |
| 旅籠町            | 上 | 野 | 屋 |   |   |   |   |
| 紺屋町七七番地        | 鈴 | 木 | 家 | 具 | 店 |   |   |
| 元城町四三番地ノ三      | 鈴 | 木 | 椋 | 筒 | 店 |   |   |
| 佐藤町一一〇二番地      | 鈴 | 木 | 椋 | 筒 | 店 |   |   |
| 濱名郡成馬町新津九番地    | 高 | 池 | 谷 | 智 | 澄 |   |   |
| 同 曳馬町阿彌陀二九一五番地 | 高 | 林 | 德 | 藏 |   |   |   |
| 第二目市           | 外 | 之 | 部 |   |   |   |   |
| 住              | 所 | 商 | 號 | 氏 | 名 | 電 | 話 |
| 三三三五           |   |   |   |   |   |   |   |
| 一六四三           |   |   |   |   |   |   |   |

第二項 非組合員

(イロハ順)

|          |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 濱名郡氣賀町片町 | 御 | 崗 | 屋 | 椋 | 筒 | 店 | 大 | 谷 | 矩 | 一 |
| 住        | 所 | 商 | 號 | 氏 | 名 | 電 | 話 |   |   |   |

第二項 濱松建具業組合員

(イロハ順)

|            |   |   |   |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 海老塚町       | 今 | 村 | 達 | 次 |   |   |   |
| 砂山町二二七番地ノ四 | 稻 | 野 | 藤 | 次 | 郎 |   |   |
| 高町一一五番地ノ九  | 本 | 田 | 貞 | 吉 |   |   |   |
| 大工町        | 本 | 多 | 丈 | 太 | 郎 |   |   |
| 淺田町        | 岡 | 本 | 茂 | 作 |   |   |   |
| 鳴江町四七二番地   | 河 | 合 |   | 猛 |   |   |   |
| 馬込町        | 春 | 日 | 幸 | 吉 |   |   |   |
| 同 七七番地     | 中 | 安 | 吉 | 三 | 郎 |   |   |
| 中山町三五番地    | 草 | 川 | 榮 | 次 | 郎 |   |   |
| 住          | 所 | 商 | 號 | 氏 | 名 | 電 | 話 |

山下町

龜山町

元濱町四〇四番地

同

菅原町一五九番地

田町一九三番地ノ一

名残町

海老塚町

同

同

同

紺屋町七七番地

松城町

掛川屋

柳瀬勘三郎

松木直清

小澤喜一郎

青木英二

阿津地金次郎

佐藤々太郎

宮本新一

柴田宏

鈴木彌三郎

鈴木伊三郎

鈴木時太郎

鈴木勘次郎

第三項 濱松建具工藝組合員

(イロハ順)

一六四三

住

所

商號

氏名

電話

馬込町

高町

菅原町

森田町

野口町

船越町

元魚町

八幡町

常盤町

北田町

上池川町

中山町

助信

東田町

上池川町

山下町

吉田屋

井上勲

糟谷理市

大谷初次

大貫半次郎

太田三吉

河合茂一

吉岡佐一

中村藤藏

中野高次

成田關次郎

野澤男夫

草川榮次郎

古山定次

鈴木伊太郎

鈴木平次郎

鈴木榮作

鈴木木工所

二七九〇

中村建具工場

三〇八六

建初

一四八八

成子町

杉山力平

第三節 沼津市

第一款 和洋家具

第一項 沼津家具組合員 (イロハ順)

| 住    | 所     | 商號    | 氏名  | 電話 |
|------|-------|-------|-----|----|
| 淺間町  | 石内屋   | 石内寅吉  | 六四六 |    |
| 幸町   | 沼津木工場 | 石内留藏  | 二九七 |    |
| 同    | 長谷川商店 | 長谷川源作 |     |    |
| 淺間町  | 大島長吉  |       |     |    |
| 吉田   | 渡邊九十九 |       |     |    |
| 上本通り | 加藤俊輔  |       | 五八七 |    |
| 仲町   | 川添    |       |     |    |
| 幸町   | 櫻井箆筒店 | 片山小三郎 | 九二四 |    |

川麻町

住

所

商號

石津安太郎

氏名

電話

第二款 和家具  
第一項 沼津建具組合員 (イロハ順)

| 住          | 所      | 商號    | 氏名   | 電話 |
|------------|--------|-------|------|----|
| 追手町        | 横濱屋    | 田上世根治 | 一〇七八 |    |
| 幸町         | 江戶五商店  | 内田五平  | 六一九  |    |
| 八幡町        | 岩代屋    | 山本政次郎 | 一三三八 |    |
| 本通り一丁目三五番地 | 三浦屋箆筒店 | 三浦英太郎 | 九三六  |    |
| 末廣町        | 新町     | 三村卯三郎 | 四八八  |    |
| 城内         | 末廣町    | 望月米太郎 |      |    |
| 同          | 同      | 鈴木金吾  | 四八三  |    |
| 八幡町        | 同      | 鍋田乙次  |      |    |
| 市外東間門      |        |       |      |    |

鳴町  
東宮之後  
幸町  
八幡町  
上土屋町  
山王前  
末廣町  
市道町  
湊町  
白銀町  
同  
町方町  
通り占田  
末廣町  
三枚橋町  
黒

長谷川商店

石貝友次郎  
岩崎初太郎  
長谷川源作  
原川芳太郎  
大谷熊吉  
大嶽彌作  
大塚五郎  
岡本稔  
鷺巢清太郎  
吉野清作  
武野一雄  
武虎次郎  
武井兵七  
高田繁藏  
津川喜太郎  
中瀬古俊次郎

三枚橋町  
志多町  
同  
市道町  
錦町  
八幡町  
通り横町  
志多町  
末廣町  
八幡町  
二本松町  
眞砂町  
末廣町  
町方町  
八幡町九八番地  
通り吉田

梅原傳  
山口甚三郎  
山田源太郎  
山本藤太郎  
安井藤一  
増田寅三  
松本藤治  
牧野堅作  
藤井作平  
朝井源作  
北澤菊太郎  
水野濱太郎  
望月米太郎  
杉山留吉  
杉山重太郎  
杉山國造



添地町  
市場町  
二ツ谷  
市道町

第四節 清水市

第一款 洋家具及和家具

第二項 清水和洋家具商工組合員

(イロハ順)

第一目 洋家具之部

|      |   |   |   |    |    |       |
|------|---|---|---|----|----|-------|
| 住    | 所 | 商 | 號 | 氏  | 名  | 電話    |
| 上二丁目 |   |   |   | 大石 | 正市 |       |
| 本町   |   |   |   | 大橋 | 金次 | 一〇四二呼 |
| 小芝町  |   |   |   | 大橋 | 英男 |       |
| 美濃輪  |   |   |   | 中村 | 貫一 |       |

|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 杉本 | 鈴木 | 鈴木 | 鈴木 | 鈴木 |
| 太郎 | 勇吉 | 佐平 | 留吉 | 木吉 |

|     |   |       |     |     |    |     |     |     |     |     |       |    |     |
|-----|---|-------|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|-----|
| 傳馬町 | 同 | 入江一丁目 | 美濃輪 | 万世町 | 巴町 | 美濃輪 | 万世町 | 千歲町 | 大手町 | 傳馬町 | 入江一丁目 | 本町 | 傳馬町 |
|-----|---|-------|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|-----|

第二目 和家具之部

|       |      |   |   |    |     |      |
|-------|------|---|---|----|-----|------|
| 住     | 所    | 商 | 號 | 氏  | 名   | 電話   |
| 傳馬町   | マニラ屋 |   |   | 内藤 | 貞太郎 | 九五一  |
| 同     |      |   |   | 松永 | 永節  | 九八九  |
| 入江一丁目 |      |   |   | 小長 | 井吉  | 八八八  |
| 美濃輪   |      |   |   | 後藤 | 金作  | 五二三  |
| 万世町   |      |   |   | 杉山 | 梅吉  |      |
|       |      |   |   | 大石 | 龍一  | 九六三呼 |
|       |      |   |   | 大畑 | 英男  | 六六二呼 |
|       |      |   |   | 山本 | 徳次  | 七九七呼 |
|       | 岡村屋  |   |   | 山内 | 清次郎 |      |
|       |      |   |   | 籾崎 | 彌平  |      |
|       |      |   |   | 藤原 | 伊三郎 | 一四三呼 |
|       |      |   |   | 小長 | 井喜作 | 三一   |
|       |      |   |   | 海老 | 岡徳二 | 五一七呼 |
|       | エビ屋  |   |   | 望月 | 謙司  | 二二九呼 |

第五節 志太郡藤枝町

第一款 和家具

第一項 藤枝箆筒業者

(イロハ順)

| 住    | 商       | 氏名    | 電話 |
|------|---------|-------|----|
| 榮區   | 伊豆屋     | 伊藤金太郎 |    |
| 長樂寺區 | 石神重兵衛   |       |    |
| 千歲區  | カネウツ箆筒店 | 橋本梅吉  |    |
| 同    | マナ九箆筒店  | 橋本九一  |    |
| 白子區  | 小田儀作    |       |    |
| 榮區   | 村田屋     | 村田忠一  |    |
| 千歲區  | 紀一伊國屋   | 黒松久吉  |    |
| 同    | 岡部屋     | 數崎長藏  |    |
| 同    | 廣住箆筒店   | 廣住銀太郎 |    |
| 同    | 森崎箆筒店   | 森崎嘉作  |    |

第二款 和家具並洋家具

第一項 藤枝建具家具業者

(イロハ順)

| 住    | 商      | 氏名   | 電話 |
|------|--------|------|----|
| 同    | 杉山箆筒店  | 杉山榮作 |    |
| 上傳馬區 | 杉本箆筒店  |      |    |
| 千歲區  | 鈴木富太郎  |      |    |
| 木町區  | 伊久美市太郎 |      |    |
| 長樂寺區 | 伊久美新太郎 |      |    |
| 市部區  | 石川幸一   |      |    |
| 同    | 石川彌七   |      |    |
| 千歲區  | 石部正藏   |      |    |
| 白子區  | 池野金藏   |      |    |
| 千歲區  | 橋島鐘次   |      |    |
| 益津區  | 大井忠一   |      |    |

市部區  
左車區  
木町區  
白子區  
同  
左車區  
小坂區  
益津區  
左車區  
長樂寺區  
千歲區  
市部區  
長樂寺區  
同  
同  
千歲區

大見隆佐久  
岡本市藏  
高塚誠二  
土屋巳之助  
中村正吉  
永井銀右衛門  
上野寅次  
山內喜三郎  
山本久作  
山田銀太郎  
數崎甚五郎  
杉本健次  
杉本金吉  
摩賀野美吉  
小林鹿藏  
青島建具店

志太  
前島  
同  
同  
同  
青木

木町區  
同  
長樂寺區  
千歲區

第六節 志太郡青島町

第一款 和家具並洋家具

第一項 青島建具家具業者

(イロハ順)

住

所

商

號

氏

名

電

話

伊藤永藏  
池谷金藏  
池谷虎之助  
井出竹雄  
林惠吉  
長谷部與之助

三輪定之助  
杉本文策  
杉村英三  
杉山榮作

前島 同 稻川 前島 稻川 志太 稻川 青木 前島 志太 青木 稻川 前島 志太 稻川

西村保平 大塚 小野田金作 渡邊清一 兼原春吉 吉田興吉 曾根金次郎 仲田金一郎 夏賀兼吉 山梨和吉 福田鐵吉 青島作次 篠田銀作 望月幸次 鈴木角次郎 鈴木惣助

第七節 志太郡燒津町

第一款 和家具並洋家具

第一項 燒津建具家具業者

(イロハ順)

住 所 商 號 氏 名 電 話

|            |        |       |  |
|------------|--------|-------|--|
| 燒津北三二八番地   | 岡村家具店  | 長谷川竹次 |  |
| 燒津六五八番地ノ八  | 鷺野家具店  | 岡村春之助 |  |
| 新屋二三番地ノ一   |        | 神谷鉦三郎 |  |
| 燒津三番地ノ七    |        | 中野防司  |  |
| 燒津北八二二番地   |        | 町井錄二  |  |
| 燒津四七八番地ノ二  |        | 增田定吉  |  |
| 燒津三〇二番地    |        | 近藤木工所 |  |
| 同 八九一番地ノ二  |        | 近藤虎吉  |  |
| 同 八九五番地ノ二三 | 岡部屋簞笥店 | 有ヶ谷禎亮 |  |
| 同 八二五番地    | 北原家具店  | 北原吉榮  |  |













第一章 愛知縣

第一節 名古屋市

第一款 洋家具

第一項 名古屋洋家具商工組合

(評議員は凡てイロハ順に依る)

|    |        |     |        |   |        |    |        |   |        |        |       |      |      |     |        |   |        |   |        |
|----|--------|-----|--------|---|--------|----|--------|---|--------|--------|-------|------|------|-----|--------|---|--------|---|--------|
| 組長 | 平手 萩三郎 | 副組長 | 野々山 孫八 | 同 | 鈴木 久太郎 | 會計 | 山田 宗太郎 | 同 | 岩間 竹次郎 | 評議員會議長 | 溝口 鉦一 | 同副議長 | 誠工 舎 | 評議員 | 飯田 五郎作 | 同 | 井上 廣三郎 | 同 | 橋村 新之助 |
|----|--------|-----|--------|---|--------|----|--------|---|--------|--------|-------|------|------|-----|--------|---|--------|---|--------|

|   |       |   |       |   |       |   |       |   |        |   |        |   |        |   |       |   |       |   |       |   |       |   |        |   |        |   |        |   |        |   |        |      |  |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|------|--|
| 同 | 西尾 森一 | 同 | 富田 俊一 | 同 | 岡田 増藏 | 同 | 加賀 嘉一 | 同 | 中村 市十郎 | 同 | 安井 喜三郎 | 同 | 近藤 銀次郎 | 同 | 安藤 鶴吉 | 同 | 安達 増市 | 同 | 佐藤 守義 | 同 | 宮本 精二 | 同 | 三輪 朝治郎 | 同 | 菱田 梅三郎 | 同 | 平岩 鉦次郎 | 同 | 毛利 乙三郎 | 同 | 今堀 良三郎 | 名譽顧問 |  |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|------|--|

第二款 和家具

第一項 名古屋箆筒商工組合

|   |        |    |       |   |        |    |        |     |        |   |        |    |       |   |       |     |       |   |      |   |      |   |       |   |       |
|---|--------|----|-------|---|--------|----|--------|-----|--------|---|--------|----|-------|---|-------|-----|-------|---|------|---|------|---|-------|---|-------|
| 同 | 佐藤 松治郎 | 顧問 | 鈴木 政吉 | 同 | 青山市 太郎 | 組長 | 土井 甚兵衛 | 副組長 | 高山 重三郎 | 同 | 服部 常次郎 | 會計 | 市原 靜夫 | 同 | 河村 守和 | 評議員 | 石野 謙治 | 同 | 林 貞一 | 同 | 林 武雄 | 同 | 土井 米吉 | 同 | 豊田 金治 |
|---|--------|----|-------|---|--------|----|--------|-----|--------|---|--------|----|-------|---|-------|-----|-------|---|------|---|------|---|-------|---|-------|

|   |           |               |          |   |             |
|---|-----------|---------------|----------|---|-------------|
| 同 | 大竹彌五左衛門   | 副組長           | 森田仙次郎    | 同 | 大矢謙治        |
| 同 | 大村鍋吉      | 會計            | 明石龍吉     | 同 | 評議員會長 塚本金治郎 |
| 同 | 大森傳一      | 同             | 濱野勝男     | 同 | 評議員 伊藤藤右衛門  |
| 同 | 加古遠治      | 評議員           | 伊藤金三郎    | 同 | 塚本政吉        |
| 同 | 永島久藏      | 同             | 板倉好次郎    | 同 | 山田富士松       |
| 同 | 東勇爾       | 同             | 丹羽鐵次郎    | 同 | 松原勘三郎       |
| 同 | 鬼頭兼助      | 同             | 瀧勘三郎     | 同 | 鬼頭釵藏        |
| 同 | 三浦利兵衛     | 同             | 中村和一     | 同 | 木村源治        |
| 同 | 志水倍市      | 同             | 淺野信太郎    | 同 | 柴田綱四郎       |
| 同 | 順問 浦野光義   | 同             | 相談役 黒田邦彦 | 同 | 名譽顧問 鈴木金一   |
| 同 | 相談役 齋藤次兵衛 | 同             | 同 水野庄吉   | 同 | 同 奥田増次郎     |
| 同 | 同 加藤春吉    | 第三項 名古屋戸捌製造組合 | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 林作兵衛    | 組長 久野菊之助      | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 安井治三郎   | 副組長 加藤要四郎     | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 若山茂兵衛   | 會計 早瀬利正       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 大橋喜兵    | 組長 栗生菊三郎      | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 園部豊太郎   | 副組長 市川榮一      | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同 前田梅次郎   | 同 加藤健吉        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 會計 伊藤直吉       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 鳥居富平        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 會計 太田利平       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 成瀬興市        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 黒川芳太郎       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 前田岡平        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 足立萬治        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 杉山倉作        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 贊力藏         | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 伊藤判次郎       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 丸地朝藏        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 川西萬吉        | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 白井松三郎       | 同        | 同 | 同           |
| 同 | 同         | 同 相談役 川西萬吉    | 同        | 同 | 同           |

|   |       |            |       |            |     |        |
|---|-------|------------|-------|------------|-----|--------|
| 同 | 大橋喜兵  | 組長         | 栗生菊三郎 | 第二項 豊橋葎業組合 | 組長  | 寺部米吉   |
| 同 | 園部豊太郎 | 副組長        | 市川榮一  | 同          | 副組長 | 野澤唯雄   |
| 同 | 前田梅次郎 | 同          | 加藤健吉  | 同          | 會計  | 前川勝次郎  |
| 同 | 同     | 會計         | 伊藤直吉  | 同          | 同   | 同 石井泰助 |
| 同 | 同     | 同 鳥居富平     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 會計 太田利平    | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 成瀬興市     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 黒川芳太郎    | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 前田岡平     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 足立萬治     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 杉山倉作     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 贊力藏      | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 伊藤判次郎    | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 丸地朝藏     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 川西萬吉     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 白井松三郎    | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 相談役 川西萬吉 | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 順問 伊藤判次郎 | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 丸地朝藏     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 川西萬吉     | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 白井松三郎    | 同     | 同          | 同   | 同      |
| 同 | 同     | 同 相談役 川西萬吉 | 同     | 同          | 同   | 同      |

第二節 豊橋市

第一款 洋家具

第二項 豊橋家具業組合

組長 梅田了

副組長 岡本岩次

會計 浅吉

評議員 市川福太郎

同 河合藤一

同 三輪野佐和治

同 鈴木權三郎

第二項 豊橋葎業組合

組長 栗生菊三郎

副組長 市川榮一

會計 伊藤直吉

同 鳥居富平

會計 太田利平

同 成瀬興市

同 黒川芳太郎

同 前田岡平

同 足立萬治

同 杉山倉作

同 贊力藏

同 伊藤判次郎

同 丸地朝藏

同 川西萬吉

同 白井松三郎

同 相談役 川西萬吉

同 順問 伊藤判次郎

同 丸地朝藏

同 川西萬吉

同 白井松三郎

同 相談役 川西萬吉

第二節 岡崎市

第一款 洋家具並和家具

第一項 岡崎木工組合

組長 長坂小十郎

副組長 小峰巖

會計 佐々木藤重

評議員 西山越次

同 太田輝次

同 大森金太郎

第二章 岐阜縣

第一節 岐阜市

第一款 洋家具

第一項 岐阜洋家具業組合

|   |    |     |
|---|----|-----|
| 同 | 渡邊 | 一雄  |
| 同 | 武田 | 廣吉  |
| 同 | 山本 | 宇之吉 |
| 同 | 宮地 | 虎雪  |
| 同 | 杉山 | 利一  |
| 同 | 鈴木 | 福太郎 |

第二款 和家具

第一項 岐阜簞笥長持製造組合

|   |     |     |
|---|-----|-----|
| 同 | 田邊  | 彌七  |
| 同 | 山本  | 榮次郎 |
| 同 | 山上  | 伊三郎 |
| 同 | 後藤  | 長義  |
| 同 | 近藤  | 勇   |
| 同 | 淺井  | 京作  |
| 同 | 深田  | 傳吉  |
| 同 | 篠田  | 末吉  |
| 同 | 杉本  | 逸二  |
| 同 | 長谷川 | 寬三  |
| 同 | 村瀬  | 利夫  |
| 同 | 瀬川  | 保   |
| 同 | 川野  | 金治郎 |
| 同 | 相談役 |     |
| 同 | 青木  | 菊松  |

第二項 岐阜指物業組合

|   |     |     |     |    |
|---|-----|-----|-----|----|
| 同 | 副組長 | 吉田  | 釜源  | 吉  |
| 同 | 會計  | 飯沼  | 友吉  | 作  |
| 同 | 評議員 | 堀井  | 日芳  | 市  |
| 同 | 同   | 片岡  | 藤市  | 市  |
| 同 | 同   | 河合  | 伊三郎 | 市  |
| 同 | 同   | 後藤  | 伍兵  | 市  |
| 同 | 同   | 清水  | 政一  | 市  |
| 同 | 同   | 清水  | 泰介  | 市  |
| 同 | 同   | 松原  | 喜八  | 市  |
| 同 | 同   | 相談役 | 豐田  | 市  |
| 同 | 同   | 組長  | 村瀬  | 庄吉 |
| 同 | 同   | 副組長 | 宇野  | 慶一 |
| 同 | 同   | 會計  | 山田  | 新六 |

第二節 大垣市

第一款 洋家具並和家具

第一項 大垣和洋家具指物業組合

|     |    |     |
|-----|----|-----|
| 評議員 | 井上 | 芳雄  |
| 同   | 鷺見 | 政吉  |
| 同   | 矢島 | 春吉  |
| 同   | 北川 | 泰次郎 |
| 同   | 宮部 | 作兵衛 |
| 同   | 島田 | 芝三郎 |
| 同   | 關尾 | 濱治郎 |

第三章 三重縣

第一節 宇治山田市

第一款 洋家具及和家具

第一項 宇治山田家具商組合

|   |    |     |
|---|----|-----|
| 同 | 大橋 | 榮作  |
| 同 | 大橋 | 倍次郎 |
| 同 | 小川 | 嘉六  |
| 同 | 川合 | 定吉  |
| 同 | 高木 | 彌一郎 |
| 同 | 中島 | 靜三  |
| 同 | 中島 | 卯作  |
| 同 | 中川 | 光高  |
| 同 | 小寺 | 宗太郎 |

第二款 和家具

第一項 宇治山田漆器同業組合

|    |     |       |
|----|-----|-------|
| 會計 | 大橋  | 佐七    |
| 幹事 | 村田  | 源三    |
| 同  | 組長  | 宮崎一雄  |
| 同  | 副組長 | 橋本佐兵衛 |
| 同  | 同   | 二見光之助 |
| 同  | 會計  | 中東政雄  |
| 同  | 評議員 | 岩野才吉  |
| 同  | 同   | 若井利兵衛 |
| 同  | 同   | 和田久五郎 |
| 同  | 同   | 片岡善兵衛 |
| 同  | 同   | 野村正吉  |
| 同  | 同   | 久保田五兵 |
| 同  | 同   | 山口新之助 |

同 松谷嘉三  
同 阪本矢吉

(以下代議員省畧)

第二項 神都(宇治山田市)建具組合

組長 中西龍吉

副組長 栢木久松

會計 中北六壽

評議員 吉田勘六

同 中西音五郎

同 野村房吉

同 山口仙太郎

同 松岡正七

同 久田要次

同

第二節 桑名郡桑名町

第一款 和家具

第一項 桑名簞筒長持商組合

組長 相原清六

副組長 佐藤喜三郎

會計 久村源助

評議員 栗山清次郎

同 佐藤德次郎

同 佐藤孫太郎

同 三林榮助

第四章 静岡縣

第一節 静岡市

第一款 和家具

第二項 静岡漆器指物同業組合

組長 矢澤久右衛門

副組長 武藤孫左衛門

同 中川延次郎

(評議員) 大澤一皓

同 中山岩楠

同 山崎治助

同 澤井正三

同 芝井敏雄

同 望月政吉

同 毛利梅太郎

同(工入部) 時田熊吉

同 尾崎大次郎

同 多々良由藏

同 山梨金藏

同 增田熊藏

同 增田宗吉

同 平山仙次郎

同 奧田澄平

同 海野善次郎

同 岩本庄吉

會計 松本直清

主事 倉持豊

代議員 伊藤伊六

同 石川房次郎

同 石川伸一

同 池田榮太郎

同 岩ヶ谷洗

同 中條重太郎

同 太田甚造

同 太田長七

同 大原乙

同 岡田初吉

同 尾崎大次郎

同 高橋精一郎

同 高橋浩二

同 中川延次郎

同 中山岩楠

同 中村美保作

同 野々瀬良一

同 山崎治助

同 山口源太郎

同 山梨金藏

同 丸尾運藏

同 前畑波平

同 增田熊藏

同 福地治作

同 近藤廣吉

同 湯澤萬吉

同 芝井敏雄

同 平山仙次郎

同 望月淺吉

同 望月金藏

第二節 濱松市

第一款 洋家具

第一項 濱松洋家具業組合

組長 小澤茂一

副組長 (補欠交渉中)

會計 狐塚武八

同 須田壽美次

同 高木孝一

同 鈴木時太郎

第二款 和家具

第一項 濱松建具組合

組長 本田貞吉

副組長 河合猛

同 鈴木時太郎

會計 松本直清

評議員 同 阿津地金次郎  
同 中安吉三郎  
同 青木英二  
同 柴田宏

同 吉岡佐一  
同 中野高次  
同 杉山力平  
同 鈴木榮作  
顧問 高木孝一

會計 小長井喜作  
會計事務 大畑英男  
顧問 大橋金次  
同 杉山梅吉

第二項 濱松建具工藝組合

組長 大谷初次  
副組長 糟谷理市  
同 中村藤藏

第三節 清水市 第一款 和家具及洋家具

第一項 清水和洋家具商工組合

會長 小長井豊司  
副組長 內藤貞太郎  
理事 井上勳  
同 大楨米次  
同 古山定次  
同 鈴木平次郎  
同 鈴木伊太郎  
會計 鈴木伊太郎  
評議員 河合茂一

同 海老岡德二  
同 藤原伊三郎  
同 松永節  
評議員 篠崎彌平  
同 山本徳次  
副組長 內藤貞太郎

第四篇 組合史

名古屋洋家具界今日ある源、換言すれば名古屋に於ける洋

### 名古屋洋家具界の今日ある源

#### 明治十二年に古椅子を分解研究

家具の創始者共顧らる可き人は、名古屋市東區針屋町一丁目山田宗太郎氏の先代で安政元年上七間町（今の東區七間町）に生れた山田藏次郎氏であつた云はれてゐる。同家は其かみの徳川時代に、徳川十有餘代の中八代迄「御駕司」として仕へ、其の名聲隣國他郷に知られてゐたが、藏次郎氏の代さ

## 第一章 愛知縣

### 第一節 名古屋市

#### 第一款 洋家具

#### 第一項 名古屋洋家具商工組合

洋家具は和家具と異り、外來思潮の産物であるだけに其の歴史は新しい。之は一人名古屋のみに止まらず、全国各地共通のもので、只文明開化の差に依り之が發達上若干の相違があつたに過ぎないであらう。此の意味に於て往年の長崎、横濱等は他動的に之等の思想が發達してゐたものではなからうかと想像される。假令之が彼地に於て製作し發賣されてゐなかつた迄も。——併し乍ら、斯る問題は専門家の研究範圍に屬する事であるから之はしばらく措くとして、茲では名古屋に於ける洋家具の發達過程、就中組合史の主題に準じて筆が進めたひ。

本稿は組合史であつて廣義的に於ける業界史で無い事を前以て御斷りしておく。従つて廣義的業界に關しての事項については殊更言及を避け組合を中心に筆が進め度ひ。然し乍ら之を以て完全なる組合史である云ふのでは勿論無く未だ調査、研究が充分でないのを頗る遺憾とする。殊に二、三の組合を除いては全く組合史と云ふ言葉を用ひ得ない程事程に調査の貧弱さ加減を自ら暴露するもので、遺憾乍ら之を認める。が何分にも便りさすべき參考資料尠なく或ひは全然無い方面すらあつて調査上困難を來し僅か半歳や一ケ年の時日で之を充分に調査、研究してものは到底不可能である。故に之が詳細は他日充分なる時間を得た場合に譲り、本稿は差當り沿革の大略を記して擱筆する（筆者識）

なるや、偶々明治維新に遭遇して文明開化の潮流に棹さし、大いに感ずる所ありて明治十二年東京より古椅子を一箇購入之を分解研究して同時に洋家具業を創めたものである。以来數十年を之が業に従ひ、昭和四年十月二十七日午前八時七十六才を一期に老衰病で逝去した。故に、氏が斯界に貢獻したるは蓋し大であり、且又之が洋家具界をして今日あらしめたものであると云はなければならぬであらう。而して同氏に次で鈴木常三郎、近藤善七兩氏等が創業し、往年の名古屋洋家具界に重きを爲したと云はれてゐる。



往年を偲ぶ藤原型 合資会社藤田洋家具製作所製品にして本稿起草に際し参考資料として寄贈を受けたもの。

### 名古屋西洋指物組合の創立

大正三四年頃名古屋市を網羅し

明治前半は大体に於て右三氏の時代であり、次いで現洋家具界の重鎮格である敷氏が漸次現はれて後半に活躍し、世も大正となるや同業者日に月に増加の傾向に鑑み、之が親睦機關共云ふ可き組合の設立案が出で、大正三、四年頃青山、平手兩氏其他發起のものとに名古屋西洋指物組合を創立した。参加者は市内一圓に渉り、苟くも洋家具木製業者である限り廣く之を網羅し、相當有力な団体になつてゐた。が數年間繼續して解散した。故に其の後數年は確たる団体も無く過ぎてゐる。此の間裏門前町通りの一部有志に依り中央會なるものが設立され、之も數年維持されてゐた。

### 名古屋洋家具組合設立

公認組合創立の前提として

未組織的の悲哀を感じつ、あつた洋家具界は、市當局の慈

慮もあつたもの、如くであるが、時代の變遷に伴ひ、之が組合の必要性を認識する所あつて敢然起ち、先づ公認組合設立の前提として、大正末期から昭和にかけて名古屋洋家具組合設立の聲が出た。而して之が發起人は

- ▼青山市太郎▼平手萩三郎▼河瀬彌兵衛▼溝口九十郎▲山田宗太郎▼鈴木久太郎▼岩間竹次郎▼中村市十郎▼春日井岩次郎▼後藤松次郎▼加藤又三郎▼林與七▼中田清
- の諸氏で、右の中青山氏總代となり御典をあけ、昭和二年六月一日愛知県商品陳列館に於て創立總會を開催、組合員八十九名中出席者七十五名にして、劈頭議長選舉を満場一致で青山市議長に推され

一、創立總會決議署名決定の件二、規約議定の件三、創立費報告の件四、最初の事業年度經費豫算並に徴收法議定の件五、組合設置認可申請中當局より不備の點訂正方示達ありたる時は意義の變更無き程度に於て規約其他字句の修正は發起人に一任の件六、豫算は中途につき其の殘額は發起人に一任の件七、役員選舉は議長指命

等々の七項目に渉り審議可決、次いで役員は議長指名に依り

兼會計山田宗太郎、溝口九十郎▼評議員岩間竹次郎、青山市太郎、鈴木久太郎、中村市十郎、春日井岩次郎、林與七加藤又三郎、後藤松次郎、中田清

の諸氏に決定、就任した。右は創立總會以後昭和三年十月迄の第一期役員であつた。次で同年十一月依り四年十月迄の第二期役員は右に殆ど同じであるから之を省略しておく。事業としては、此の間昭和三年十月七日より十日間愛知県商品陳列館に於て、洋家具の即置展覽會を開催したる外御大典記念博覽會に出展をしてゐる。

### 名古屋洋家具商工組合 生る

昭和四年一月同業組合準則として

申し合せ乍らやつと母体を築いた名古屋洋家具組合では、更に之を重要物産同業組合法に準じたるものに昇格して組合の使命を發揮し、業者相互の親睦は勿論之が利益を圖る目的から前記發起人即ち青山市太郎氏外十二名は名古屋洋家具商工組合と改稱の上、昭和三年三月八日付之れが認可の申請書



を當局に向つて提出したる所、幸ひにも十ヶ月後の昭和四年一月卅一日付指令商第六七七號を以て時の愛知縣知事小幡豊治氏より同業組合準則に依認可されて来た。

### 公認後の第一回定時總會

#### 初代組長に青山市太郎氏推さる

名古屋洋家具商工組合と改稱し、更に重要物産同業組合法に依る準則の認可を得た同組合は、認可後其の第一回總會を昭和四年十一月一日東郊覺王山日蓮寺に於て開いたが、之より先第一回業者並に家族の追悼法會を午前十時五十分から同寺本堂に於て嚴肅裡に營み、終つて新館大廣間で總會に移り役員の改選を行つた。其の結果

- ▼組長青山市太郎▼副組長平手萩三郎、河瀬彌兵衛▼會計山田宗太郎、溝口九十郎▼評議員岩間竹次郎、林與七、春日井岩次郎、中村市十郎、中井彰、山口鶴壽、後藤松次郎、近藤銀次郎、白井義一、鈴木久太郎▼名譽顧問今堀辰三郎▼顧問鈴木政吉

### 全家具聯の第六回大會

昭和五年十一月一日午前十一時より名古屋市公會堂に於て第二回定時總會を開催、出席者五十有餘名に來賓數氏で五年度事業並に經費決算及び金澤大會の經過報告を爲し、更に六年度大會引受の各承認を求め、役員選舉は欠員補充の外前役員の重任に一決、新役員に於て六年度經費豫算案を審議及び大會開催方針を述べ、終つて公會堂備品殊に家具を參考迄に觀覽した。因に役員は左の諸氏就任。

- ▼組長青山市太郎▼副組長平手萩三郎、野々山孫八▼會計山田宗太郎、溝口九十郎▼評議員岩間竹次郎、新田ベニヤ出張所、中村市十郎、春日井岩次郎、大野新吉、山口鶴壽、後藤松次郎、近藤銀次郎、白井義一、鈴木久太郎▼名譽顧問今堀辰三郎▼顧問鈴木政吉

此の總會を終へてからの洋家具陣營は聊か緊張の色を見せてゐた。云ふ迄も無く其れは全家具聯の第六回名古屋大會の開催を僅か数ヶ月の後にひかへてゐたからである。故に之が準備その方法に關しては、主腦者に於て相當考究されておる委員に

- ▼飯田五郎作、橋村新之助、西尾森一、富田俊一、岡本喜

### 開催引受を可決

#### 昭和五年五月の臨時總會で

昭和五年五月一日午後一時より新世界内喜樂亭に臨時總會を開催、此の日棟雨を衝いて參會する者五十有餘名にして一、全国家具指物業組合聯合會第五回金澤大會出席の件及び第六回大會名古屋開催引受の件二、洋家具製作品競技會並に勤続模範従業員表彰の件

を協議した。而して一、は出席し、第六回大會開催に關しては之が引受に滿場無異賛成可決二、は大會開催が不可避的立場にあるので一時保留し、それ丈に大會を引受た場合はそれに全力を注ぐ可く申し合せた。斯て會場難で、云はれてゐた大會引受回避説も、宏莊な市公會堂の竣工を目捷にしてゐては、眞逆然うでもあるまいから實際の本音を吐いて組合財政の窮乏も、窮すれば通ずるの謂ひで、何さか經費の捻出方法もあらん、態度を極めたものである。

### 業界未曾有の歴史的光景

#### 全家具聯第六回名古屋大會

之助、小野豊二、加賀嘉一、吉川鐵治郎、宇佐美辰次郎、安藤鶴吉、北川辰五郎、宮本精二、水野幸一、廣瀬鶴三郎、毛利乙三郎

の諸氏を挙げ、第六回大會の總本部たる之が事務所を、名古屋洋家具商工組合事務所に當てられてゐた中區裏門前町二丁目青山洋家具店樓上に置いて陣容に遺憾無きを期し、半歳有餘の準備全く成つて五月廿四日名古屋市公會堂四階小ホールに於て全國代表委員會を、翌廿五日は同じく市公會堂大ホールに於て歴史的大會が筆筒側と共同主催下に開かれた。會する者全国各地並に地元より約六百名の多數にのぼり、來賓としては縣市當局を始め各新聞記者其他關係知名の士で、未曾有の盛況を早した。が提出議案其他詳細に關しては、本組合史の主旨には聊かそれるのではないかと思はれるから、何れ廣義的に於ける業界史をものする機會を得て、それへ譲るを得れば幸ひである。

業界未曾有の盛況を早した全国家具指物業組合聯合會第六回名古屋大會に關しては、詳細を何れ後日に譲るゝるも之より先、五月廿一日より廿七日迄七日間之が付帯事業として

第一會場を名古屋松坂屋及び第二會場を高麗屋に當て、全國家具指物展覧會を開催した。出品者は名古屋の地元は勿論、全國各地より多數を得た。其中洋家具部入賞者は左の諸氏である。

▼優秀賞 洋家具一式合資會社河瀬商店、書齋セツト株式會社誠工舎▼優良賞 洋家具一式合名會社鈴木洋家具製作所 岩間竹次郎商店、合資會社菱田洋家具製作所、橋村新之助商店、富田家具木工所、椅子卓子合資會社清口洋家具木工所、合資會社山田家具店、鋼鐵椅子鶴見製作所(以下進歩賞略)で、佐藤市立工藝校長を審査長に香取同木材工藝科長を副長に仰ぎ業界よりは鈴木政吉、青山市太郎、平手萩三郎(以上洋家具部で筆筒部略)の三氏審査員に擧げられ嚴選、公平に其の職を全ふした。従つて以上三氏の出品物は之が審査を辭退した。

### 第一回勤績模範従業員

並に舊役員等の表彰式典

一大事業であつた大會並に附帶事業たる家具展の後始末を

つけ、一息入る、間もあらはこそ恒例に依り十一月開催さるべき定時總會に先立ち、同組合第一回の勤績模範従業員の表彰を爲すべく、之が準備に約二ヶ月間を要して被表彰者の調査並に査定を終へ、愈よ昭和六年十一月一日午前十時より名古屋市公會堂四階ホールに於て其の第一回勤績模範従業員(店員、徒弟、職工)並に舊役員等の表彰及び業界功勞者に對する感謝狀贈呈の各式典を舉行、此日出席者は、被表彰者及び組合員を合して二百名、來賓側では縣市當局を始め今堀、佐藤兩顧問及各新聞記者列席裡に、従業員には大岩名古屋市長の名に於て右總代理野藤吉君に、舊役員には名古屋實業組合聯合會長岡谷惣助氏の名により夫々授與され、業界功勞者には青山組長より贈呈した。即ち左の如し

▼従業員二十年以上淺野藤吉(野々山孫八氏方)十五年以上佐藤丑松(同上)十年以上小笠原米造(小粥鑄五郎氏方)三君の外四十有餘名▲舊役員林與七氏外五名▼業界功勞者吉川鐵治郎氏外四名。

督勵されて組長に重任

### 第三回定時總會で青山氏が

次いで當日午後一時より引續き第三回定時總會を開催し、役員選舉の結果左の諸氏決定、就任を見るに至つた。

▼組長青山市太郎▼副組長平手萩三郎、野々山孫八▼會計山田宗太郎、溝口九十郎▼評議員岩間竹次郎、飯田五郎作、大野新吉、大島重太郎、岡田増藏、岡本喜之助、吉川鐵治郎、中村市十郎、近藤銀次郎、安藤鶴吉、宮本精二、安井喜三郎、平岩曉平、誠工舎、鈴木久太郎▼名譽顧問今堀辰三郎、佐藤松治郎▼顧問鈴木政吉

大會を恙無く終へ、更に第一回勤績模範従業員並に舊役員等の表彰及び業界功勞者の感謝狀贈呈の各式典を自己の手で爲し、之を置土産に此の邊が勇退の潮時と考へた青山氏は、組長の職を退く可く非公式に意のある所を披瀝したものだ。然るに圖らずも又々選舉されたので之を固辭したが總會の輿論が許さず、尙今堀顧問よりも督勵されて漸く臍感し、就任するに至つた。

### 洋家具圖案と圖書展覧會

### 第一回工藝展の出品物を資料に

昭和七年八月十五日午前八時より若宮神社々務所に於て洋家具圖案並に外國參考圖書展覧會を開催、之が目的とする所は業界の向上發展に資するにあつて、出品物は愛知縣工藝協會主催に關する第一回工藝展覽會に出品されたもの中、洋家具に關する嶄新な圖案並に愛知縣商品陳列所秘藏の外國圖書を公開したもので、觀覽者約四、五十名。數に於ては徴々たるものであつたが入場者は何れも熱心に鉛筆を持って引寫す等實質的には相當の收穫を得たもの、如く午後五時閉會。

### 第二回舊役員等の表彰式典

### 第四回定時總會に先き立ち

それより二、三ヶ月後の十一月一日午前十時四十分より東郊泉竹に於て恒例に依る第四回定時總會を開催、出席者約六十有餘名にして總會に先立ち舊役員

▼後藤松次郎▼春日井岩次郎▼新田マニヤ名古屋出張所三氏の表彰式典を舉行、次いで總會に移り

一、昭和七年度事業並に會計報告二、役員改選三、八年度豫算案審議四、規約改正等々其他で、右役員選舉の結果

▼組長青山市太郎▼副組長平手秋三郎、野々山孫八▼會計山田宗太郎、溝口九十郎▼評議員岩間竹次郎、飯田五郎作井上廣三郎、西尾森一、富田俊一、大島重太郎、大野新吉岡本喜之助、岡田増藏、中村市十郎、安井喜三郎、近藤銀次郎、安藤鶴吉、北川辰五郎、宮本精二、平岩曉乎、毛利乙三郎、誠工舎、鈴木久太郎▼名譽顧問今堀辰三郎、佐藤松治郎▼顧問鈴木政吉

### 第一回店員、徒弟の修業證書授與式典

#### 伊藤金雄君外六十八名の

昭和八年度の事業としては、恒例に依る定時總會開催に先立ち十一月一日午前十一時より名古屋市公會堂四階ホールに於て當時過去五ヶ年に於ける店員、徒弟の年明並に別家せる所謂修業者の修業證書授與式典を舉行了。出席者は組合員の外被授與者で一百有餘名、來賓側よりは縣、市當局並に各

新聞記者其他等々列席のもとに伊藤金雄(合資會社山田家具店徒弟年明)君外六十八名に對し、夫々修業證書が授與され盛會且嚴肅裡に式を閉じた。

#### 萬年副の平手氏正になほる

#### 第五回定時總會で鈴木氏が第二副に

次いで同日午後一時四十五分より同所に於て引續き第五回定時總會を開催、役員改選の結果

▼組長平手秋三郎▼副組長野々山孫八、鈴木久太郎▼會計山田宗太郎、岩間竹次郎▼評議員飯田五郎作、井上廣三郎橋村新之助、西尾森一、富田俊一、大野新吉、大島重太郎岡田増藏、加賀嘉一、中村市十郎、安井喜三郎、近藤銀次郎、安藤鶴吉、佐藤守義、北川辰五郎、溝口鉦一、宮本精二、菱田梅三郎、毛利乙三郎、誠工舎▼名譽顧問今堀辰三郎、佐藤松治郎▼顧問鈴木政吉、青山市太郎の諸氏決定就任した。

#### 青山氏の勇退は絶好の

#### 潮時か

#### 店員、徒弟の修業証書

#### 授與式典を置土産に

而して之に依り愈よ青山氏が勇退し氏の宿望も實現した譯で伊藤金雄君外六十八名の年明、別家に對する修業證書の授與式典が所謂置土産になつた。氏は組長に在職當時、つゞこよく仕事をした。そして其の要職を然も數期に涉つて過ち無く果した事は、氏の爲に將た又業界の爲に慶賀すべきであり、勇退に絶好の潮時であつたらう。次いで第一副を長く承たまはり、萬年副の感さへあつた平手氏の正、第二副の野々山氏の第一は、何れも平凡な順序的昇格であつたが、第二副には從來評議員の鈴木(久)氏を据れた。之は思ひ切つた抜擢で異彩を放ち、而して青山氏を隱居役に封じ込んだものと云ふと語弊があるから字句を修正して、顧問たる最高顧問に推戴したものであると云ひたひ。斯くて陣營を新にした名古屋洋家具界は從來の空気を一變し、明日の躍進を期待されてゐる。

#### 刑務所作業の緩和方を

#### 司法當局に陳情

民間業者を壓迫し脅威せしむるものとして

刑務所の木工作業民間業者壓迫問題に關し、之が緩和方を望む聲は全國各地より出で、あるが、曩に全國家具指物業聯合會第六回名古屋大會開催の砌、之が緩和方を司法當局に向つて陳情すべく、偶々名古屋洋家具商工組合より提出したる所可決を見るに至り、其の後各地共極部的運動は試みられしたが其の効顯著ならざる時、更に同會第八回大阪大會で之が促進の再決議をした。故に、其の決議に基き昭和九年二月十三日宮本、宮崎全家具聯合會會長を始め關東、關西の各地代表者と共に名古屋よりは平手、溝口、鶴見、瀬見井四氏代表して參加し、司法省に野野行刑局長を訪ひ續々實情を陳辯して緩和方を要望した。その結果野野局長は之を諒し、全國各地の刑務所長並に少年刑務所長宛之が注進方を通達した。

其他木工業者の火災保険料率遞減、鐵道貨物運賃引下等々夫々勸告乃至陳情をしたが之は略しておく。

### 家具指物業界の祖神確定

原案に修正を加へ全家具聯て

家具木工業者が、自己の業務たる家具指物の祖神を知らざるは頗る遺憾であるを爲し、之が祖神を究めると共に疊に全家具聯第八回大阪大會に對し、業組忌の設定及び家具祭の執行を名古屋洋家具商工組合より提案したる所幸にも可決するに至り、只祖神につきましては慎重研究の要ある所から、提出祖神をして更に全家具聯側に於て調査研究の結果

▼久々能運命▼手置帆帆命▼彦狹知命  
の三柱が祖神である事が明かとなり、原案一部に修正を加へ愈よ確定した。故に昭和九年五月七日午後一時より博多商工會議所に於て開かれた同聯第九回福岡大會には會場祭壇を設け、協議會に先立ち嚴かに祖神祭を執行して歴史の未曾有の光景を早した。斯くの如きは一人提案者の感喜のみならず

延いては敬神の念を徹底せしめる上に於て、頗る有意義であらう。

### 第一期を終へた平手氏組

長に再選さる

昭和九年の第六回定時總會て

平手新組長の第一期は早くも終熄を告げ、昭和九年十一月一日午後三時より岡井町清月花大廣間に於て第六回定時總會を開催、出席者約五十名にて

一、九年度決算報告二、従業員修業證書は隨時交附に變更の件三、役員改選四、十年度豫算案審議  
其他で右一、二は承認四、は原案可決三、に戻つて役員選舉の結果

▲組長平手萩三郎▼副組長野々山孫八、鈴木久太郎▼會計山田宗太郎、岩間竹次郎▼評議員飯田五郎作、井上廣三郎、橋村新之助、西尾森一、富田俊一、岡田増藏、加賀嘉一、中村市十郎、安井喜三郎、近藤銀次郎、安藤鶴吉、安達増市、佐藤守義、溝口鉦一、宮本精二、三輪朝治郎、菱田梅

三郎、平岩鉞次郎、毛利乙三郎、誠工舎▼名譽顧問今堀辰三郎、佐藤松治郎▼顧問鈴木政吉、青山市太郎  
の諸氏就任し、評議員の補欠を補充したるに止まり殆ど重任してゐる。

### 第二回店員、徒弟修業證書

授與さる

平手組長の名において

疊の總會に於て承認を得た店員、徒弟の修業者に對する修業證書の授與に關しては、雇傭主の申告に基き之が査定の上隨時交附する事となつたので、昭和十年一月廿八日

### 第二款 和 家 具

### 第一項 名古屋簞笥商工組合

名古屋簞笥商工組合の前身は、大正九年二月一日附申請指令商第六一六號を以て三月十一日時の愛知縣知事宮尾舜治氏より重要物産同業組合法に依る準則組合を、樋口由太郎氏外六名發起に關る名古屋簞笥長持製造組合の認可を得たのこ、大正九年七月十四日付申請、同十二月廿三日指令商第

▼松井久一(合資會社溝口洋家具木工所方)君外二十名の修業者に對し、平手組長の名に依りそれら記念品に副へて授與した。

### 昭和十年度豫算並に徴收法

三月一日付大岩市長より認可

昭和九年十一月一日付申請に關る十年度經費豫算並に徴收法は、昭和十年三月一日附産商第二三八號を以て名古屋市長大岩勇夫氏より認可された。

二〇九九號に依り同じく宮尾知事より認可されてゐる齋藤次兵衛氏外五名發起に關する名古屋單筒商組合がそれであつて即ち製造組合が現在の工であり、商組合が現在の商である。而して更に右兩者の前身を探究すると、商組合は其のかみの單榮組であり、製造組合は單筒製造營業組合である事が判明した。故に筆者は此處から筆を起す事とする。

### 明治後半に生れた單榮組

當時組合員は僅々六名

單榮組は、明治三十年齋藤次兵衛、加藤春吉兩氏等發起にて創立されたものである。當時組合員は

▲齋藤次兵衛▼加藤春吉▼高橋藤七▼渡邊金次郎▼石川鐵太郎▼北岡勘太郎

の僅數氏であつた。それでも三年後の明治三十三年には組合員も十二名に増加してゐる。故に之が取扱ひ上役員を設ける事となり、初代役員に

▼頭取齋藤次兵衛▼副頭取石川鐵太郎▼會計高橋藤七▼幹事原甚太郎

の諸氏が擧げられた。其の頃は毎年六月より九月迄の約四ヶ月間は塗生地で十錢、前張で二十錢方の各値下が例になつて

みた。今當時の作料を掲げると

▼塗生地一、三二〇▼白前張り重ね二、二〇〇

であつた。そして此の數字ですつと居居つてゐた。が三十三年より三十九年頃迄は

▼塗生地一、三五〇▼白前張り重ね二、二五〇

で、塗生地で三錢、白前張り重ねで五錢の各値上を見てゐる而して當時の販賣價格は

▼白前張上置付九、五〇〇▼焼桐下等六、二〇〇▼塗單筒六、五〇〇▼四分長持三、〇〇〇▼塗上置唐紙付二、〇〇〇▼焼桐上置一、八〇〇▼東京型六、五〇〇

で之が又組合の建値でもあつた。故に之を守る爲め罰則が設けられてゐて、販賣統制を亂し規約に違背した者は五圓の違約處分に付される事になり、又此の違約金の處分が奮つたもので、違約行爲發見者が二圓五十錢を受取り、残り半額は

社本七五郎、石川鐵太郎、原甚太郎、樋口由太郎

の諸氏が就任し、牛耳を採つてゐた。越つて大正三年五月の總會に於いて同じく役員の改選を行つたが、筆者の蒐集した材料の中にはさんな商觸れで陣容を整へたのか不明である。

が此の間一度石川鐵太郎氏が頭取の要職に就いた事は明らかだから、今期か前期位なのたらう。更に大正六年五月の總會で齋藤次兵衛氏が二度頭取に就任してゐる。が其他の役員は

明らかで無い。推測するに一、二期の商觸れで組織されたものらしい。此の頃には、單榮組も相當に發達して來て次第に組合員も増加し、始め四、五の販賣を主とした者の親睦機關であつたものが、漸次進展して製造を主とする者も加盟をして、勢ひの爲す所遂に販賣、製造の二主流が生れて黨中黨を爲すに至り、内部の統制麻の如く乱れ、遂に二潮流は分裂した。之が原因は少壯派の急進論により、新舊思想の相容れざるに依るものと推測されるが、何時の時代にも新舊の衝突は免れない所で、その結果として、遂に行く可き所迄行つて破裂したに過ぎない。

### 明治末期に單榮組分裂

商工對立の結果から

明治四十四年五月九日の總會に於て役員の改選を行つた。

其の結果

▼頭取齋藤次兵衛▼副頭取高橋藤七▼會計林作兵衛▼幹事

### 簞笥製造營業組合生る

明治四十二年六月公証に付し

之が直接の導火線共觀らる可きものが奈邊にあつたかは筆者の知る所では無いが、之より先明治四十二年六月十五日に公證人宮下匡役場にて津田信行氏立會ひのみに、製業者と觀る可き左の諸氏が契約を締結してゐる。即ち左の如し

(原文の儘)

- 第玖阡伍陸貳拾陸號 簞笥製造營業組合契約證書謄本 各當事者一同ハ明治肆拾貳年陸月拾伍日公證人宮下匡役場ニ於テ津田信行ノ立會ヲ以テ左ノ契約ヲ締結ス
- 第壹條 服部六太郎、尾關長藏、服部由太郎、廣瀬鐵治郎、服部常次郎、伊藤淺次郎、高橋喜三郎ハ相互ノ親睦ヲ旨トシ共同團結シテ營業上ノ利益ヲ謀ル目的ヲ以テ簞笥製造營業組合ヲ組織シ各自之ガ組合員ナリトス
- 第貳條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ貯金壹阡捌圓ノ積立ヲ爲ス
- 第參條 壹ケ月ノ積立ヲ參拾口トシ壹口ヲ金壹圓ト定ム
- 第肆條 積立金ノ口數及ヒ其ノ人名左ノ如シ

- 一、陸口服部常次郎一、伍口尾關長藏一、伍口服部六太郎一、肆口伊藤淺次郎一、肆口高橋喜三郎一、肆口服部由太郎一、貳口廣瀬鐵治郎
- 第五條 本組合ニ頭取壹名、幹事貳名ヲ設置ス但シ役員ノ任期ハ滿一ケ年トス

之あり、以下役員の選舉方法等で更に第拾條 組合員ハ營業上ノ信用ヲ保持スル爲メ原材ヲ精撰シ製造ニ入念シ以テ粗悪品ヲ製出セサルヲ要スルハ勿論ニシテ其ノ價格ノ競争ヲ決シテ爲スコカラス

さある。以下第十六條迄あるが、他は採録の要を認めず省略する。此の組合の生れた主旨は、不正競争を避ける目的からであつた事は云ふ迄も無い。所で組合の創立であるが、公證人役場で相互に契約を締結した時か、乃至は之より先に生れてゐたものか、それを更に組合をして有意義たらしむべく、右の年月に公證に附したものであるかは判然してゐないが、前後から推して創立と同時に公證に付したものと、加くである

### 名古屋簞笥長持製造販

### 賣業組合

合に舉がつた。其の得意や推ふ可きである。

### 名古屋簞笥商組合

大正九年十二月二十三日

同じく同業準則で認可さる

而して右の簞笥製造營業組合がその邊迄利用され、如何なる活動をしたかは其の間の消息が判然してゐないが、兎もあれ公證に附する迄の面目が加減であつたから、相當有意義に活用されたものと想像出来る。之が所謂簞笥組の脱退派であるか、乃至は又全然別個のものであつたかも判然しない。が何れにしろ之が名古屋簞笥長持製造組合設立の直接動機を爲したものは云へない迄も、同組合設立過程に拍車をかけたものでは無いかと觀られてゐる。

### 大正九年二月五日同業組合準則として認可さる

斯様にして名古屋簞笥長持製造組合が生れ、同製造組合は更に時代の潮流に掉さして重要物産同業組合法に依る準則組合の設立に向つて奮進し、名古屋簞笥長持製造販賣業組合と改稱して、當時一方の旗頭であつた樋口由太郎氏外六名の發起人總代をかついで、簞笥組を尻目に御輿を擧げ、大正九年二月五日附時の愛知縣知事宮尾舜治氏宛申請した所、指令商第六一六號を以て同年三月十一日附認可され凱歌は遂に同組

斯くしては、母体である簞笥組は面白く無い。従つて早速齋藤次兵衛氏外五名の發起人總代を先頭に押立て、同じく重要物産同業組合法に依る準則組合の認可方を、宮尾愛知縣知事宛同年七月十四日附申請したものである。名稱は名古屋簞笥商組合とされてゐたが、奇蹟的にも其の年も押詰つた二月廿三日附、指令商第二〇九九號を以て之が認可されて來た。斯様にして母体である簞笥組の面目は大いに立ち、同時に母体らしい堂々たる貫録を示すに至つた。迄はよかつたが問題の幕は愈よ切つて落され、舊簞笥組對製造販賣業組合の業界内部的對立に止まらず、遂に犧牲者を出すに至り、某市吏員の如きは血祭に上つてゐる。尤も彼は此の問題のみならず、類似の不正行爲を常習としてゐた關係からであつた

### 兩組合合同の前提か

#### 第二回職工徒弟製作品競技會が

元來同一市に於て、業態を同じくする同業組合二者以上の存立を許さぬのが組合の建前であるにも拘はらず、右の如き二者に認可を與へたのは全く奇蹟的であり、奇蹟であつた。従つて問題は、斯様に有り得べからざるものが事實上存在した所から始まり、輪に輪をかけて大きな波紋を描いたが、遂に行き可き所迄行つて清算された。その結果として、偶々白紙になつた市當局より之が併合を慫慂され、斡旋よろしきを仰て兩者大いに譲歩の色を見せ、製造組合では大正十二年一月十二日午後一時より大須泉竹に總會を開催

一、大正十二年度組合經費豫算並に徴收法二、十一年度決算及び事業報告三、商工組合成立後は本組合解散及び清算人の件

で右三案共承認され、満場一致可決した。而して清算人には森田健次郎、土井甚兵衛、島本忠左衛門

の正副組長三氏に確定し併合機運愈よ濃厚となつた時、之が前提共観らる可き第二回職工、徒弟製作品競技會を、同年六月十五日より七月二十八日迄（豫定は七月十八日迄のもの）愛知県商品陳列館に於て開催し、會長には同館長、審査長に深見市立工藝校長、審査員香取同木材工藝科長で出品者三十二名、出品點數審査請求品四十二點、即賣三百餘點、受賞者一等總桐黒檀椽洋服箆筒土井兼松氏外十七名でその褒狀授與式を七月二十七日午後二時より同館に於て舉行した。

### 名古屋箆筒長持製造販賣業

#### 組合解散

次いで名古屋箆筒商組合規約變更等何れも認可

右の競技會頭初の日、即ち六月十五日に商組合が同館に於て定時總會を開催した。出席者全員廿七名にして一、大正十一年度組合經費決算報告二、組合規約變更の件で右一及び二の兩案共承認、組合合同の目的で満場一致可決

#### 森田外二氏の清算人から

解散した製造組合では、其の後始末を爲すべく七月廿七日午前十時より商陳に臨時總會を開催し、森田（健）氏議長となり

一、十二年度（自四月至七月）經費決算報告二、同殘金處分の件三、清算人補欠補充の件

で右一、は承認され二、は商工へ引繼、組合員に返済三、は森田、土井、樋口の三氏に決定を見た。之に依るさ島木氏が辭職したものと観られてゐる。右臨時總會に於て承認を得た清算人を以て、翌八月に入つてから時の市長川崎卓吉氏宛報告した。

### 商工合同成り歴史的

#### 一回總會開かる

大正十二年八月一日に、初代組長土井？加藤？兩氏の何れかて

先陣を競つて波瀾重疊を極めた名古屋箆筒界も行く可き所

### 製造組合の清算報告

名古屋箆筒商組合 大正十二年七月七日付申請其組合規約變更の件認可す  
の辭令に接してゐる。

した。而して愈よ商及び製造の兩組合が合同する事となり、七月六日附森田健次郎氏外四十五名の製造組合員は加入及び組合の解散同意書を、商組長土井兼松氏に手交、而して翌七日附にて「商、工成立の上は同組合に加入致度」の理由で、製造組長たる森田健次郎氏より時の愛知県知事宛組合解散認可申請書が提出された。依つて指令商第一二五八號にて名古屋箆筒長持製造販賣組合大正十二年七月七日付申請其組合解散の件認可す

で同月廿四日付太田知事の認可を得てゐる。斯くて兩者は業態を同じくするを以て意見一致しの理由で、商組合規約中三五、十七、三九、四十、四三、五六、六九、七一の各數ヶ條に涉つて之が變更認可申請書を七月七日附、商組長土井兼松氏より時の愛知県知事太田政弘氏宛提出、同廿四日附指令商第一二五一號を以て

迄行き、落付くべき所に落付いて嵐の後の静けさ。だが其の中にも未知の國を想像する興奮裡に歴史の更生の第一歩を踏出すべく、商工合同後の第一回總會を其の年の八月一日に開き役員選舉を行つた。其の結果

▼組長加藤春吉▼副組長樋口由太郎、菅谷安太郎▼會計土井甚兵衛、大村鍋吉▼評議員森米吉、安井治三郎、林作兵衛、北岡勘太郎、土井兼松、石川鐵太郎、齋藤次兵衛、高橋喜三郎、島本鐵太郎、尾關長藏、服部常次郎、服部六太郎、土井甚太郎、恒川伯太郎

の諸氏就任、同十七日附川崎市長宛報告した。之に依るに、八月一日の總會で選舉された役員である事に於ては何等疑義を挿む餘地は無いが、之より先同年七月廿七日に行はれた職工、徒弟、競技會の褒賞授與式には、名古屋簞笥商工組合組長として加藤春吉氏が式辭を述べており、時の愛知縣知事は太田政弘氏で氏の祝辭が出てゐる。此の點から推すに右大正十二年度に行はれた競技會前に、既に加藤氏が組長をしてゐた事にもなる。と云つて此の直前は土井兼松氏が其の要職にあり、現に品評會開催に當り、六月に申請した産業獎勵金

の下附書には、土井兼松氏の名を以てしてゐるから此の間一ヶ月、當時の事情から推して頗る複雑多岐を極め、筆者の調査範圍では此の程度より判明してゐない。兎もあれあはたしき大正十二年ではあつた。

### 關東大震火災の影響

桐材は不變、縦は若干昂騰

尙組合に直接の關係は持つてゐないが、其の年の九月は例の關東大震火災で、之が間接に受ける影響無しとしない。即ち桐材は何等變動も無かつたが、縦材は昂騰してゐる。右は震災地に於ける諸材の需要が激増した關係からか、約一割方の急騰を示し、之が製品五分方の騰貴を見るに至り賣行も芳はしくなかつた。

### 第三回名古屋簞笥製作

#### 品競技會

大正十三年に商陳で一ヶ月間餘

越えて大正十三年には六月五日より七月七日迄一ヶ月間

餘商陳を會場として第三回名古屋簞笥製作品競技會を開催、會長に深見市立工務校長、審査長に香取同木材工務科長を推し出品人三十五名中入賞者一等四名、二等十名にそれく賞状を授與してゐる。

### 事業をしなかつた大正の末期

#### 役員の怠慢からか

十四年六月一日の總會では、役員改選の結果左の諸氏が當選就任した。

▼組長林作兵衛▼副組長菅谷安太郎、樋口由太郎▼會計服部六太郎、森米吉▼評議員大竹彌五左衛門、大村鍋吉、安井治三郎、土井甚兵衛、伊藤淺次郎、服部由太郎、渡邊代次郎、北岡勘太郎、三輪繁次郎、加藤岩藏

### 昭和二年のモラトリアム

此間には殆ど事業らしいものは行はれてはゐない。

#### 經濟界の一大動盪

越えて昭和二年一月廿日午後四時より大須泉竹に於て總會が開かれ、組合員九十九名中出席者五十六名を得て

一、昭和二年度豫算並に徴收法二、役員改選の二案で一、は之を省略し二、は

▼組長森米吉▼副組長樋口由太郎、菅谷安太郎▼會計三浦竹三郎、恒川伯太郎▼評議員大竹彌五左衛門、林武雄、土井甚太郎、土井治助、高山富治、永島久藏、齋田齋一郎、鬼頭兼助、東勇爾、植原清一、加藤岩藏、船橋松三郎、渡邊代次郎、西川國

の諸氏當選就任した。恰も此の年は我國經濟界に一大恐慌を來し、政府はモラトリアムを施行した。故に名古屋市當局としても、之が業界に及ぼす影響の蓋し尠からざるを考慮し、四月二十二日附發勸第一二九號を以て

財界ノ現況ニ鑑ミ各銀行ガ今明兩日休業 最近政府ハモラトリアム施行ノ趣ニ有之候ニ付テハ之カ貴組合業界ニ對スル影響速カニ御調査ノ上御回答相成度候 追而右影響ニ付テハ今後暫クノ間時々御報告相成度此段申添候



さ、組合に向つて訊しており、當時は筆筒業界としても、直接、間接に蒙る影響の蓋し甚大であつた事は想像に難く無い

### 店員、徒弟及び舊役員を表彰

#### 並に第五回名古屋筆筒職工徒弟製作品競技會

斯く經濟界に一大動盪を來した中に在つて組合では所定方針通り七月一日午前愛知縣商品陳列館に於て店員、徒弟及び功勞者の表彰授與式典を舉行した。被表彰者は  
▼店員並に徒弟 大竹彌五左衛門氏方松岡孝一君外三十八名▼功勞者 齋藤次兵衛氏外三十名  
で右の中功勞者とあるは恐らく舊役員を意味したものであらう。同時に第五回名古屋筆筒職工、徒弟製作品競技會が同所に於て行はれ、審査長に深見市立工務校長、審査員香取同校木材工務科長を推して審査の結果左の諸氏入賞した。  
▼一等市原靜夫、林作兵衛▼二等齋藤次兵衛、大竹彌五左衛門、恒川伯太郎▼三等林貞一、志水倍市、河合勇作、結

京喜三松、河合壽次、吉川爲七、杉浦種太郎、船橋松三郎

### 業界を毒した詐欺漢の跳梁跋扈

#### 筆筒展を開催すると稱し

此の時代は、前記の如く森(米)氏が組長をしてゐた頃で氏は私を忘れて組合事業に東奔西走し、組長としてよく盡瘁した。故に氏が歿後の今日と雖も、その功績は歴史が之を物語るであらう。此の頃であつた、組合員の大半が詐欺漢にかつたのは、——即ち名古屋松坂屋の六階に於て筆筒展覽會を開くを稱して、小間料名義で五圓、十圓、三十圓、五十圓を徴收しておき乍ら、之が法網をくぐる目的からか僅に中央バザーの一隅に於て名ばかりの即賣展を開いた。迄はよかつたが赤塚町の辰己屋、袋町の三河屋其他等々の筆筒を賣つて着服レドロンを極め込んだものだ。之が爲に門前の刑事が聞き込み、森氏も時の組長として、責任上迷惑してゐた模様だつた。犯人は則武町あたりで湯屋の二助をしてゐたさか云ふ

### 役員窮地に陥り總辭職

#### 出る杭は打ちのめされるか

男で全く狐の突へぬナンセンスだ。それでその後の犯人はさうしなかつて?、さあ不幸にして筆者はそれを知らぬ。斯様に馬鹿げた事のあつた昭和三年も過、明くれば昭和四年恒例に依り一月の總會で役員の変更が行はれた。其の結果  
▼組長大竹彌五左衛門▼副組長吉川芳太郎、石原勤太郎▼會計林貞一、豊田金治、鬼頭兼助、中村健右衛門(右會計の中二名は補佐)▼評議員大村鍋吉、加藤春吉、土井治助三浦利兵衛、水谷豊吉、三輪繁次郎、服部六太郎、伊藤茂青山壽三郎、大河内才次郎、齋田齋一郎、水谷玉次郎、木村泉、杉浦種太郎▼顧問浦野光義  
の諸氏就任を見た。

### 名古屋筆筒の大阪進出

#### 大阪の松坂屋で出張販賣

新役員就任早々、三月廿三日より廿九日迄一週間大阪松坂屋に於て出張販賣をした。之が出品者は四十名にして出品點數百三十六、追加受注十六、豫約點數七で右賣出中賣却されたものは百十四にして殘品全部を大阪で處分した。

更に同年九月十七日午後二時より南區東樂地南陽館に於て第二回店員、徒弟の所謂勤績模範從業員の表彰式典を舉行した。被表彰者は林武雄氏方林定男君外四十九名であつた。尙此の間にあつて、從業員の慰安を目的に運動會が舉行されてゐる。事程に四年は活潑な歩みを見せるに至つたが、其の反面又問題が伴ひ、出る杭は打たれるが世のならばして、遂に役員は總辭職の已む無きに立至つた。其處には聊かの矛盾があり、同時に横暴もあつた。之が問題について筆者は多く言及するを避けるが、其の爲め四、五ヶ月は役員も無く、組合の無政府状態だつた。斯様にして短命な内閣は崩壊し、次いで來る可き

### 役員任期を暫定的に一年に定款の變更

### 第一次土井内閣成立を前提に

昭和五年一月廿五日の總會を俟つて役員選挙をした。其の結果

▼組長土井兵衛▼副組長安井治三郎、永島久藏▼會計三浦利兵衛、林武雄、東勇爾、大河内才次郎(二名補佐)▼評議員齋藤次兵衛、尾關長藏、中村磯次郎、河村守和、鮎京喜三郎、大森傳一、早川清成、村田京太郎、新美甚太郎、高橋治作、白石捨雄、佐美利一、船橋松三郎、一柳房吉▼顧問浦野光義

の諸氏就任した。右役員選挙に當つて、任期二ケ年は樂ちやない云ふので、組長に推された土井氏が職をこれ、役員任期一ケ年を要望し、定款の暫定的變更を前提に受諾した。而して腫物に觸る様な氣持で一ケ年の任期を終へた。それでも任期中六月廿七日より一ケ月間、新世界演藝場に於て筆筒の即賣展覽會を開催、時に出品者三十四名であつた。翌六年は又々改選である。が此の年は例の全家具聯第六回大會名古屋開催を控へてゐたので、之が役員改選にも一層の緊張を寄せ、其の結果

▼組長齋藤次兵衛▼副組長市原靜夫、鬼頭兼助▼會計志水倍市、土井米吉、米津幸一郎、加古遠治(以上會計の中二名は補佐)▼評議員高山富治、豊田金治、河合勇作、大村鍋吉、三浦竹三郎、石川鐵太郎、西川國、水谷豊吉、水谷市太郎、服部六太郎、寺内清太郎、蟹井周一、河合新太郎▼顧問浦野光義

の諸氏が就任した。

### 全家具聯の第六回名古屋大會開催

#### 昭和六年五月洋家具組合と共同主催下に市公會堂で

此年は名古屋筆筒組合云はず、廣義的に業界未會有の大事業である全家具指物業組合聯合會第六回名古屋大會を控へてゐたので、役員は就任早々之が準備を開始しなければならなかつた。故に十數名の大會委員を選任するに共に正副委員長を互選、委員長には加藤春吉、副委員長に安井治三郎、尾關長藏氏等を推して愈よ本格的活動に入り、準備半歳有餘

### 役員任期二ケ年を復活

組合の消長に關する所から

を経て五月廿五日名古屋市公會堂に於て洋家具組合合同主催下に開いた。出席者全國並に地元より六百有餘名。之より先同大會附帶事業として、同月廿一日より名古屋松坂屋を第一會場、高麗屋を第二會場に當て、和洋家具展覽會を一週間開催、佐藤市立工務校長及び香取同木材工務科長を正副審査長に推し、更に業界よりは齋藤次兵衛、加藤春吉、尾關長藏の三氏(洋家具部略)を審査員に擧げて厳正且公平なる審査を行つた。其の結果左の如く入賞者を決定、廿七日盛會裡に幕を閉じた。因に審査員たる右三氏は、之が公平を保つ上に於て審査を辭退した。

▼優秀賞 筆筒 市原筆筒店、伊勢屋商店、河合勇作、辰巳屋漆器店、高麗屋(以上名古屋)松本朝之助(東京)▼佳良賞 筆筒 林貞一、林作兵衛、土井甚兵衛、土井甚太郎、大村鍋吉、渡邊代次郎、米津幸一郎、高橋喜三郎、高山富治、安井治三郎、鮎京喜三郎、鬼頭兼助、志水倍市(以上名古屋)關谷貞一(岐阜)(以下進歩賞略)

昭和五年一月の役員選挙に際して、之が任期を一ケ年に暫定的變更し、直に實行に移したものの、元來此の組合は役員改選云へは其の全員首の座をすけ替へる關係上、一ケ年一期では改選が慌たしく、従つて就任後精通しかけた頃に交代だから、勢ひの爲すところ組合事業の發展を阻害するものであると爲し、一部熱心家の憂慮する所となつてゐた。故に偶々昭和七年一月の役員改選に當り、劈頭先づ二ケ年任期復活案を提出、之を可決したる後選挙を行つた。其の結果

▼組長齋藤次兵衛▼副組長安井治三郎、尾關長藏▼會計高山富治、東勇爾、土井甚太郎、永島久藏(以上會計の中二名は補佐)▼評議員伊藤藤茂、林貞一、林武雄、土井治助、豊田金治、大竹彌五左衛門、大森傳一、大河内才次郎、河合勇作、高山重三郎、高橋喜三郎、恒川伯太郎▼顧問浦野光義の諸氏決定、就任するに至つた。

### 生産過剰に依る制限案

不成立

八時間に渉る協議折衝も空しく

大正九年未付行のから以來、財界は一途不振過程を辿りつゝあつたが、それでも直後から數年は何とか云つてもまた餘熱があつた。殊に變動にうさい業界では、寧ろ其の餘熱を巧に捕へ、財界の不況風が何處を吹くやいな調子の營業成績を收めてゐる向きさへあつた。就中廣義的に於ける和洋家具界もそれであつて、直後數年は七、八年の好況時代を凌ぐの概があつた。併し乍ら其のまさらかな夢は永く續かないで、箆筒業界にも不況風が身に泌みるやうになり、それ迄も屢々夏場閑散期に對する之が善處方の聲が出てゐた所名案も無く終つた結果、遂に其の年の秋、需要期に際して箆筒の生産過剰なる爲め之が需給の圓滑を圖り、以て正しき市價を維持せむとする目的の下に、生産の制限を爲すべく工部で決議し、同時に商部に向つて製作のみ同情休業を求め、十二月二十三日午後二時より中區裏門前町龍宮寺に於て臨時總會を開催、折衝、協議する事八時間の長きに涉つた。がつひに會議纏まらずして商、工物判れさなる。

特筆すべき事業をしな

かつた昭和七、八年

大會後の一息からか

不況の結果か、乃至は大會を主催した直後の疲勞からか七八年は何等特筆すべき事業も行はれないで終つた。斯くて明くれば昭和九年即ち昨年である。一月三日午後五時より東海樓に開かれた定時總會に於て役員の選舉をした所、加藤春吉氏が欠席當選で組長に推され、次いで副組長以下全役員の決定を見た迄はよかつたが、後日同氏が固辭して受けざる爲め役員總辭職の破目に陥り、遂に同月二十九日再改選の醜態を演じた。其の結果

▼組長土井甚兵衛▼副組長高山重三郎、服部常次郎、尾關長藏(一名補佐)▼會計市原靜夫、河村守和、三浦竹三郎、倍美利一(二名補佐)▼評議員大竹彌五左衛門、志水倍市、大村鍋吉、豊田金治、林貞一、土井米吉、鬼頭兼助、三浦利兵衛、林武雄、中村磯右衛門、永島久藏、石野謙治、加古遠治、東勇爾、大森傳一、石原勘太郎、平出吾三郎、蟹井周一、所倉吉、吉川爲七▼顧問浦野光義

した。

▼相談役齋藤次兵衛、加藤春吉、林作兵衛▼常任相談役安井治三郎

勤續模範従業員及び舊  
役員の表彰式典

昭和九年四月二十日覺王山別  
館で物故者の追悼法會も兼ね

斯くて陣容を整へ、役員は就任早々活動を開始して第三回勤續模範従業員並に第二回舊役員の表彰式典を四月廿日正午より東郊覺王山日蓮寺西別館學堂に於て開催、従業員にして七ヶ年以上勤續者は大岩名古屋市長より、五年以上七ヶ年以下及び舊役員は土井組長より夫々表彰を受けた。即ち

▼勤續模範従業員七ヶ年以上合資會社辰巳屋漆器店(店員)松岡幸市君外四十三名、七年以下五年以上土井米吉氏(徒弟)松水谷嘉藏君外廿四名▼舊役員齋藤次兵衛氏外廿五名

にして、右の中齋藤次兵衛氏は多年氏が組合事業に盡瘁する所跡からざるが故に、其の功勞をたへ記念品の外銀盃を贈

り、組合より敬意を表した。尙當日表彰式典開催に先立ち、物故者の追悼法會を同じく日蓮寺に於ておこなつた。物故者氏名左の如し(俗名)

▼林健次郎、新美甚太郎、河合壽治、高山重三郎、向坂和歌治、駒田萬次郎、北岡小三郎、樋口由太郎、久田福藏、森米吉、關山兼次郎、菅谷安太郎(以上いは順)

名古屋箆筒業擁護聯盟

業界の刷新を叫び急進  
分子が團結して創立

右を以て昨年は大体に於て事業をした中に數へなくてはならぬであらう。而して今年即ち昭和十年に入つてゐるが、叙上の如く役員任期二ヶ年を復活してゐるから、一月の總會も差したる事無く終つてゐる。所が組合の一部有志である急進派は、情氣満々として覇氣無き組合の現状に飽き足らず、然も内部の不統一を遺憾とし、斯くては業者相互の福利を圖るは愚か益々窮地に陥り、今にして覺醒せんか相互に自滅の外無しとて業界に一大警鐘を打ち鳴らし、高らかに之が刷新

を叫んで名古屋筆筒業擁護聯盟なるものを組織し、三月十七日午後六時より大須泉竹に於て之が發會式を舉行した。聯盟員は工部主腦者を先頭に、商部中堅分子の参加を得て約六十有餘名、此中當日約五十名の出席、其他來賓數氏列席裡に規約の原案一部修正を承認、事業の方針等可決確定を見るに至り、其の第一聲と共に雄々しくも活潑なスタートをきつて起つた。此の擁護が奈邊迄躍動するかは未知數であり、明日に

### 第二項 名古屋西部筆筒業商友會

名古屋西部筆筒業商友會は、昭和五年六月十五日發起人森田仙次郎、森田庄太郎、位田義之、松井信、若山茂兵衛

の諸氏にて創立され、其の歴史は未だ新しい。之が地區は西名古屋一帯を網羅したるもので、組合員は常に三十名内外を擁してゐる。之を内部的に立入つて解剖すると、從來名古屋筆筒商工組合に加入してゐなかつた者及び加入はしてゐたが

殘る宿題である。因に役員選舉の結果左の諸氏當選就任した  
▼會長 服部常次郎 ▼代議員(代議員會議長) 尾關長藏(同副議長) 永島久藏、中村磯右衛門、所倉吉、青山壽三郎、加古濱治、石原勘太郎、東勇爾、大井直一、伊藤茂、河合勇作、石野謙治、平出吾三郎、伊藤彌太郎、久米乙松、佐美利一、水谷市太郎、吉村都與志、土井米吉、恒川伯太郎、山田重限、木村泉、早瀬信雄、▼會計(監督) 河村守和、東勇爾、佐美利一 ▼常任相談役 高橋喜三郎、志水倍市、新美昇治、鬼頭兼助、林武雄、河村守和、服部由信

地理的立場から新しく生れた同組合に参加し、同時に商工組合を脱退したる者等々を以て組織されたのである。従つて一市に、業態を同じくする同業組合二者以上の存立を許さぬは情理論からして、當然後者が申合せ有志團體である事は云ふ迄も無い。が今茲に同業組合法に則する理論は別として、創立總會に於て之が初代役員には  
▼會長 森田健次郎 ▼副會長 森田仙次郎 ▼會計 松井信、位田

義之 ▼評議員 丹羽兼吉、若山茂兵衛、牛田式太郎、淺野信太郎、櫻木鐵太郎 ▼相談役 黒田邦彦、水野庄吉

の諸氏を挙げ、翌六年六月の改選には  
▼會長 木下七三郎 ▼副會長 三島増太郎 ▼會計 森田庄太郎、宮本末男 ▼評議員 伊藤兵一、林安兵衛、瀧勘三郎、長尾茂山田六次郎、島田才一 ▼相談役 黒田邦彦、水野庄吉

の諸氏が擧げられた。而して準備的基礎時代を終つた同組合は、二代目役員の時氣ある陣容で活潑な歩みを見せるに至り翌七年四月十五日名古屋花壇に於て、勤続従業員を表彰授與式典並に家族慰安會を開催、出席者約一百名の盛況裡に三島副長の開會、木下御大の式辭等あり、左記十三君に表彰狀が授與された。之に對し表彰者總代小出四郎次郎君の答辭ありて後閉式した。被表彰者左の如し

- ▼小出四郎次郎、山形伍平(島治)杉浦又男、糟谷廣吉(三島)水野猛夫(山六)渡邊仙松(森庄)中田秋光(麻式)三輪文二郎(藤庄)小久保夏男(指小)菊田清(松井)伊藤元次郎、田中軍治、出石國太郎(三輪善)
- 次いで七年六月の定時總會に於ける役員改選で  
▼會長 松田嶽吉 ▼副會長 森田仙次郎 ▼會計 位田義之、末次

小三郎 ▼評議員 濱野勝男、中村和一、明石龍吉、淺野信太郎、瀧野祐助 ▼相談役 黒田邦彦、水野庄吉

の諸氏が擧げられた。而して其の年の十一月十二日午後六時より、笹島町イカリ食堂階上に於て開いた臨時總會で、組合賦課金の外別途積立を決議した。之が目的は、組合事業を爲す上には若干の基本金を必要とする見地からで、右決議に基づき直に實行に移した。之は今日尙繼續されており、頗る好成績裡に進んでゐる。越えて八年四月十五日には家族及び徒弟の慰安會を行ひ、新守(當時の名稱)で歌舞伎總見をした。出席者二百名に垂々とした盛況振りを見せた。此の日プログラムは東濃定光寺に遠征する筈だったが、雨にた、れて急デンプボした譯。

### 再度會長に返り咲き

#### 快男子木下七三郎氏が

其の年六月の總會で、恒例に依り役員の改選が行はれた。其の結果

▼會長木下七三郎▼副會長森田清治▼會計松井信、宮本末男▼評議員林安兵衛、丹羽兼吉、若山茂兵衛、山田六次郎、櫻木鐵太郎、木村泉▼相談役黒田邦彦、水野庄吉

の諸氏に決定、就任した。斯くて木下氏は再度會長に返り咲いた譯。所が選舉に際して、氏は家庭的事情の故に會長の要職は引受け兼ねる旨を力説して固辭した。が結局は受け容れられず已む無く就任した。云つて氏は形式的の名のみの會長では自己満足が出来ず、受諾した限りは思ふ存分やつて退けたひ、云ふ責任觀念を持った性格丈に、愈よ受諾すれば又徹底的にやる男性味を持つてゐる。けれど事實上は公私共に多忙を極めてゐたから、受諾に際し果して條件でも付したか否か、筆者の記憶に残つてゐない、右役員の中會計迄は前記定時總會で決定したが、評議員詮何が時間的に出来なかつたので、更に七月一日前記の如く決定を見るに至つた。

明くれは昭和九年一月四日、鯛山樓に於ける新年會である宴半にして偶々末次氏が作料問題を引提げて木下御大に迫り其の不誠意を詰つたものだ。然るに其の案件が當の木下氏迄通じておらず、結局意思の阻道を欠いた事が明かとなり、兩

### 協賛部設立はお流れ

者突つて事済みとなつた。がそれが導火線となり同月十日森田清治氏方で臨時組合會を開き、右作料問題につき協議した之が原因は筆筒の生産過剰に依るもので、筆筒の値が通らざる結果延いては作料に直接關係を有し、遂に下る共上らざるが如き悲惨な状態におかれるのである。故に之が救済の手段としては、先づ其の根源たる生産を制限するにあるを爲し、差當り改善に易々たる夜業を撤廢し而して需給の圓滑を圖り以て作料問題の解決に及ぼさざる可からざる結論し、之が目的の徹底を期するには單に商友會のみならず、商工側とも打合せを爲して諒解を求め、兩者相呼應して善處する事とした。

が其の後同案は徹底しないで立消れた。

次いで同月、即ち昭和九年一月廿五日より二月廿八日迄三十有餘日間、享榮百貨店四階に於て和洋家具即賣展覽會を開催した。之が目的は筆筒をより多く消化し、過剰分を緩和するにあつて筆筒は組合員中有志より、鏡臺、針指其他洋家具は伊勢松、箱文、大野諸店等より協賛出品した。

### 商、工取引値段の開きから

更に昭和九年四月一日午前十一時より、東郊八事山天白溪白水園に於て勤続従業員の表彰式典並に従業員慰安會を開催した。出席者は來賓を始め、組合員の殆ど全部と従業員を合して約一百名を算し、木下會長より左記諸君に對しそれ〴〵賞状が授與された。

▼井上清一(森嘉)西戸吉郎(森仙)足立一男(麻勘)鈴木正三(瀨野)中村廣次(三輪屋)長谷川良平(明石)狩野守信(宮本)斯くて全役員は、一息する間もあらはこそ矢繼早に事業を行つた。翌五月十五日には第二次木下内閣明渡しの定時總會を宮宇に於て開催し

#### 一、協賛部設立の件二、役員改選の件

で一、は全組合員より半義務的に各若干の出資を求め、之に依り倉庫を借り受けて夏季閑散期の過剩製品を積入れて亂賣を防止し、以て筆筒の公正なる價格を維持せむとするにあつて、之が案件については既に數回の評議員會及び臨時總會に於て可決し、承認されたものではあるが、事の重大性に鑑み

單に多數に依る決戦投票を以て一氣に押切るが如きものに非ずとの理由で再提案、再審議されたもので、同席に於ても若干の反対者はあつたが、結局投票で多數を以て設立に可決した二、は同じく投票の結果

▼會長若山茂兵衛▼副會長森田仙次郎▼會計濱野勝男、明石龍吉

の諸氏が擧げられ、以下評議員は新舊主腦部に於て證衡する筈であつたが、若山新會長が代理出席の爲め已むなく後日に譲り、右を以て役員改選の總會は終つた。故に六月一日若山新會長宅に幹部會を開き、證衡の結果

▼評議員伊藤金三郎、板倉好次郎、丹羽鐵次郎、瀧勘三郎、中村和一、淺野信太郎▼相談役黒田邦彦、水野庄吉

の諸氏を擧げた。

次いで翌二日同じく若山會長宅に商、工幹部會を開いて生地の取引値段につき協議した。が兩者の間に若干の開きがあつて手打出來ず、従つて協賛部は一時保留する事となつた。

更に同月八日則武町輪之内説教所に於て開いた臨時總會で工賃表を作成した。従來の工賃表は木取料をも加算してゐた

が、斯くては煩雜なるが故に之を廢して木取別計算を採用し制度を改革した。越えて本年即ち昭和十年一月恒例に依る新年會を江川通り種家で開いた。同席上鬼丸義齋氏を顧問に推戴する筈だったが、氏が顔を出した時は既に解散後だったので、組合として

氏を顧問に承認したのかしないのか、其の間のところが判然してゐない。併し非公式に承認してゐるのかも知れぬ。斯くて同組合は今日に至つてゐる、が大體に於てよく事業を爲し、活潑な歩みを見せてゐる。

### 第三項 名古屋戸棚製造組合

單箭並に婚禮道具店の密集地であつた往年の西區六句町は袋町に移り、袋町は更に裏門前通りに動いて、現在は此處が名古屋代表的家具街となつてゐる。それと同じやうに家庭道具の一である白木戸棚も、往年は中區古渡町通りが其の代表地區になつてゐたが、何時かは無く漸減傾向を辿つてゐる。併し往年を偲ぶに足るものは、今尙數軒残存してゐる事である。

### 明治十年戸棚組合創立

#### 發起人岩堀吉兵衛氏外二、三

所で其のかみに、古渡町に居住してゐた岩堀吉兵衛氏外二三人の人々が發起で、明治十年一月戸棚組合を創立した。名稱は如何なる名稱を用ひてゐたかは判然してゐない。が單に有

志の親睦團體であつた事丈は明かたから、果して秩序的な名稱が附されてゐたかは聊か疑問としなければならぬ。それも組合員は十五名あつた。その頃は毎年一、五、九月の三回組合會を開き、戸棚の相場に關し協議打合せを行ふと共に、一月には次年度の役員を決定した。而して當時は全体に足附戸棚であつたのを臺輪造りに改良したものである。

明治三十五年には積立金の目的で、若干の徴收を爲す様になつたものの如くである。之は積立金で無く、それ迄組合賦課金を徴收してゐなかつたものを、徴收するやうになつたのではないかとも見られてゐる。がその間の消息が判然としてゐない。所が所謂折角の積立金(?)も、同三十七、八年の日露戦役に遭遇して國內の一大動搖と共に自然消滅した。

### 米、金物他日用品雜貨の配給

#### 中部戸棚組合共資會と改稱

日露戦役の動搖で一時立消れた組合の復活を劃し、組合員の増加を圖つて廣く加入方を勧誘した。同時に組合の基金を蓄積して中部戸棚組合と命名した。そして第一期役員に

▼會長志水悦次郎▼副會長瀧秋助▼會計森兼次郎

の三代を擧げた。その頃事業としては、倉庫を借受け不況の爲め滞貨するものを其處に積込んで、對策を講じたものである。越えて四十二年、桑名の諸戸と名古屋に於ける女米の特約販賣を約し、尙金物其他雜貨に至る迄購入し、之を組合員

に配給した。殊に一時は非組合員でも希望者には女米の配給を爲し、今の購買販賣利用組合共體の内容を持つて、組合は日醒しい活動を續け莫大な利益を占めるに至つた。而して其の利益は基本金に繰入れて、名も中部戸棚組合共資會と改稱した。此處で少しく字義的に註釋しなければならぬ事は中部の意味である。之は其の頃の古渡町を指した所謂名古屋に於ける戸棚業界の中心地を指したもので、中部日本に用ひる中部の意味ではなかつたもの云はなければならぬ。當時役員左の如し

▼會長志水悦次郎▼副會長平岩仙之助▼會計中島精次、瀧秋助▼集金係森兼次郎、平岩族、鬼頭録次郎▼監査役奥田増次郎、服部竹三郎

### 米の配給を廢止

#### 金物及び日用品雜貨のみ配給

其の後諸戸の女米は地方販賣を中止したので已む無く市内の米穀店から購入し、相變らず組合員に配給してゐた。所が諸戸の女米を直接購入し之を白米にしてゐるの事異なり、願

る源利なるが故に採算上成績芳はしからざる爲め、米の配給はそれ限り廢止し、金物及び日用品雜貨のみを配給した。

### 組合の資産大枚五千圓

#### 事業から得た利益で

大正十年には組合員の異動を整理し、新加入者に對しては積立金を爲さしめ、同組合共済會の名に於て原木を購入し、之を組合員の入札に附して利益を得てゐる等、此の頃迄は組合も可成り活動してゐて、組合自身も五千有餘圓の基本金を持つてゐた。當時役員左の如し

- ▼會長森兼次郎▼副會長志水悦次郎▼會計中島精次、鬼頭録次郎▼監查役久野菊之助

### 蟻の一穴から堤の崩壊

#### 現名古屋戸棚組合と改稱

満つれば欠くるが世のならひで、基本金が若干出来るこ内輪から兎や角と文句が出る。こ云ふのは、五千圓の基本金を

數十人に分割するご機程でもないが、遺憾乍らそれが又眼觸りになる者も往々にしてあるので、遂に堅固な一箇の団体も共同生活的觀念の無い利己主義者に依り、蟻の一穴から千里の堤が崩壊して、爾來然うした事業はしない様になつた。斯くて明治、大正は終へ、昭和三年一月の總會で名古屋戸棚製造組合と改稱した。而して役員改選の結果左の諸氏が擧げられ、就任した。

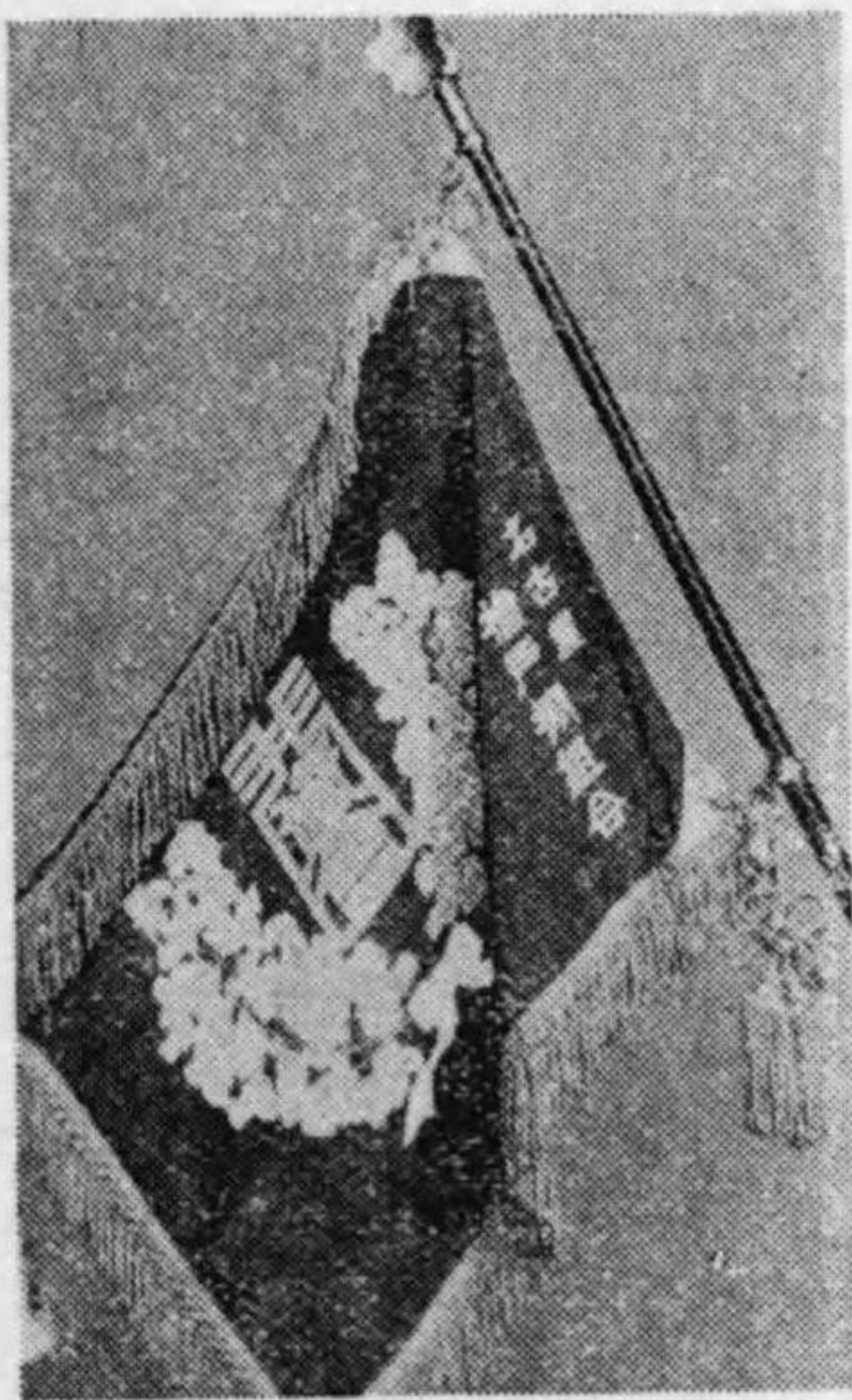
- ▼組長鬼頭録次郎▼副組長間宮要之助▼會計中島精次▼評議員伊藤々右衛門、加藤要四郎、塚本金治郎、久野菊之助、安藤米次、平岩仙之助▼名譽顧問鈴木金一▼顧問森兼次郎

### 徒弟年明者に修業證授與

#### 組合功勞者に感謝狀を贈呈

越けて昭和六年一月組合功勞者に感謝狀を、徒弟年明者に修業證を記念品に副へそれ、附呈乃至授與した。被表彰者左の如し

- ▼組合功勞者 中島精次▼徒弟年明者 糸魚川伍一(早瀬商會)伊藤芳一(鬼頭兼三郎)稻垣彌太郎(伊藤々)牛場義



名古屋戸棚製造組合の旗

一(久野)松原健二郎、松原鐵夫(鬼頭兼次郎)幸田四郎(久野)朝日保春(市川)佐藤榮一、佐藤一之(久野)木村市郎(稻本政治)  
尙總會を開いて役員改選を行った。其の結果  
▼組長鬼頭録次郎▼副組長久野菊之助▼會計奥田伊十郎の諸氏で、正副組長、評議員及び顧問共に重任で前年に比し只會計の再選を見たに過ぎない。

### 引退した森氏を引出す

#### 當然の歸結として有名無實

次いで昭和七年一月の總會で役員改選を行ひ、其の結果

▼組長森兼次郎▼副組長久野菊之助▼會計奥田伊十郎で、隱居役であつた森氏を引出して來たが、氏は此の頃既に營業も轉じており、然も世を長息に讓つた後で、單に名のみ組長だつた。其の他は重任し新しく鬼頭兼三郎、志水悦次郎兩氏を評議員に入れ鬼頭、安藤兩氏を相談役に推した。

### 新進の拔擢で陣容一新

#### 久野氏の正、塚本(金)氏副

翌昭和八年一月の改選では

- ▼組長久野菊之助▼副組長塚本金治郎▼會計奥田伊十郎▼評議員伊藤々右衛門、伊藤新五郎、早瀬利正、加藤要四郎、塚本政吉、野村吉吉、鬼頭兼三郎、木村金次郎、荒谷光夫▼名譽顧問鈴木金一▼顧問森兼次郎

の諸氏で、森氏が再度隱居役に封じ込まれたが之は自然の成行きで、森氏自身も全く往年の氏では無く、遠く塵芥を避けた文字通りの隱居生活であり、業界より隱退してゐるから生強ひな組長職等は反つて迷惑であらう。斯様にして森氏隱退、更に鬼頭(録)氏亡き後の同組合に、久野氏の組長

は平凡な順序である。それでなくとも、お鉢の廻る頃だつた。次へ行つて新進氣鋭であり、業界の中堅である塚本(金)氏を副に選挙した事は、沈滞し勝ちな組合の空氣を一新する上に於て非常によく、思ひ切れた改選だつた。が之をして敢て不自然さは云ひ得ないであらう。何故か云ふに、氏は如何なる役を承たまはつてゐても、陰陽無く又私心無くよく組合の爲に盡瘁しつゝあるから。

### 郷へ入つたら誓へか

#### 漲る保守的の空氣

所が之ぢや面白く無い方面もあるかの如くで、昨年即ち昭和九年一月の定時總會で役員改選を行ひ  
▼組長久野菊之助▼副組長安藤米次▼會計加藤要四郎▼評議員會長塚本金治郎▼評議員伊藤新五郎、稻本政治、早瀬利正、塚本政吉、松原勘三郎、鬼頭兼三郎、鬼頭劍藏、塩谷光夫▼名譽顧問鈴木金一▼顧問奥田増次郎  
の諸氏で仕組、塚本(金)氏を評議員會長で納め、森氏の顧問を削除して、その後釜へ奥田(増)氏を持つて行つた。

而して翌年即ち昭和十年一月の定時總會では  
▼組長久野菊之助▼副組長加藤要四郎、鬼頭兼三郎▼會計早瀬利正、大矢鎌治▼評議員會長塚本金治郎▼評議員伊藤々右衛門、塚本政吉、山田富士松、松原勘三郎、鬼頭劍藏、木村源治▼名譽顧問鈴木金一▼顧問奥田増次郎  
の諸氏に決定、就任し今日に至つてゐる。右に依り大体同組合の沿革はつきるもの、如く、近時數年來毎春徒弟の慰安會を催してゐる位のものである。

#### 第四項 名古屋茶箆筒製造組合

名古屋茶箆筒製造組合は、大正十四年九月一日  
▼古川榮太郎、佐藤茂一、森川七藏  
三氏發起のことに創立されたものである。而して創立と同時に値段表を作成し、之を關係各方面に配附した。今それを茲に列記するに  
▼六ツ引二〇、〇〇〇▼目クラ戸一六、五〇〇▼長戸一六〇〇〇但し帶入、五〇〇高▼三ツ登リ一四、〇〇〇▼四ツ引一四、〇〇〇▼六枚戸一四、〇〇〇▼小一一、〇〇〇但し線戸一、〇〇〇高

で右の數字は金物別である事を明示した。

越えて翌十五年二月には數項に渉る規約を作成し、正副組長及び會計各一名、幹事二名を置く事となり  
▼組長岩山退三▼副組長大森銀次郎▼會計水野卯三郎▼幹事石川謹、坂倉松藏

の諸氏を擧げた。當時組合員は十九名であつた。規約中には組合賦課金を徴収する旨を表示してゐたが、その後組合費は徴収しなかつた模様で、必要に応じて徴収してゐたに過ぎなかつた。故に組合が有名無實に近くなるものか、乃至はさして奮はないから組合費の徴収をしなかつたのか、或は出来なかつたのか、何れにしても有名無實に等しくはつたしなかつた之では相互に不利であるところから、昭和七年九月十一日午後八時より大須「あづま」に總會を開き、之が役員改選を爲し

▼組長岩山退三▼會計石川謹▼評議員石原宗一、伊藤金藏、大野亀吉、岡部豊太郎、前田梅次郎  
諸氏が擧げられ、陣容を新に立直し、組合賦課金を徴収するやうに決議して之を實行に移した。而して更に翌昭和八年十

一月の總會で役員を改選し

▼組長石川謹▼會計岩山退三▼評議員石原宗一、大野亀吉、大橋喜兵、岡部豊太郎、前田梅次郎

の諸氏を擧げて一ヶ年一期を過ぎたが、九年十月の總會では石川氏と岩山氏が入ればはつて舊來の如くなり、今日に及んである。從來同組合は茶箆筒それ自体の値段について忘れた頃に協議會を開くのみで、徒弟の表彰其他組合事業らしいものはあまりしてゐない。その結果として有名無實に流れ易い傾向を辿るものか？

### 第二節 豊橋市

#### 第一款 洋家具

##### 第一項 豊橋家具業組合

豊橋家具業組合は、大正十四年十二月發起人梅田、井上、伴、中谷の諸氏が奔走して設立したもので、最初組合員は二十名程であつた。而して初代組長に梅田了氏が擧げられ、爾來昭和七年迄引續き其の要職にあつた。が八年一月の總會で



役員改選の結果浅吉氏が組長に推され、一ケ年一期を恙無く終へた。翌九年一月の改選には鈴木權三郎氏が其の後登に据つた。而して更に本年即ち昭和十年一月の總會に於て、之が役員改選の結果再度浅吉氏が組長に返り咲して今日に及んである。即ち陣容左の如し

▼組長梅田了▼副組長岡本岩次▼會計伴淺吉▼評議員市川福太郎、河合藤一、三輪野佐和治、鈴木權三郎

此の間事業としては、建具組合と合同で木製品共進會を二回塗装講習會を三回開催したる外、昭和五年より毎年夏季家具圖案講習會を約一週間開催し、製品の質を高めると共に技術の向上を期する事、組合事業として相違見ざる可きものがある。

### 第二款 和 家 具

#### 第一項 豊橋箆筒業組合

豊橋箆筒業組合は明治三十七年一月の創立に關るもので、當時役員は

▼取締石井泰助▼副取締加藤新助▼幹事前澤兼次郎、杉浦幾太郎、山本作三、石井百合吉

の諸氏で、尙組合員は

井本秀三、山田房吉、鈴木佐助、鈴木秀三、水谷峰二郎、水谷綱三、松井由之助、高瀬佐吉、水野（名不詳）

の諸氏で、現在より僅に六、七名少かつたに過ぎない。創立の當時は如何なる名稱を用ひてゐたか、又右の三十七年一月が創立の年月であるか、乃至はそれ以前に出来てゐたものが偶々叙上の年月に總會でも開いたものかは判然してゐない。が兎もあれ三十七年一月、當時の役員は右の如くである事は確實性を持つてゐる。其の後石井氏は久しく組長の要職に在つたが、遂數年前より顧問に推戴されて隱居役で納まり込んだ。而して其の後登には杉浦榮之助、前澤茂氏等の中堅、新進其他を擧げて來たが、石井氏隱退後の同組合は聊か寂寥感無しとせず、加ふるに同氏は最近其の顧問すら辭退してゐるもの、如くであるから、茲許同組合は益々それに拍車をかける事となりはしないか。何れにしろ斯く繰返の結果、今年即ち昭和十年一月の總會で役員任期満了に伴ふ之が改選で

▼組長寺部米吉▼副組長野澤唯雄▼會計前川勝次郎▼顧問石井泰助

の諸氏が擧げられ今日に至つてゐる。

#### 第二項 豊橋建具指物業組合

豊橋建具指物業組合は何時の創立であるかは判然しないが其の前身が太子講であつた事は明かである。而して其の太子講の書類で、明治二十六年一月現在の職員名簿が現存してゐるから、明治二十六年以前に生れたか云ふも、後であるやうな事は常識論としても先づ無い。たがその前のものは目下の所不明であるから、一体何時の創立であるかは更に調査、研究を要するもので宿題とせねばならぬ。而して尙右太子講會を現在名に改稱したのが、何時であつたかも後日に譲るが、同組合は現在尙太子をお祭してゐて、毎年一月には定時總會に先き立ち之が禮拜式を擧行し、大いに敬神の念を培ふと共に相互の健康を祝す云ふにある。

斯くて最霜迄に四十有五年（判明の部分のみ）此の間在つて現稱豊橋建具指物業組合となつてからの主なる事業は、

大正十五年五月一日より同二十一日迄豊橋驛前記念館に於て

▼出品人員一二二名▼出品點數三二〇三▼入場人員二二二

五三▼即賣總額七八九六、〇五〇

で頗る好成績を収めた。同會開催に際し當時之が衝に當つた役員は左の如くである。

▼會長（豊橋市長）田部井勝彦▼副會長（豊橋建具指物業組合組長）伊藤判次郎▼審査長（愛知縣商陳列所長）原文次郎▼審査員（豊橋商業會議所書記長）鈴木澄衛（豊橋市産業課長）小川覺藏（組合員）中村源吾外九名▼理事（副組長）戸澤成吉（同上）栗生菊三郎▼評議員（組合員）丸地陸藏外十一名▼會計（組合員）近藤卯一（同上）鳥井富平

越てて昭和三年四月十五日より同二十八日迄二週間豊橋市中柴町武徳殿を第一、新川町公徳館を第二の各會場に當て、國産振興會木製品共進會を開催した。

▼會長（愛知縣知事）小幡豊治▼副會長伊藤判次郎▼審査長（名市立工藝木材工藝科長）香取五郎▼審査員高柳淡次外七名▼評議員白井松三郎外十四名▼幹事木下庄五郎外五名

の諸氏を擧げ同會開催に遺憾無きを期し、次いで同月二十七日之が褒賞授與式典を行つた。其他は之を省略するも、同組

合は常に豊橋市に於ける木製業界をリードし、活潑な歩みを見せるが、曩に同市木製業者即ち洋家具並に箆筒兩組合の合同を促し、之を打つて一丸を爲し重要物産同業組合法に依る同業組合を商工省に向つて申請したる所、恰も昭和八年の四月以降は従来の同業組合の認可を與へない商工當局の方針に觸れて、遂に却下された。皮肉にも右はその時より一、二ヶ月前に申請書が出たならば、或は……ではない確實に認可されたらしい。が昭和八年度に入つた早々であつた爲に、豫期に反した結果を招來した。故に其の後は工業組合の設立に向かつて善處してあるから、今後何等かの形式で發展するものと観られてゐる。

### 第三節 岡崎市

#### 第一款 和家具

##### 第一項 西三箆筒業組合

岡崎市に事務所を有する西三箆筒業組合は、その前身を岡

崎箆筒製造業組合と云つて明治四十年七月の創立に關るものである。最初組合員は

近藤仙二郎、大久保米三郎、水野只四郎、稻垣梅太郎、畔柳勇吉、前田健次郎、加藤久次郎、市川乙松、池田秀二郎、萩原友治

の僅數氏であつた。その後同業者が逐次増加したので、更に隣接町村を併合するに至つた。而して昭和五年六月幡豆、碧海、額田を打つて一丸を爲し、西三箆筒業組合と改稱したもので、之が創立發起人は

▼岡崎市 近藤仙二郎、大久保米三郎、梅村由太郎、長坂鐵治郎、山本庄太郎▼幡豆郡 岩瀬圓吉、新美彌太郎、小出專太郎、杉浦健吉▼碧海郡 鈴木英智、豊田千代藏、太田四方藏

の諸氏であつた。爾來差して茲に特筆すべき程の事も無く今日に及んでゐる。

## 第二章 岐阜縣

### 第一節 岐阜市

#### 第一款 和家具

##### 第一項 岐阜箆筒長持製造組合

岐阜箆筒長持製造組合は後藤民三郎、片岡藤一、武藤兼助三氏發起のみに、昭和二年八月十五日岐阜市瓦町松源に於て創立總會を開き、嗚々の聲を擧げたもので、その歴史は未だ新しい。而して初代役員には

▼組長後藤民三郎▼副組長川瀬彌作▼評議員松井友吉、小原駒吉、青木菊松

の諸氏が擧げられた。初め組合員は現在の三十五名より二、三名程多かつた。此の減少傾向は、不況の爲め廢業者の出でた結果共觀されてゐる。而して右初代役員は、僅四ヶ月の任期にして昭和三年一月の總會で役員改選が行はれた。その結果

▼組長岡野宮三郎▼副組長川瀬彌作(以下略)

で組長の更迭を行つた。次いで翌四年一月の總會では組長は重任し副組長を更迭させ、川瀬氏の後釜に沈着にして氣骨あり然も熱血兒である豊田力氏を持つて行つた。岡野組長の事

なかれ主義の隱忍本位に加へて、俠骨漢たる豊田氏を女房役に据へ、硬軟兩派を以て對内外的に處したのは秀逸だつた。

正副組長の性格が根本的に相反してゐたから、組合行政上兩氏の個人的觀念がさうであつたかは、筆者の知る所では無いから従つて之は別、あるが。翌五年一月の總會に於ては正副組長共前同様であつた。が偶々五月には岡野氏が辭職したので一舉に豊田氏が正に推された。岡野氏の辭職は箆筒業を廢業した自然の結果で、氏は功成りて老後?と云ふ程でもあるまいが閑日月をおくつてゐる。それは兎も角として、豊田氏の女房役には年長者であり、又穩健主義の青木菊松氏を推した。而して翌六年一月の總會に臨んだが改選の結果同前であり、更に七、八年共に兩氏の重任を見るに至り、昨九年一月の總會に於て、豊田氏が極力辭任したる爲め漸く受け容れられ、之を考慮に入れて選舉したる結果、それ迄副をしてゐた青木氏を平凡に而して順序的に組長に昇格し、同時に吉田登吉氏を副に据へたものである。時に前組長たる豊田氏を相談役に推戴した。

此の間、事業としては昭和八年九月一日より三日間岐阜市公會堂階に於て、單箭仕上講習會を開催した。講師は川越市より市原松次郎氏を聘したもので受講者三十三名であつた同組合は製造業者のみを網羅したる団体であるだけに、内部統制他に比して容易なる所あり、常に一致團結して對外的に處してゐる。

### 第三章 三重縣

#### 第一節 宇治山田市

##### 第一款 和 家 具

###### 第一項 宇治山田漆器同業組合

宇治山田市は三重縣の南部に位し度會、志摩の二郡に包まれ、東に五十鈴川西に宮川を遶らし南に神路、高倉の靈峰相連り、北は平野に接して伊勢の海に臨み、別名を神都と稱し靈地を以て自他共に任じてゐる。市の面積は三、九五七

方里人口四九、九〇七戸數一〇、三五六にして從來同地は貝並に竹細工を以て知られてゐるが産額の上に於て又對外的に、より以上其の存在を知られてゐるのは漆器、箸、刳物及び家具指物である。

今、目並に竹細工及び刳物は別として漆器、箸、家具指物は同市重要産業の一に擧げられ、市當局も之が産業上からず盡力を爲しつゝある。而して年産額も

▼漆器二〇六、〇〇〇、〇〇〇▼箸一八〇、〇〇〇、〇〇〇  
○▼家具指物三五〇、〇〇〇、〇〇〇

を有しており、殊に漆器は年産額に於てその數字はあながち高きとは云へない迄も、山田春慶（通稱伊勢重）の名に依り宏く全国的にその存在を認められてゐる。

此の漆器は、足利の末世頃神宮御用材の猿口の拂ひ下けを受けて箱物を製造したるに始まること云はれ、頗る古い歴史を持つてゐる。が時代の推移に伴ひ之が業界の統制を圖り、而して進歩發達を促さむとして、明治三十四年二月十二日片岡善兵衛氏外五名發起のもとに漆器組合創立の設立發起人認可を

三重縣當局に向つて申請したる所幸ひ認可を得た。即ち之は重要物産同業組合法に依る同業組合設立の前提であつて、之が實現に邁進した結果、翌三十五年五月宇治山田漆器同業組合として農商務當局より設置の件認可を得た。而して始めは塗著業者をも網羅し、打つて一丸としてゐたが、業態を聊か異にする所から、大正七年及び昭和二年の兩度に涉つて定款の變更を爲し、塗著業者を除いて漆器業者のみを以て組織するに至つた。而してその内容を三部制に分ち、一部を問屋業者、二部を素地業者、三部を塗師として、現在組合員

▼一部十名▼二部四十七名▼三部三十三名

で、合計九十名を擁し、組長には宇治山田市助役たる宮崎一雄氏をかつき出してゐる。氏も同市に於ける重要産業の一たる漆器であるだけに、之を諒として乗り出したもので、既に數年その職にある。副には第一が橋本佐兵衛、第二が二見光之助兩氏が推されて専らその衝に當つてゐる。同組合は靜岡縣に於ける靜岡漆器指物同業組合と並んで東海に君臨し、同業組合として堂々その門扉を示してゐる。——假令組合員數

は少く、且又生産額は尠く共。製品は、從來右の如く單に實用的春慶漆器を以て唯一の生産品とされてゐたが、時代の進運に伴ひ近時傾に堅地漆器たる堆朱等の美術的工藝漆器の生産を見るに至り、業界進展の徴著しきものがある。

##### 第二款 洋 家 具

###### 第一項 宇治山田家具商組合

宇治山田家具商組合は、去昭和五年四月八日の創立にかゝり其の歴史は未だ新しい。之が構成分子は洋家具並に和家具業者を以てしたるものである。創立と共に當時（現在も）市會議員の公職にあつた山本久治郎氏が初代組長に擧げられて以來引續き今日に至つてゐる。此の間創立初年に山本組長始め組合全員が關東を、二年目には同じく關西の兩業界を視察して、組合向上發達の資に供したる外、爾來昨年迄三ヶ年間、毎年一回宛徒弟製作品競技會を開催して技能の純磨と向上を圖りつゝあるから、何れ本年も近く開催されるであらう

それかあらぬか同地は近時傾に家具の整備を高め、製品の優  
秀なる事は縣下第一の稱さへあり、生産額も累年増加の傾向  
を示して、昨九年度の如きは、年産額三十有五萬圓を算する  
に至つた。右各種事業に關しては市當局も大いに理解し援助  
を惜まないから、其の後援は更にそれへ拍車をかけて、静岡  
木工界に見る如く、明日の進展を約束してゐる。

### 第二節 桑名郡桑名町

#### 第一款 和 家 具

##### 第二項 桑名篋筒長持商組合

桑名篋筒長持商組合は、その前身を桑名郡漆器製造販賣業  
組合と稱し、明治三十三年八月十七日附、時の三重縣知事小  
倉信近氏より之が設置の件認可を得たのに創まる。始め久村  
源助氏外五、六名に依り組織されたもので、初代組長も久村  
源助氏であつた。従來同地は桑名篋筒の名を以て縣下、近縣  
に君臨し、古くから其の聲價を高めつゝある丈に、各地共團

体的組合意識の頗る幼稚乃至全然欠けてゐた頃から、既に公  
認の組合を組織して對内外に處してゐた。

所が更に時代に即した文字通り協力一致團結の必要がある  
と爲し、大正十年頃より所謂急進派の動きを見るに至り、同  
十二年一月總帥相原清六氏外八名は桑名篋筒信用購買販賣利  
用組合を創立、之が設置の認可を得て桑名縣前に工場を新築  
し、同年四月より大規模に依る組織的篋筒の製作を繰返した  
同組合は最初頗る好成績であつたが、其の後引續く不況風に  
煽られて不採算の爲め、大正十五年遂に解散の運命に陥り、  
出資金額は各組合員に分配した。爾來同工場は相原氏の個人  
経営に移り、漸く其の影をさめてゐる。同組合解散後急進  
派も元の古業にかへり、現在に改稱復興するに至つた。而し  
て今年即ち昭和十年一月十四日午後七時より、鍛冶町觀音寺  
に於て開催された新春定時總會に於て役員の改選を行ひ、選  
舉の結果

▼組長相原清六▼副組長佐藤喜三郎▼會計久村源助▼評議  
員栗山清次郎、三林榮助、佐藤徳次郎、佐藤孫太郎  
の諸氏が當選、就任して今日に及んでゐる。

## 第四章 靜岡縣

### 第一節 靜岡市

#### 第一款 和 家 具

##### 第一項 靜岡漆器指物同業組合

靜岡市は東海道中部に位し、北に富士の靈嶽、赤石の秀峰を負ひ、南に駿河灣を抱きて風光絶佳  
氣候概ね温和にして、三伏も雖も酷烈蒸るが如きことなく、嚴寒も雖も積雪を見ることは殆んど稀  
である。又附近景勝の地勢なく、此の點靜岡の名に反かない。古へは駿河の國府にして、州守  
世々此の地に在り、後世には徳川家康の隱居地にして、一時天下の實權が此處に在つたこと云はれて  
ゐる。今や同地は商工業頗る殷盛にして殊に漆器、家具、建具、鏡臺、指物、竹細工、塗下駄、雜  
道具、製茶、柑橘等々はその特産物にして、産額は全國的に冠たるものがある。右の中漆器につい  
て筆を進め、他はしばらく之をおく。

靜岡市は、徳川幕府中世の頃に至る迄漆器の生産なく、單  
に駿河國安倍山中より産する良質なる竹を以て單純なる竹細  
工を生産してゐたものであるが、今より約三百年前即ち寛永  
十一年徳川三代將軍家光公が、駿河山に淺間神社を造営する

に當り其の構造一に美を盡し麗を競つて、殿材の悉くを命張  
にして委め、専ら髹漆を使用したものである。時に各地より  
髹漆の名工を召寄せて社殿の塗裝に従事せしめた。従つて髹  
工は數年間同地に住居した。が神社の造営が終つてのちも更

に静岡の風土を好んで同地に永住するものがあつた。而して之等少數の名工は、僅に製作を以て口を糊し、且彼の竹細工の籠に春慶塗を施して實用を兼た美を副へ次いで小物品を製し、三商肆の肆店に陳列をして販賣した。之に依り漸く進歩の運びに赴き、益々其の規模を擴め、東海道を通行する諸侯の需要を待つに至つた。此の間天保十三年（或ひは明和元年）土佐屋久七氏なる商人が漆器店を開業した。而して當時清水港の便船に依り旺に江戸へ移出したものである。従つて需要の増加に依り、之が製作の如きも漸く發達するに至つた時に享保年間紀侯吉宗入りて宗家を繼ぐに方り、大いに江戸の弊政を改革し、江戸に於ける商業を類別して其の從業者を分つて十組とした。故に移入品も又十組中の營業者と特約し且類別中の物品ならざる可からざるの制を採つてゐた。が幸ひにも静岡漆器は其の選中にあつたので、愈上販路の擴張が出來た。のみならず其の運搬方法の如きも、特に幕府より船舶を賜り、號を御用船と稱してゐた。而して此の御用船は浦賀番所の検査さへ要せざるの勢ひを持つに至つた。斯くの如

きは静岡漆器の存在が認められた一大進歩の象徴を裏書するものである。従つて之が原因を爲して其の後競つて漆器商が出現し、同時に髹工及び其他諸職工も又益々増加した。それ迄の静岡蒔繪は、紋蒔繪と稱して單に諸器具の紋所、又は幕府の御用單筒、長持等々に對する唐草模様の如きものを畫がいたに過ぎなかつた。が文政六年（？）に稱する甲州の畫伯が巡歴して同地に中川專藏氏を訪ひ、詳に蒔繪術を傳授した。殊に現今静岡蒔繪の特技とせる蒔繪研出の秘法は、此の時傳へたものである。故に之が基因となつて廣く其の術を施すやうになり、花鳥及び草木等の蒔繪が現はれた。次いで弘化、嘉永の頃、野呂伊左衛門氏なる人があつて専ら漆器業を營んでゐた。時に同人は色青貝の法を得むと欲して私に研究してゐた。而して其の研究多年に渉り、相當苦心をしたもの、不幸良好の成績を見るに至らなかつた故に之が研究を完成せむとして資を投じ、自己の職工嘉七なるものを京、阪に遣る事前後數次に及び、漸く素志を達するに至つた。其の後海外貿易を開くに方り、當時同製品は大い

に外客の嗜好を得たものである。嘉永三年偶々外國船が豆州下田に泊するや、同業者は競つて之に販賣を試みた。其の結果大いに賞讃を博して聲價を高めるに至り、茲に於て漆器貿易の端緒を啓いたものである。續いて安政五年九月相州横濱の市場さなるに及び、幕府の命に依り駿府町奉行は當地漆器商を勸誘して同港に支店を開かしめ、以て貿易を旺にせんとした。之に依り相次いで開店するものもあれば、共同支店を設置する者等々あつて、益々産額の増加を見るに至つた。右は即ち静岡漆器發達の第二段階共観らる可きもので、爾來明治年間及んで専ら其の製造に改良を加へ、漸く外客の嗜好を探究して之に迎合するを得た而して所謂貿易漆器なる一種の業術がある事を見出すに至り次いで明治二十年始めて静岡漆器組合を組織し、以て業者並に製品の統一を圖つて益々時代の趨勢に順應した。

右組合は明治廿七年九月十九日農第一六六號を以て農商務省より組合規約追加條項の認可指令に接してゐる外、同年十月二十三日同じく農第一八二號にて規約更正、翌二十八年六月十日同じく農第一五二號に依り規約追加、同二十四日農第一六二號にて組合細則設定の件、の各認可を得てゐる。現在の静岡漆器指物同業組合は

▼小澤誠一、永倉兵右衛門、岩本庄吉、矢澤久左衛門、海野善次郎、佐藤吉右衛門

の諸氏が組合設立發起人認可を申請、而して明治三十二年十月二十五日農第七三三二號を以て認可指令に接してゐる。故に右發起人數氏は、之が實現につとめた結果翌三十三年五月重要物産同業組合法に依る同業組合として認可を得たもので之が即ち現静岡漆器指物同業組合である。事業の主なるものは、組合員の從業員を奨励する爲め優良店員、徒弟奨励會を大正二年以來引續き毎年一回宛五、六月に開催し、回を重ねる事既に十九回、毎年約百五十名の被表彰者を出しつゝあり、之が通算約三千人の多數に上つてゐる。而して、更に今年即ち昭和十年も、將に其の第二十回が開催されむとしてゐる。組合員は現在約一千二百名を擁し、從業員四千八百名を合する時は、約六千名の多數に上り、最近年産額は一千七百八十萬圓を算してゐる。斯くの如く同組合は歴史に於て、其

の質に於て、更に量に於て斷然東海隨一の王座を占むる漆器指物業者の大同團體である。

### 第二款 和家具並洋家具

#### 第一項 静岡建具家具業組合

静岡建具家具業組合は、その前身を、静岡建具同業組合と云つてゐた。が茲で少しく註釋しなくてはならぬ事は、名稱中に同業の字句が入つてゐる事それである。之は重要物産同業組合法に依る所謂同業組合ではなく、單に同業者の集團なるが故に然うした深い意味も無く莫然同業の文字を使用した迄で、即ち重要物産同業組合法に依るもの以外、之が同業の文字を使用すべからざるものである事が、認識されてゐなかつた結果で、同市に漆器指物同業組合のあるのに做つて譯も無く使用したものであらう。而して其の所謂建具同業組合は更に、之を探究すると、公明會(?)と云つたもので、此の公明會が明治二十七年、八年には既に存立してゐたから、恐らくそれ以前に設立されたものである水丈は明かである。が

それ以前の事は目下の所判明してゐないから、之が調査、研究は後日に譲るゝとして、兎もあれ右の如く建具業者の團體たる公明會が生れ、公明會は更に明治四十年の頃、所謂静岡建具同業組合となり、之が約十年程繼續されてゐた。而して大正五年末

#### ▼小長井徳、兼田菊次郎、仁科朝次郎

の三氏が役員に擧げられて組合の擴大強化を圖り、當時僅か三十二、三名の組合員であつたが洋家具業者をも網羅して約百名に増加せしめ、同時に静岡建具家具業組合と改稱した。次いで初川金藏氏外五名が發起のうちに、愈よ正式の重要物産同業組合法に依る、之が準則組合の設立に向つて動き出し先づ右の設立發起人の認可を得たる後、其の實現に向かつて善處したる結果、大正十年十月、時の静岡縣知事より認可指令に接してゐる。而して初代組長には初川金藏氏が擧げられし外長谷萬次郎、鈴木茂三郎氏等々を経て、數年前よりは富士木工株式會社の社長たりし磯ヶ谷利平氏が其の要職に就き女房役の副には、古くから同地建具業界に盡瘁を惜まない小長井徳氏が其の衝に方り萬全を期してゐる。事業としては毎

年展覽會を年中行事の一として開催する外店員、徒弟の向上を圖る見地より、建具家具圖案及び製作上に於ける技術の講習會等々を、縣市當局後援下に開催しつゝあるが、尙市勸業課の囑託により、各地業界を視察する等、縣市當局の熱心なる指導と後援が大いに與る所ではあらうが、到底近縣に見る能はざる熱心眞摯と更に進取的勇氣があつて、斷然木工王國静岡を偲はせるに足る雰囲気、此の組合からものぞき得るもので、東海近縣下に王座を占め、現在年産額約一百万圓を産し、更に明日の進展を約束してゐる。

### 第二節 濱松市

#### 第一款 和家具

##### 第一項 濱松建具業組合

濱松建具業組合は、明治二十三年太子講會の出現に端を發して今日に至つてゐる。當時組合員は  
山本鐵次郎、中村治助、清水庄作、小川多藏、増井金藏、

本多萬吉、渡邊清治郎、伊熊兼吉、野澤源吉、河合利吉、都築七郎、坂田健吉、鈴木健次郎、中川政平、平柳健次郎、山口樹次郎、中村伊助、藤田源次郎、石井平藏、森嶽太郎、磯部萬次郎、川村多吉、菊地善吉、小山惣太郎、寺田清吉の二十五名であつた。右の中一、二を除いた外は既に存命者では無い。

### 第三節 沼津市

#### 第一款 洋家具

##### 第一項 沼津家具業組合

沼津家具業組合は、和家具即ち簞笥並に洋家具及び建具一部の業者により構成され、同地大火後の大正三年に發起人内田五平、片山小三郎氏等に依り沼津簞笥商組合を設立したのに始まり、之が即ち前身である。當時組合員は僅か六名であつたが、關東大震災後大正十三年十月内田五平、土屋又次郎兩氏發起のうちに、洋家具及び建具の一部を網羅して組合の擴大を圖り、同時に現沼津家具業組合と改稱したものであ

る。而して之が初代組長には、土屋又次郎氏が擧げられ、次いで二代目組長には内田五平氏が推された。當時は役員任期が一ケ年であつたが、之を七ケ年七期に涉つて内田氏は其の要職に在つた。越えて昭和六年の總會で従来の役員任期一ケ年を二ケ年に定款の變更をしてゐる。昨年即ち昭和九年度は初代組長であつた土屋氏が再度組長の要職に在つた所不幸歿してゐる。此間事業としては昭和二年市並に商工會議所兩後援下に、本町中村演藝館に於て沼津家具展覽會を開催し、同市家具の登價を高めたる外製作並に塗裝に關する技術講習會等を開催し、之が向上發展の資に供してゐる。

## 第二款 和 家 具

### 第一項 沼津建具組合

沼津建具組合はそのかみが太子講會であつた。此の太子講會は明治二十年前に出来てゐた云はれてゐるがさたかでは無い。而して明治、大正は過ぎてから杉山重太郎、杉本龜太

郎兩氏發起にて昭和六年八月十五日現建具組合の創立總會を開き、而して之を設立したものである。爾來年三回總會を開いて相互の親睦を圖ると共に、業務の向上發展を劃しつゝある。此の間去る大正十二年の關東大震災に當り、御殿場の罹災同業者に、越えて昭和七年大宮の大火には同じく同地の同業者に各見舞金一封宛を組合より贈る等、同業の親善を圖つてゐる外各地状況を洞察して業界發展の資に供してゐる。從來同地の建具は、静岡及び清水方面より移入を受けてゐたが、大正十二年の關東大震災後は専ら建具の製作旺盛になり、現今では大体に於て自給自足の域に達してゐる。

特 輯 全國商工機關案内

第一章 全國商工會議所 (イロハ順)

第一節 內地

| 名 稱     | 所 在 地               | 設 立 年 月 日 | 大 阪 同 | 岡 崎 同 | 大 津 同 | 大 垣 同 | 岡 山 同 | 尾 道 同 | 小 倉 同 | 大 分 同 | 沖 繩 同 | 大 牟 田 同 | 和 歌 山 同 | 若 松 同 | 川 越 同 | 金 澤 同 | 鹿 兒 島 同 | 唐 津 同 | 橫 濱 同 | 橫 須 賀 同 | 四 日 市 同 | 米 子 同 | 高 田 同 | 高 崎 同 |
|---------|---------------------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|---------|-------|-------|-------|
| 一宮商工會議所 | 一宮市大字一宮             | 大正 九・四・一  | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 八王子同    | 八王子市本町六六            | 明治二七・八・二七 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 濱松同     | 濱松市利町               | 同 二六・四・二七 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 博多同     | 福岡市四洲町              | 同 二四・七・二五 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 函館同     | 函館市鶴岡町一             | 同 二八・九・二七 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 新潟同     | 新潟市上大河通七番町二三四三同     | 二九・七・二五   | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 別府同     | 別府市大字別府             | 昭和 四・二・四  | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 東京同     | 東京市麹町區丸ノ内三ノ一四       | 明治二四・一・二二 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 栃木同     | 栃木縣下都賀郡栃木町大字同部二二四三同 | 二六・七・二二   | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 豊橋同     | 豊橋市花田町              | 同 二六・三・二五 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 富山同     | 富山市總曲輪四七二           | 同 二六・四・二二 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 鳥取同     | 鳥取市藪片原町             | 大正一三・二・一三 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 德島同     | 德島市船場町七八            | 明治三〇・一・二五 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 戶畑同     | 戶畑市                 | 昭和 七・二・二七 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 知多同     | 愛知縣知多郡半田町名切六〇五      | 明治二六・九・一八 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 沼津同     | 沼津市城内               | 大正一四・一・一七 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |
| 小樽同     | 小樽市                 | 明治二八・一・二二 | 大阪同   | 岡崎同   | 大津同   | 大垣同   | 岡山同   | 尾道同   | 小倉同   | 大分同   | 沖繩同   | 大牟田同    | 和歌山同    | 若松同   | 川越同   | 金澤同   | 鹿兒島同    | 唐津同   | 橫濱同   | 橫須賀同    | 四日市同    | 米子同   | 高田同   | 高崎同   |

大阪市北區安島通二ノ一二

岡崎市

大津市阪本町四四

大垣市郭町

岡山市内山下三二

尾道市土堂町

小倉市島町六三

大分市

沖繩縣那西市通三ノ一二

大牟田市旭町一ノ一

和歌山市西汀町

若松市明治町

川越市大字川越六四

金澤市四町一番町一八同

鹿兒島市築町五

佐賀縣唐津市

橫濱市

橫須賀市

四日市市濱町一五四

米子市加茂町

高田市大町三ノ五二

高崎市九歲町七



|       |                 |          |         |      |            |    |         |
|-------|-----------------|----------|---------|------|------------|----|---------|
| 高岡同   | 高岡市利屋町一         | 同        | 二九・二・一九 | 釧路同  | 釧路市        | 同  | 一三・二・二七 |
| 高松同   | 高松市古新町          | 同        | 四二・五・三一 | 倉敷同  | 倉敷市倉敷九八九   | 昭和 | 四・二・二   |
| 高知同   | 高知市中島町三四二       | 同        | 二四・六・五  | 久留米同 | 久留米市篠山町二   | 明治 | 三二・六・八  |
| 津同    | 津市大門町           | 同        | 二六・五・一〇 | 熊本市  | 熊本市行幸町     | 同  | 二四・七・五  |
| 鶴岡同   | 鶴岡市馬場町          | 昭和       | 四・七・一   | 山形同  | 山形市旅籠町     | 同  | 三〇・一・二二 |
| 津山同   | 津山市             | 同        | 五・四・八   | 八幡市  | 八幡市大字尾倉西濱町 | 昭和 | 三・〇・一八  |
| 敦賀同   | 關井縣敦賀郡敦賀町富三〇    | 明治       | 四〇・四・三〇 | 前橋同  | 前橋市本町三九    | 明治 | 三一・一・二二 |
| 都城同   | 都城市             | 昭和       | 四・二・一九  | 松本市  | 松本市南深志町五六二 | 同  | 四一・六・六  |
| 長崎同   | 長崎市邊町一ノ二        | 明治       | 二六・三・二七 | 松江市  | 松江市殿町      | 明治 | 二七・三・一六 |
| 長岡同   | 長岡市坂上町一ノ六二      | 明治       | 三八・三・七  | 松山市  | 松山市末廣町     | 大正 | 一〇・二・二六 |
| 直江津同  | 新潟縣中頸城郡直江津町     | 同        | 三二・一・一一 | 福島市  | 福島市        | 同  | 六・七・二八  |
| 名古屋同  | 名古屋市中區大池町四同     | 二・三・三・二六 | 三・三・二六  | 福井市  | 福井市錦上町六八   | 明治 | 二六・八・二五 |
| 長濱同   | 滋賀縣阪田郡長濱町       | 昭和       | 六・三・二三  | 福山市  | 福山市府中町庚三ノ一 | 昭和 | 四・八・三〇  |
| 長野同   | 長野市綠町           | 明治       | 三三・五・一四 | 神戸市  | 神戸市海岸通一ノ一六 | 明治 | 二三・三・九  |
| 中津同   | 中津市             | 昭和       | 八・四・二五  | 甲府市  | 甲府市柳町七三    | 同  | 四一・二・一七 |
| 室蘭同   | 室蘭市常盤町二         | 大正       | 一三・二・六  | 旭川市  | 旭川市六條通一〇   | 大正 | 八・八・六   |
| 宇都宮同  | 宇都宮市旭町一ノ三三      | 明治       | 二六・八・一一 | 明石市  | 明石市大明石町    | 同  | 一五・二・二〇 |
| 宇治山田同 | 宇治山田市大字岩淵町      | 昭和       | 三・九・一三  | 青森市  | 青森市新濱町三一   | 明治 | 二六・三・二三 |
| 上田同   | 上田市大字上田         | 明治       | 二八・三・二七 | 秋田市  | 秋田市大町三     | 明治 | 四〇・三・二〇 |
| 宇都同   | 宇都市大字中宮郡神ノ山三二ノ四 | 昭和       | 九・一・一五  | 札幌市  | 札幌市北一條西三ノ一 | 同  | 三九・〇・九  |
| 郡山同   | 郡山市             | 大正       | 一四・八・二九 | 堺市   | 堺市甲斐町      | 大正 | 一四・九・三〇 |
| 吳同    | 吳市堺川通           | 同        | 一三・八・二一 | 佐世保同 | 佐世保市松浦町一   | 同  | 一三・八・二一 |

|         |                     |    |         |
|---------|---------------------|----|---------|
| 酒田同     | 酒田市本町四ノ一七           | 明治 | 三〇・四・三〇 |
| 佐賀同     | 佐賀市松原町一〇八           | 同  | 二九・九・二九 |
| 京都同     | 京都市中區烏丸通夷川上ル少將井町二四〇 | 同  | 二四・三・七  |
| 岐阜同     | 岐阜市美江寺町             | 同  | 二三・二・二六 |
| 水戸同     | 水戸市上市北三九一九          | 同  | 二九・六・一九 |
| 宮崎同     | 宮崎市川原町              | 昭和 | 四・二・一三  |
| 延岡同     | 宮崎縣延岡市              | 昭和 | 九・九・一二  |
| 靜岡同     | 靜岡市本通一ノ一二           | 明治 | 二五・七・一二 |
| 清水同     | 清水市                 | 昭和 | 五・五・三〇  |
| 下關同     | 下關市大字西之端町           | 明治 | 二四・九・九  |
| 姫路同     | 姫路市本町二六             | 大正 | 一一・七・一二 |
| 弘前同     | 弘前市大字上箱師町           | 明治 | 四〇・三・二七 |
| 廣島同     | 廣島市猿樂町宮有二           | 同  | 二四・一・一二 |
| 盛岡同     | 盛岡市大字仁王第一地割字内九      | 大正 | 一四・二・二二 |
| 門司同     | 門司市大字門司七            | 同  | 九・一〇・二六 |
| 仙臺同     | 仙臺市東二番町八九           | 明治 | 二四・六・二四 |
| 日本商工會議所 | 東京市麴町區丸ノ内三ノ一四       |    |         |

第二節 樺太

名 稱 豊原商工會議所

所在地 豊原町東一條南四ノ二

|           |                   |  |  |
|-----------|-------------------|--|--|
| 知取同       | 知取町字幸町一丁目         |  |  |
| 大泊同       | 大泊町字本町西一條南五ノ二     |  |  |
| 眞岡同       | 眞岡町大字眞岡字山手町       |  |  |
| 名 稱       | 第三節 朝鮮            |  |  |
| 平壤商工會議所   | 所在地 平壤府山手町三四      |  |  |
| 元山同       | 元山府               |  |  |
| 鎮南浦同      | 鎮南浦府三和町三二         |  |  |
| 大邱同       | 大邱府錦町一ノ一          |  |  |
| 群山同       | 群山府明治町九八          |  |  |
| 京城同       | 京城府長谷川町一一一        |  |  |
| 釜山同       | 釜山府西町一ノ九          |  |  |
| 木浦同       | 木浦府仲町二ノ一          |  |  |
| 仁川同       | 仁川府山手町三ノ三         |  |  |
| 新義州同      | 新義州府              |  |  |
| 清津同       | 清津府敷島町            |  |  |
| 朝鮮商工會議所   | 京城府長谷川町(京城商工會議所内) |  |  |
| 名 稱       | 第四節 支那            |  |  |
| 哈爾日本商工會議所 | 所在地 哈爾濱埠頭區モストワヤ街  |  |  |

奉天商工會議所  
長春同  
青島日本同  
漢口日本同  
營口商業會議所  
天津日本同  
鐵嶺商工會議所  
安東同  
上海日本同

### 第五節 關東州

名 稱 所在地  
大連商工會議所 大連市敷島町八二

## 第二章 全國商品陳列所 (イロハ順)

### 第一節 內地

名 稱 所在地  
石川縣商品陳列所 金澤市兼六公園內  
岩手縣商工館 盛岡市內丸  
濱松市商品陳列所 濱松市傳馬町

新潟縣物產紹介所

府立東京商工獎勵館  
栃木縣同

富山市商品陳列所

德島縣物產販賣館

鳥取縣商工獎勵館

大阪府立貿易館

岡山縣立商工獎勵館

大分縣殖産館

知歌山縣商品陳列所

香川縣同

鹿兒島市商工獎勵館

橫濱市同

高岡市商品陳列所

奈良縣立商工館

長崎市商工獎勵館

長野縣商品陳列所

熊本縣商工獎勵館

群馬縣商品陳列所

山形縣物產紹介所

福井縣商品陳列所

福岡縣產業獎勵館

新潟市學校町通一番地

東京市麴町區丸ノ内三丁目

宇都宮市塙田町

富山市總曲輪

德島市德島公園內

鳥取市西町

大阪市東區內本町橋詰町

岡山市弓ノ町

別府市公園內

和歌山市番町

高松市栗林公園內

鹿兒島市山下町

橫濱市中區日本大通

高岡市櫻馬場

奈良市春日野町

長崎市爐箱町

長野市城山公園內

熊本市花畑町

前橋市曲輪町

山形市七日市

福井市照手下町

福岡市天神町

福島縣商品陳列所

神戶商工會議所重要輸出品陳列所 神戶市神戶區海岸通

高知縣商品陳列所

愛媛縣同

愛知縣同

秋田縣物產館

埼玉縣物產紹介所

佐賀縣商工獎勵館

岐阜縣物產販賣館

三重縣商品陳列所

宮城縣商工獎勵館

靜岡市同

滋賀縣物產販賣館

島根縣商品陳列所

廣島縣產業獎勵館

福島市本町

高知市帶屋町

松山市一番町

名古屋市中區新榮町三

秋田市土手長町

埼玉縣浦和町埼玉會館內

佐賀市松原町

岐阜市司町

宇治山田市本町

仙臺市勾當臺通

靜岡市追手町

大津市東浦

松江市殿町

廣島市猿樂町

忠清南道物產陳列所

忠清北道同

咸鏡南道商品陳列所

咸鏡北道物產陳列場

慶尙南道產業獎勵館

慶尙北道商品陳列所

江原道物產陳列所

全羅南道商品陳列所

全羅北道同

黃海物產陳列館

大田郡大田邑

清州郡清州邑

咸興府昭和町一丁目

鏡城郡羅南邑

金山府大倉町

大邱府上町

春州郡春州邑

光州郡光州邑

全州郡大正町

海州郡北本町

臺北市南門町六丁目

臺中市大正町

臺南市大正町

高雄市山下町一

新竹市東門外

平安南道商品陳列所  
平安北道物產陳列所  
安東商品陳列所  
朝鮮總督府商工獎勵館

### 第二節 朝鮮

平壤府南町

新義州府榮町

安東大和橋通

京城府南大門通四丁目

### 第四節 滿洲

哈爾濱商品陳列館

愛知縣哈爾濱貿易館

日滿貿易商品陳列所

哈爾濱道裡斜紋街

哈爾濱道裡石頭道街六五

奉天千代田通

名古屋市立商品紹介所

奉天加茂町五

第五節 南洋

南洋廳物産陳列所

パラオ諸島コロール島

第三章 全國工業試驗場 (イロハ順)

- | 名           | 稱 | 所在地          |
|-------------|---|--------------|
| 茨城縣工業試驗場    |   | 茨城縣結城郡結城町    |
| 石川縣 同       |   | 金澤市長土塀町五番地   |
| 濱松 同        |   | 濱松市北寺島町      |
| 新潟縣麻織物試驗場   |   | 新潟縣北魚沼郡小千谷町  |
| 同 木工試驗場     |   | 新潟市附船町       |
| 同 染織試驗場     |   | 新潟縣南蒲原郡見付町   |
| 北海道工業試驗場    |   | 札幌郡琴似村       |
| 東京工業試驗所     |   | 東京市澁谷區幡ヶ谷本町一 |
| 東京工業試驗所第六部  |   | 同 目黒區中目黒町一   |
| 富山縣工業試驗場    |   | 高岡市中川        |
| 同 染織試驗場     |   | 富山縣東礪波郡福野    |
| 陶磁器試驗所      |   | 京都市伏見區深草正覺町  |
| 德島縣工業試驗所    |   | 德島縣          |
| 陶磁器試驗所瀬戸試驗場 |   | 愛知縣瀬戸市       |
| 砥部町窯業試驗場    |   | 愛媛縣伊豫郡砥部町    |

- |            |               |
|------------|---------------|
| 朝鮮總督府中央試驗所 | 京城府東崇洞        |
| 大阪工業試驗場    | 大阪市西淀川區大江西三丁目 |
| 大阪府立工業獎勵館  | 大阪市西區江ノ子嶋上之町  |
| 大阪市立工業研究所  | 同 北區北扇町       |
| 岡山縣工業試驗場   | 岡山市南方堤外       |
| 大分縣 同      | 大分市鶴舞町        |
| 尾張染織試驗場    | 愛知縣中島郡大和村大字馬引 |
| 和歌山工業試驗場   | 和歌山市一番町一番地    |
| 神奈川縣 同     | 橫濱市神奈川區龜住町一   |
| 香川縣 同      | 高松市花ノ宮町       |
| 鹿兒島縣 同     | 鹿兒島市原良町一三一五ノ一 |
| 米澤 同       | 米澤市花田町        |
| 臺灣總督府中央研究所 | 臺北市幸町         |
| 奈良縣工業試驗場   | 奈良縣北葛城郡高田町    |
| 長野縣 同      | 松本市榮町         |
| 同 窯業指導所    | 長野縣東彼杵郡上波住見村  |
| 群馬縣工業試驗場   | 前橋市岩神町        |
| 久留米 同      | 久留米市津淵本町      |
| 山梨縣 同      | 山梨縣南都留郡谷村町    |
| 山形縣 同      | 山形市新築西通       |
| 同 鶴岡 同     | 鶴岡市家中新町       |
| 山口縣 同      | 山口市下堅小路       |

- |            |               |
|------------|---------------|
| 同 染織試驗場    | 山口縣玖珂郡柳井町     |
| 京都府織物試驗所   | 京都市中野吉原町      |
| 京都市染織試驗場   | 京都市上京區烏丸通立賣上ル |
| 京都市立工業研究所  | 同 下京區東九條山王町   |
| 福島縣工業試驗場   | 福島縣信夫郡渡利村     |
| 福島縣會津 同    | 若松市           |
| 福井縣 同      | 福井縣吉田郡圓山西村    |
| 福岡 同       | 福岡市堅粕町中ノ嶋     |
| 福岡縣福島 同    | 福岡縣八女郡福島町     |
| 工藝指導所      | 仙台市二十人町通      |
| 愛媛縣工業試驗場   | 松山市澤          |
| 青森縣 同      | 弘前市袋町         |
| 秋田縣 同      | 秋田市土手長町       |
| 埼玉縣秩父工業試驗場 | 埼玉縣秩父町中府      |
| 同 川越 同     | 川越市           |
| 同 熊谷 同     | 埼玉縣大里郡熊谷町     |
| 同 熊谷 同浦和分場 | 同北足立郡浦和町      |
| 佐賀縣第一窯業試驗場 | 佐賀縣西松浦町有田町    |
| 同 第二窯業試驗場  | 同 藤波郡埴田町      |
| 岐阜縣工業試驗場   | 岐阜縣羽島郡笠松町     |
| 絹業試驗所      | 橫濱市神奈川區澤渡     |
| 三重縣工業試驗場   | 津市下部田町        |

南滿洲鐵道株式會社中央試驗所 大連市伏見一二番地  
 宮城縣工業試驗場 仙台市勾當台通り  
 靜岡縣靜岡 靜岡市南安東  
 鳥根縣 同 松江市殿町  
 滋賀縣能登川 同 滋賀縣神崎郡五峰村  
 同 長濱 同 同 坂田郡長濱町  
 兵庫縣神戸 同 神戸市山手通り四丁目  
 廣島縣福川 同 福山市西町  
 同 廣島 同 廣島市東白鳥町一九六

**備考** 右の中醸造その他本覽に關係無き試驗場は之を省略せり。

東海家具指物漆器總覽

昭和十年版

昭和十年四月十五日印刷  
昭和十年四月廿五日發行

定價參圓 (送料十六錢)

著作兼發行者 瀨見井信一  
名古屋市東區千種町西裏三四番地

印刷者 山本靜雄  
名古屋市東區千種町丸田四九番地

印刷所 山本印刷所  
名古屋市東區千種町丸田四九番地



不許  
複製

名古屋市東區千種町西裏三四番地

發行所 名古屋家具指物新聞社

振替名古屋八二九八番

第五篇 營業案内